Ⅶ　管路施設（仮設工）編

目次

Ⅶ　管路施設（仮設工）編　代価構成表

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
下水道分野 共　　通				
	仮設工			LA－11
		工事用道路工		
			工事用道路盛土	＊
			安定処理	＊
			敷砂利	
			敷鉄板	＊
			仮設舗装	＊
			仮設アスカーブ	＊
			舗装版切断	＊
			舗装版破砕	＊
			工事用道路補修	＊
			土のう	＊
			土のう積	＊
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
		仮橋・仮桟橋工		＊
			床掘り(掘削)	＊
			床掘り	＊
			埋戻し	＊
			基面整正	＊
			掘削補助機械搬入搬出	＊
			転石破砕	＊
			積込(ルーズ)	＊
			人力積込	＊
			人力運搬	＊
			押土(ルーズ)	＊
			整地	＊
			土砂等運搬	＊
			残土等処分	＊
			土材料	＊
			仮橋コンクリート基礎	＊
			橋脚	＊
			仮橋上部	＊
			覆工板設置・撤去	＊
			仮設高欄	＊
			コンクリート構造物取壊し	＊
			積込(コンクリート殻)	＊
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
			鋼管杭	＊
			現場取卸(鋼管杭)	＊
			防舷材	

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		路面覆工		
			覆工板受桁	＊
			覆工板設置･撤去	＊
			覆工板･覆工板受桁	＊
		土留･仮締切工		
			溝掘り	＊
			鋼矢板	＊
			広幅鋼矢板	＊
			軽量鋼矢板	＊
			H鋼杭	＊
			削孔（アンカー）	＊
			アンカー鋼材加工･組立･挿入･緊張･定着･頭部処理(アンカー)	＊
			グラウト注入	＊
			ボーリングマシン移設	＊
			アンカー工材料費（アンカー）	＊
			足場（アンカー）	＊
			タイロッド･腹起し	＊
			切梁･腹起し	＊
			横矢板	＊
			盛替梁	＊
			じゃかご	＊
			ふとんかご	＊
			土のう	＊
			土のう積	＊
			締切盛土	＊
			締切盛土撤去	＊
			泥土処理	＊
			中詰盛土	＊
			中詰盛土撤去	＊
		水替工		
			ポンプ排水	＊
		地下水位低下工		
			ウェルポイント	＊
			ディープウェル	＊
		仮水路工		
			ヒューム管	＊
			コルゲートパイプ	＊
			暗渠排水管	＊
			フィルター材	＊
			素掘側溝	＊
			土のう	＊
			土のう積	＊
		残土受入れ施設工		
			土のう	＊
			土のう積	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		作業ヤード整備工		
			ヤード造成	＊
		電力設備工		
			受変電設備	＊
			配電設備	＊
			電動機設備	＊
			照明設備	＊
		防塵対策工		
			仮設舗装	＊
			タイヤ洗浄装置	
			路面清掃	＊
			散水	＊
		汚濁防止工		
			汚濁防止フェンス	＊
			濁水処理設備	＊
		防護施設工		
			切土及び発破防護柵	＊
			仮囲い	＊
		除雪工		
			現場内除雪（機械）	
			現場内除雪（人力）	
			仮囲い屋根部	＊
		雪寒施設工		
			ウェザーシェルター	
			雪寒仮囲い(Pタイプ)	＊
			雪寒仮囲い(W･PWタイプ)	＊
		法面吹付工		
			仮設用モルタル吹付	＊
		仮区画線工		
			仮区画線	＊
		防音工		LB－90
			仮設防音壁	LC－200
			仮設防音ハウス	LC－201
			仮設防音工基礎	LC－202
			仮設防音工換気照明設備	LC－203
		交通管理工		
			交通誘導警備員	＊

備考　1　摘要欄に＊印のあるものは、「**土木工事標準積算基準書**」によることを標準とする。

LA－11　仮設工

（一式）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
工 事 用 道 路 工		式	1			土木工事積算基準による
仮 橋 ・ 仮 桟 橋 工		式	1			土木工事積算基準による
路 面 覆 工		式	1			土木工事積算基準による
土 留 ・ 仮 締 切 工		式	1			土木工事積算基準による
水 替 工		式	1			土木工事積算基準による
地 下 水 位 低 下 工		式	1			土木工事積算基準による
仮 水 路 工		式	1			土木工事積算基準による
残 土 受 入 れ 施 設 工		式	1			土木工事積算基準による
作 業 ヤ ー ド 設 備 工		式	1			土木工事積算基準による
電 力 設 備 工		式	1			土木工事積算基準による
用 水 設 備 工		式	1			土木工事積算基準による
防 塵 対 策 工		式	1			土木工事積算基準による
汚 濁 防 止 工		式	1			土木工事積算基準による
防 護 施 設 工		式	1			土木工事積算基準による
除 雪 工		式	1			土木工事積算基準による
雪 寒 施 設 工		式	1			土木工事積算基準による
法 面 吹 付 工		式	1			土木工事積算基準による
仮 区 画 線 工		式	1			土木工事積算基準による
防 音 工		式	1			LB－90
交 通 管 理 工		式	1			土木工事積算基準による
計						

LB－90　防音工

（一式）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
仮設防音壁又は仮設防音ハウス		箇所				LC－200又はLC－201
仮 設 防 音 工 基 礎		箇所				LC－202
仮設防音工換気照明設備		式				LC－203
計						

LC－200　仮設防音壁

（１箇所当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
防 音 パ ネ ル 工		m2				LD－200－１
鉄 骨 工		t				LD－200－２
屋 根 ぶ き 工		m2				LD－200－３
計						○箇所当り
１ 箇 所 当 り						計／○箇所

１．適用範囲

（１） 本基準は、鉄骨枠組に吸遮音効果を有したパネルを組み込んだ防音壁を設置する場合の積算に適用する。

（２） 本基準のいう防音壁とは、騒音発生機械の外周部だけを防音パネルで囲った壁式構造のものと、天上部まで防音パネルで覆ってしまう建屋式構造のものを総称したものである。

２．防音壁の設計

防音壁は、音響及び構造検討を行った上で、最も経済的になるように設計する。

３．作業歩掛

（１）防音パネル工

１）採光パネル、人員用扉パネル、換気パネル等は、必要に応じて計上する。

２）パネルの損料は、次式による。

パネル１枚当り損料（円／枚）＝基準価格（円／枚）×損料率

３）パネル押さえボルトは、各パネルを固定するのに必要な数量を算出し、計上すること。

４）シーリング材は、各パネルの接合部の音漏れ防止に必要な数量を算出し、計上すること。

５）パネル取付及び取除の歩掛は、**表－200－１**とする。

表－200－１　パネル取付及び取除歩掛

（１日当り）

職　　種	土木一般世話役（人）	とび工（人）	普通作業員（人）	ラフテレーンクレーン賃料（日）	高所作業車運転（日）
パネル取付編成人員	1.0	5.6	2.4	1.0	1.0
パネル取除編成人員	1.0	1.0	2.0	1.0	1.0

備考１　本歩掛には、シーリング材貼付、パネル押えボルトの締付手間を含む。

２　１日当りパネル取付面積及び取除面積は、**表－200－２**を標準とする。

３　ラフテレーンクレーンの規格は、**表－200－３**を標準とする。

４　高所作業車の規格は、**表－200－４**を標準とする。

表－200－２　取付・取除面積　　（１日当り）

構　　造	取付面積	取除面積
壁　式　構　造	150m2	220m2
建　屋　敷　構　造	150m2	220m2

表－200－３　ラフテレーンクレーンの選定表

壁　　高	Ｈ≦２０ｍ
ラフテレーンクレーン規格	排出ガス対策型(第２次基準値) 油圧伸縮ジブ型　２５ｔ吊

表－200－４　高所作業車の選定表

防音壁の高さ	高所作業車の規格
Ｈ≦１３ｍ	トラック架装リフト・ブーム型（直伸・屈折式）作業床高さ　12m
１３ｍ＜Ｈ≦１５ｍ	トラック架装リフト・ブーム型（直伸・屈折式）作業床高さ　13～14m
１５ｍ＜Ｈ≦２０ｍ	トラック架装リフト・ブーム型（直伸・屈折式）作業床高さ　18～18.5m

（２）鉄骨工

鋼材質量（W）は基礎梁、主柱、間柱、コーナ柱、耐風梁、壁パネル押えアングル、大梁、小梁、屋根鋼材等の鋼材総質量（設計質量）とし、ボルトの質量、基礎杭の質量は含めないものとする。

１）鉄骨工場加工質量（Ｗ１）

鉄骨工場加工質量（Ｗ１）は、鋼材質量の（W）の85%とする。

２）鉄骨現場加工費

鉄骨現場加工質量は、鋼材質量（W）の15%とするが、その鉄骨現場加工費の積算にあたっては、ボルト総個数の15%のボルト孔あけ費を計上する。

なお、切断、溶接等が必要な場合は、別途考慮する。

３）工場溶接費

工場溶接延長（Ｌ）は、すみ肉溶接の眼長６㎜換算した延長であり、次式による。

Ｌ（m）＝W1×12m／ｔ

４）塗装費

鉄骨塗装面積（ａ）は、次式による。（住民などの要望により、仕上げ塗装を行う場合は、別途考慮する。）

ａ（㎡）＝Ｗ×24m2／ｔ

５）鉄骨工場加工費の歩掛は、**表－200－５**とし、鉄骨組立費の歩掛は、**表－200－６**とする。

表－200－５　鉄骨工場加工費歩掛　（１ｔ当り）

種　　目	鉄骨工（人）	諸雑費（%）
歩　　掛	1.4	19

表－200－６　鉄骨組立費歩掛　（１ｔ当り）

種　　目	土木一般世話役(人)	とび工（人）	普通作業員(人)	ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ（日）
歩　　掛	0.13	0.81	0.35	0.13

（３）屋根ぶき工

１）屋根鉄板材は、着色亜鉛鉄板（屋根用）を標準とする。
２）現場環境等で、別の屋根材を使用する場合は、別途考慮する。
３）屋根鋼材は、鉄骨工に含むこととし、ここでは計上しない。

（４）運搬費

防音パネル及び鋼材の運搬は、共通仮設費の「運搬費」に計上する。

（５）防音効果調査工

１）防音効果調査工は、次に掲げる項目について費用を計上することができる。

① 防音壁設置前の環境騒音測定。
② 防音壁設置後の騒音発生機械の騒音レベル測定。
③ 騒音発生機械停止時の暗騒音測定。
④ 計機類の調整。
⑤ 器具損料。
⑥ 報告書作成。
⑦ 資料整理。
⑧ その他必要な項目。

２）積算にあたっては、それぞれ必要項目を精査し、別途積上げで算出する。

３）防音効果調査工費は、共通仮設費の積算における率計算の対象外とする。

４．単価表

（１） 防音パネル工

LD－200－１　防音パネル工（防音壁）

施工単価コード	DGD50010

（１m2当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
パネル押えボルト		本				
シーリング材		m				
パネル取付費		m2				LE－200－１
パネル取除費		m2				LE－200－１
防音パネル損料		枚				
○○パネル損料		枚				
計						○○m2当り
1　m2　り						計／○○m2

LE－200－１　パネル取付及び取除費（防音壁）

施工単価コード	DGD50020

（１m2当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
土木一般世話役		人				表－200－１
と　び　工		人				表－200－１
普 通 作 業 員		人				表－200－１
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第２次基準値) 油圧伸縮ジブ型２５ｔ吊	日				表－200－１及び表－200－３
高所作業車運転	トラック架装リフト・ブーム型（直伸・屈折式） 作業床高さ○○m	日				表－200－１及び表－200－４
計						１日当り
１ m2 当り（取付）						計/１日当りパネル取付面積
１ m2 当り（取除）						計/１日当りパネル取除面積

機械運転単価表

機　　械　　名	規　　格	適用単価表	指　定　事　項
高　所　作　業　車	トラック架装リフト・ブーム型 （直伸・屈折式） 作業床高さ○○m	機－28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→18 機械賃料数量→1.4

（２） 鉄骨工

LD－200－２　鉄骨工（防音壁）

施工単価コード	DGD50030

（１ｔ当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
ブ　レ　ー　ス		式	1			
鋼　　板		式	1			
ボルト・ナット	Ｍ－○○ 首下○○㎜	式	1			
鉄骨工場加工費		t				LE－200－２
鉄骨現場加工費		式	1			
工　場　溶　接　費		m				LE－200－３
塗　　装　　費		m2				LE－200－４
組　　立　　費		t				LE－200－５
ボルト本締費		t				LE－200－６
解　　体　　費		t				組立費の５０％
鋼　材　賃　料		式	1			
計						○ｔ当り
１　ｔ　当　り						計／○ｔ

LE－200－２　鉄骨工場加工費（防音壁）

施工単価コード	DGD50040

（１ｔ当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
鉄　　骨　　工		人				表－200－５
諸　　雑　　費		式	1			備考　表－200－５

備考　諸雑費は、酸素、アセチレン、サービスボルト、補助鋼板の費用であり、労務費の合計額に19%を乗じた金額を上限として計上する。

施工単価コード DGD50050

LE－200－３　工場溶接費（防音壁）　（１ｍ当り）

種目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘要
溶接工		人	0.047			
諸雑費		式	1			備考
計						

備考　諸雑費は、溶接機の賃料、燃料油脂類及び溶接棒等の費用であり、労務費の合計額に26%を乗じた金額を計上する。

LE－200－４　塗装費（防音壁）

施工単価コード DGD50060

（１m2当り）

種目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘要
塗装工		人	0.028			
一般さび止めペイント	JIS K　5621　1種	kg	0.48			
計						

LE－200－５　組立費（防音壁）

施工単価コード DGD50070

（１ｔ当り）

種目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘要
土木一般世話役		人				表－200－６
とび工		人				表－200－６
普通作業員		人				表－200－６
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第２次基準値) 油圧伸縮ジブ型２５ｔ吊	日				表－200－３及び表－200－６
器具損料		式	1			労務費の０．２％
計						

LE－200－６　ボルト本締費（防音壁）

施工単価コード DGD50080

（鉄骨１ｔ当り）

種目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘要
鉄骨工		人	0.26			
とび工		人	0.19			
締付機器損料		式	1			労務費の2%
計						

（３）屋根ぶき工

LD－200－３　屋根ぶき工（防音壁）

施工単価コード DGD50090

（１m2当り）

種目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘要
板金工		人	0.04			
普通作業員		人	0.01			
着色亜鉛鉄板	厚0.4	m2	1.04			
フックボルト	φ6㎜	本	6			
計						

LC－201　仮設防音ハウス

（１箇所当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
防 音 パ ネ ル 工		m2				LD－201－１
鉄　　骨　　工		t				LD－201－２
計						○箇所当り
１ 箇 所 当 り						計／○箇所

１．適用範囲

（１） 本歩掛は、ユニットハウス形式の防音ハウスを設置する場合の積算に適用する。

（２） 本歩掛のいう防音ハウスとは、ユニットハウス形式で防音パネル（Ｂタイプあるいはｃタイプ）を使用し騒音発生機械を壁及び天井まで一体型で覆った構造のものを総称したものである。

２．防音ハウスの設計

防音壁は、音響及び構造検討を行った上で、最も経済的になるように設計する。

３．作業歩掛

（１）防音パネル工

１）採光パネル、人員用扉パネル、換気パネル等は、必要に応じて計上する。

２）パネルの損料は、次式による。

パネル１枚当り損料（円／枚）＝基準価格（円／枚）×損料率

３）パネル取付及び取除の歩掛は、**表－201－１**とする。

４）パネル取付の諸雑費は、パネル押さえボルト、シーリング材の費用とする。

５）工場溶接費の諸雑費は、溶接機の賃料、燃料油脂類及び溶接棒等の費用である。

表－201－１　パネル取付及び取除歩掛　（１日当り）

職　　種	土木一般世話役（人）	とび工（人）	普通作業員（人）	ラフテレーンクレーン賃料（日）	高所作業車運転（日）
パネル取付編成人員	1.0	6.3	2.7	1.0	1.0
パネル取除編成人員	1.0	4.2	2.1	1.0	1.0

備考１　本歩掛には、シーリング材貼付、パネル押えボルトの締付手間を含む。

２　１日当りパネル取付面積及び取除面積は、**表－201－２**を標準とする。

３　トラッククレーンの規格は、**表－200－３**を標準とする。

４　高所作業車の規格は、**表－200－４**を標準とする。

表－201－２　取付・取除面積　（１日当り）

取　付　面　積	210m2
取　除　面　積	260m2

（２）鉄骨工

鋼材質量（W）は基礎梁、主柱、間柱、コーナ柱、耐風梁、壁パネル押えアングル、大梁、小梁、屋根鋼材等の鋼材総質量（設計質量）とし、ボルトの質量、基礎杭の質量は含めないものとする。

１）鉄骨工場加工質量（Ｗ１）

鉄骨工場加工質量（Ｗ１）は、鋼材質量の（W）の95%とする。

２）鉄骨現場加工費

鉄骨現場加工質量は、鋼材質量（W）の5%とするが、その鉄骨現場加工費の積算にあたっては、ボルト総個数の5%のボルト孔あけ費を計上する。

なお、切断、溶接等が必要な場合は、別途考慮する。

３）工場溶接費

工場溶接延長（Ｌ）は、すみ肉溶接の眼長６㎜換算した延長であり、次式による。

Ｌ（m）＝W1×12m／ｔ

４）塗装費

鉄骨塗装面積（ａ）は、次式による。（住民などの要望により、仕上げ塗装を行う場合は、別途考慮する。）

ａ（m2）＝Ｗ×24m2／ｔ

５）鉄骨工場加工費の歩掛は、**表－201－３**とし、鉄骨組立費の歩掛は、**表－201－４**とする。

表－201－３　鉄骨工場加工費歩掛　　（１ｔ当り）

種　　目	鉄骨工（人）	諸雑費（%）
歩　　掛	1.3	15

表－201－４　鉄骨組立費歩掛　　（１ｔ当り）

種　　目	土木一般世話役（人）	とび工（人）	普通作業員（人）	ラフテレーンクレーン（日）
歩　　掛	0.11	0.49	0.22	0.11

６）工場溶接費の諸雑費は、溶接機の賃料、燃料油脂類及び溶接棒等の費用である。

（３）運搬費

防音パネル及び鋼材の運搬は、共通仮設費の「運搬費」に計上する。

（４）防音効果調査工

１）防音効果調査工は、次に掲げる項目について費用を計上することができる。

① 防音ハウス設置前の環境騒音測定。
② 防音ハウス設置後の騒音発生機械の騒音レベル測定。
③ 騒音発生機械停止時の暗騒音測定。
④ 計機類の調整。
⑤ 器具損料。
⑥ 報告書作成。
⑦ 資料整理。
⑧ その他必要な項目。

２）積算にあたっては、それぞれ必要項目を精査し、別途積上げで算出する。

３）防音効果調査工費は、共通仮設費の積算における率計算の対象外とする。

4．単価表

（1） 防音パネル工

LD－201－１　防音パネル工（防音ハウス）

施工単価コード	DGD50100

（１m2当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
パ ネ ル 取 付 費		m2				LE－201－１
パ ネ ル 取 除 費		m2				LE－201－１
防 音 パ ネ ル 損 料		枚				
○ ○ パ ネ ル 損 料		枚				
計						○○m2当り
1　　m2　　当り						計／○○m2

LE－201－１　パネル取付及び取除費（防音ハウス）

施工単価コード	DGD50110

（１m2当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
土 木 一 般 世 話 役		人				表－201－１
と　　び　　工		人				表－201－１
普 通 作 業 員		人				表－201－１
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第２次基準値) 油圧伸縮ジブ型２５ｔ吊	日				表－201－１及び表－200－３
高 所 作 業 車 運 転	トラック架装リフト・ブーム型（直伸・屈折式）作業床高さ○○m	日				表－201－1及び表－200－4
諸　　雑　　費		式	1			備考
計						
１ｍ2当り（取付）						計/１日当りパネル取付面積
１ｍ2当り（取除）						計/１日当りパネル取除面積

備考　諸雑費は、パネル押えボルト、シーリング材の費用であり、パネル取付労務費の合計額に26%を乗じた金額を計上する。

機械運転単価表

機　　械　　名	規　　格	適用単価表	指　定　事　項
高　所　作　業　車	トラック架装リフト・ブーム型 （直伸・屈折式） 作業床高さ○○m	機－28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→18 機械賃料数量→1.4

（２） 鉄骨工

LD－201－２　鉄骨工（防音ハウス）

施工単価コード	DGD50120

（１ｔ当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
ブ　レ　ー　ス		式	1			
鋼　　板		式	1			
ボルト・ナット	M－○○ 首下○○㎜	式	1			
鉄骨工場加工費		t				LE－201－２
鉄骨現場加工費		式	1			
工　場　溶　接　費		m				LE－201－３
塗　　装　　費		m2				LE－201－４
組　　立　　費		t				LE－201－５
ボルト本締費		t				LE－201－６
解　　体　　費		t				組立費の７５％
鋼　材　賃　料		式	1			
計						○ｔ当り
1　ｔ　当　り						計／○ｔ

LE－201－２　鉄骨工場加工費（防音ハウス）

施工単価コード	DGD50130

（１ｔ当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
鉄　　骨　　工		人				表－201－３
諸　　雑　　費		式	1			備考　表－201－３
計						

備考　諸雑費は、酸素、アセチレン、サービスボルト、補助鋼板の費用であり、労務費の合計額に15％を乗じた金額を計上する。

LE－201－３　工場溶接費（防音ハウス）

施工単価コード	DGD50140

（１ｍ当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
溶　　接　　工		人	0.047			
諸　　雑　　費		式	1			備考
計						

備考　諸雑費は、溶接機の賃料、燃料油脂類及び溶接棒等の費用であり、労務費の合計額に26％を乗じた金額を計上する。

LE－201－４　塗装費（防音ハウス）

施工単価コード	DGD50150

（１m2当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
塗　　装　　工		人	0.028			
一般さび止めペイント	JIS K　5621　1種	kg	0.48			
計						

LE－201－５　組立費（防音ハウス）

施工単価コード	DGD50160

（１ｔ当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
土 木 一 般 世 話 役		人				表－201－４
と　　び　　工		人				表－201－４
普　通　作　業　員		人				表－201－４
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型２５t吊	日				表－200－３及び表－201－４
器　具　損　料		式	1			労務費の0.2%
計						

LE－201－６　ボルト本締費（防音ハウス）

施工単価コード	DGD50170

（鉄骨１ｔ当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
鉄　　骨　　工		人	0.26			
と　　び　　工		人	0.19			
締 付 機 器 損 料		式	1			労務費の2%
計						

LC－202　仮設防音工基礎

（１箇所当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
○ ○ 基 礎 設 置 工		箇所				LD－202－１ LD－202－３
○ ○ 基 礎 撤 去 工		箇所				LD－202－２ LD－202－４
計						○箇所当り
１ 箇 所 当 り						計／○箇所

１．適用範囲

本歩掛は、仮設防音壁（LC－200）及び仮設防音ハウス（LC－201）の基礎に適用する。

２．単価表

（１） 連続フーチング基礎設置工

LD－202－１　連続フーチング基礎設置工

（１箇所当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
ア ン カ ー ボ ル ト	ｔ＝○○㎜ φ＝○○㎜	本				
コ ン ク リ ー ト 工	レディーミクスト コンクリート	m3				
砕 石 基 礎 工	○○－40	m2				
型 枠 工		m2				
掘 削 工		m3				
埋 戻 工		m3				
発 生 土 処 分 工		m3				
計						○箇所当り
１ 箇 所 当 り						計／○箇所

（２） 連続フーチング基礎撤去工

LD－202－２　連続フーチング基礎撤去工

（１箇所当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
コンクリートとりこわし工		m3				
掘 削 工		m3				
埋 戻 工		m3				
コンクリート塊処分工		m3				
計						○箇所当り
１ 箇 所 当 り						計／○箇所

（３） 打込杭基礎設置工

LD－202－３　打込杭基礎設置工

（１箇所当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
鋼　　板	厚○○	t				
ボルト・ナット	ℓ＝○○㎜ φ＝○○㎜	本				
H 型 鋼 杭 打 工	H－○○、ℓ＝○○	本				
杭 頭 処 理 工	H－○○	箇所				
掘　　削　　工		m3				必要に応じて計上
埋　　戻　　工		m3				必要に応じて計上
計						○箇所当り
1 箇 所 当 り						計／○箇所

（４） 打込杭基礎撤去工

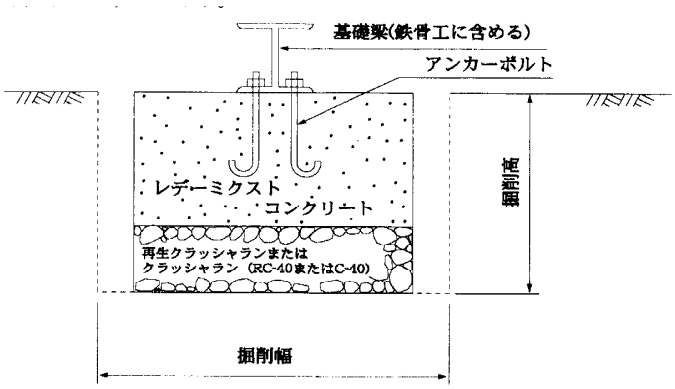
LD－202－４　打込杭基礎撤去工

（１箇所当り）

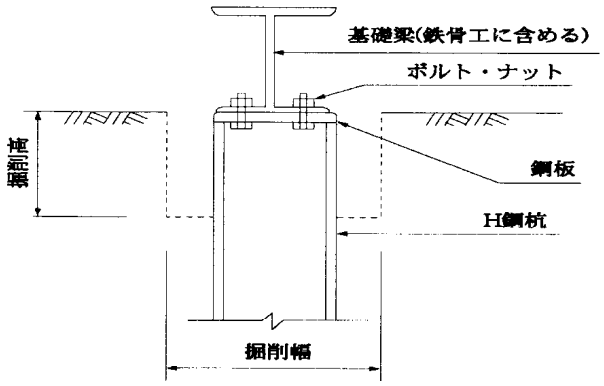
種　　目	形 状 寸 法	単 位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
H 型 鋼 杭 引 抜 工	H－○○、ℓ＝○○	本				
計						○箇所当り
1 箇 所 当 り						計／○箇所

（５） 打込杭基礎撤去工

基礎の一般的な施工例を図－１、２に示す。



図－１　連続フーチング基礎



図－２　打込杭基礎

LC－203　仮設防音工換気照明設備

（一式当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
換　　気　　工		台				LD－203－１
照　　明　　工		式	1			
計						

１．適用範囲

本歩掛は、仮設防音壁（LC－200）及び仮設防音ハウス（LC－201）の換気工及び照明工に適用する。

２．作業歩掛

（１）換気工は、換気ファンを設置する場合に計上する。

（２）換気ファンは、有圧低騒音型とする。

（３）換気ファンの設置、撤去費は、換気パネル取付、取除費に含むこととし、ここでは計上しない。

（４）１日当りの運転時間、運転日数、供用日数は**表－203－１**による。

表－203－１　１日当り運転時間、運転日数、供用日数表

本工事施工区分	昼間・夜間	昼夜間
１日当り運転時間	8hr	16hr
運　転　日　数	防音壁内で実際に作業する実日数で工程表より算出する。	
供　用　日　数	換気ファン設置から撤去までの実日数×α	

備考　α：供用日の割増率

３．単価表

LD－203－１　換気工

施工単価コード	DGD50180

（１台当り）

種　　目	形 状 寸 法	単 位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
電　　力　　料		kWh				
換 気 フ ァ ン 損 料		日	1			
計						１台当り

Ⅷ　管路施設（市場単価）編

Ⅷ　管路施設（市場単価）編

目次

LA-12 取付管およびます（塩化ビニル製）工

1　適用範囲

本資料は、市場単価方式による、ます設置工および取付管布設・支管取付工に適用する。

1－1　市場単価が適用できる範囲

（1）ます設置工のうち、「塩化ビニル公共ます（ＪＳＷＡＳ　Ｋ－7）」のうち径１５０㎜，２００㎜，３００㎜，３５０㎜のますを設置する場合。

（2）取付管布設のうち、下水道用硬質塩化ビニル管（ＪＳＷＡＳ　Ｋ－１）及び可とう性支管を設置する場合。

1－2　市場単価が適用できない範囲

（1）特別調査等別途考慮するもの

1）塩化ビニル公共ます（ＪＳＷＡＳ　Ｋ－７）のうち径１５０㎜，２００㎜，３００㎜，３５０㎜以外のますを設置する場合。

2）フリーインバートタイプ（流入受口取付型）のますを設置する場合。

3）下水道用硬質塩化ビニル管（ＪＳＷＡＳ　Ｋ－１）以外の取付管を設置する場合。

4）特殊地域において労務費の補正が適用される工事の場合。

5）その他、規格・仕様等が適合せず、市場単価が適用できない場合。

2　市場単価の設定

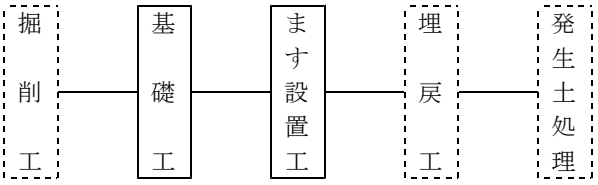
2－1　市場単価の構成と範囲

（1）ます設置工【材工共】

施工単価コード	DGD60090

市場単価で対応しているのは、機・労・材の○およびフロー図の実線部分である。

工　種	市場単価		
	機	労	材
ます設置工（塩化ビニル製）	○	○	○



（注１）　基礎材の有無は問わない。

（注２）　掘削・埋戻し・発生土処理費（積込・運搬・処分）は含まない。

（注３）　ます設置には、塩化ビニル製蓋を含む。

（注４）　設置の際に生じる植込み・タイル等の撤去および再設置費用は含まない。

（注５）　設置深さは１．５ｍ以下とし、立上り管を含む。また、立上り管長調節による切断手間も含む。

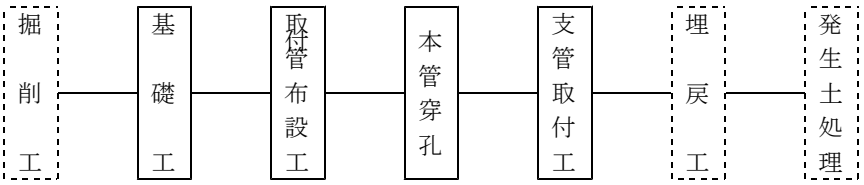
（注６）　接着剤、接合材および器具損料費は含む。

（注７）　現場条件により、土留工が必要な場合は別途計上する。

（2）取付管布設および支管取付工【材工共】

施工単価コード	DGD60100

工　種	市場単価		
	機	労	材
取付管布設および支管取付	○	○	○



（注１）　上記フロー図の施工順序は標準的なものとし、基本的にその順序は問わないものとする。

（注２）　基礎材の有無は問わない。

（注３）　管路掘削・管路埋戻し・発生土処理費（積込・運搬・処分）は含まない。

（注４）　ＪＳＷＡＳ　Ｋ－１に規定された、曲管・支管・マンホール継手など塩ビ製異形管の使用の有無は問わない。

（注５）　支管取付は、取付対象となる本管の径、本管の穿孔方法、および本管への支管取付方法は問わない。

（注６）　接着剤、接合材、番線等および器具損料費は含む。

（注７）　現場条件により、土留工が必要な場合は別途計上する。

（注８）　取付管をマンホールに接続する場合も適用できる。

（注９）　可とう性支管を設置する場合は、対象となる規格・仕様の単価を加算額で加算する。

２－２　市場単価の規格・仕様

ます設置工および取付管布設・支管取付工の市場単価の規格・仕様区分は、下表のとおりである。

表２．１－１

規格・仕様		単位
ます設置工（塩化ビニル製）	ます径　１５０ｍｍ	箇所
	ます径　２００ｍｍ	
	ます径　３００ｍｍ	
	ます径　３５０ｍｍ	

表２．１－２

規格・仕様		単位
取付管布設および支管取付工	管径　１００ｍｍ	箇所
	管径　１２５ｍｍ	
	管径　１５０ｍｍ	
	管径　２００ｍｍ	
取付管布設および支管取付工（可とう性支管を設置）	管径　１００ｍｍ	
	管径　１２５ｍｍ	
	管径　１５０ｍｍ	
	管径　２００ｍｍ	

２－３　加算率・補正係数

（１）　加算率・補正係数の適用基準

表２．２

区　分		記号	適用基準	備考
加算額	施工規模	Ｓ0	標準	全体数量
		Ｓ1	１工事の施工規模が標準より小さい場合は、対象となる規模・仕様の単価を率で加算する。	
補正係数	時間的制約を受ける場合	Ｋ1	通常勤務をすべき１日の作業時間（所定労働時間）を７時間以下４時間以上に制限する場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	対象数量
	夜間作業	Ｋ2	通常勤務をすべき時間（所定労働時間）帯を変更して、作業時間が夜間（20時～６時）にかかる場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	
	取付管長が３ｍ未満の場合	Ｋ3	取付管長が３ｍ未満の場合、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	
	取付管長が５ｍ以上12m未満の場合	Ｋ4	取付管長が５ｍ以上、12m未満の場合、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	
	本管の材質がコンクリート製・陶製の場合	Ｋ5	支管取付の対象となる本管の材質がコンクリート製・陶製の場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。また、取付管をコンクリート製マンホールに接合する場合にも本補正を適用する。	

（２）　加算率・補正係数の数値

表２．３

区　　分		記号	ます設置工	取付管布設・支管取付工
加算額	施工規模	Ｓ0	（５箇所以上）０％	（５箇所以上）０％
		Ｓ1	（５箇所未満）１０％	（５箇所未満）１０％
補正係数	時間的制約を受ける場合	Ｋ1	１．１０	１．１０
	夜間作業	Ｋ2	１．２０	１．２０
	取付管長が３ｍ未満の場合	Ｋ3	－	０．８５
	取付管長が５ｍ以上12m未満の場合	Ｋ4	－	１．１５
	本管の材質がコンクリート製・陶製の場合	Ｋ5	－	１．１０

（注１）施工規模加算率（Ｓ1）と時間制約を受ける場合の補正係数（Ｋ1）が重複する場合は、施工規模加算率のみを対象とする。

（注２）施工規模による加算の判定は、１工事におけるます設置と取付管布設および支管取付数のうち、**表２．１－１、表２．１－２**に係る規格・仕様それぞれの全体数量で判定する。

（注３）取付管長の判定は、１工事における平均取付管長（水平長）で判定する。

２－４　LC-3010 鋳鉄製防護蓋の設置

（１）鋳鉄製防護蓋を設置する場合は、設置費（手間費、材料費）を別途計上する。

（２）可とう性支管を設置する場合は、支管取付工に対象となる規格・仕様の単価を加算額で加算する。

２－５　直接工事費の算出

直接工事費＝設計単価（注１）×設計数量

（１）設計単価＝標準の市場単価×（１＋Ｓ0 or Ｓ1 /100）×（Ｋ1×Ｋ2×Ｋ3×Ｋ4×Ｋ5）

３　運用にあたっての留意事項

市場単価の運用にあたっては、以下の点に留意すること。

（１）ます設置、取付管布設および支管取付工における施工方法（機械・人力）は問わない。

LA-12 小型マンホール（塩化ビニル製）工

1 適用範囲

本資料は、市場単価方式による、小型マンホール設置工に適用する。

1－1 市場単価が適用できる範囲

（1）小型マンホール工のうち、「下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホールＪＳＷＡＳ　Ｋ－９」および、リブ付小型マンホール（ＪＳＷＡＳ　Ｋ－１７）を設置する場合。

1－2 市場単価が適用できない範囲

（1）特別調査等別途考慮するもの

1） 特殊地域において労務費の補正が適用される工事の場合。

2） その他、規格・仕様等が適合せず、市場単価が適用できない場合。

2 市場単価の設定

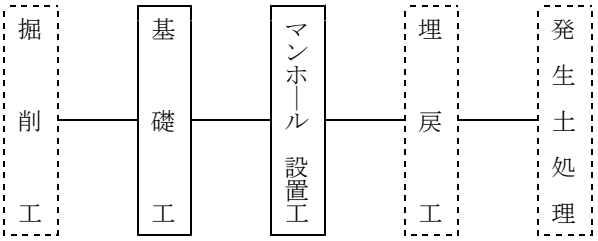
2－1 市場単価の構成と範囲

施工単価コード	DGD60080

（1）小型マンホール工（塩化ビニル製）【材工共】

市場単価で対応しているのは、機・労・材の○およびフロー図の実線部分である。

工　種	市場単価		
	機	労	材
小型マンホール工（塩化ビニル製）	○	○	○



（注１） 基礎材の有無は問わない。
（注２） 掘削・埋戻し・発生土処理費（積込・運搬・処分）は含まない。
（注３） 蓋材は含まず。鋳鉄製防護蓋を使用する場合は、**２－４**により設置費を別途計上する。
（注４） その他の蓋を使用する場合は、別途材料費を計上する。
（注５） 設置深さは３．５ｍ以下とし、立上り管を含む。また、立上り管長調節による切断手間も含む。
（注６） 接着剤、接合材および器具損料費は含む。
（注７） 現場条件等により、土留工が必要な場合は別途計上する。
（注８） 起点落差形式を設置する場合は、起点および中間形式の対象となる規格・仕様の単価を加算額で加算する。

2－2 市場単価の規格・仕様

小型マンホール工（塩化ビニル製）の規格・仕様区分は、下表のとおりである。

表2.1

規　格　・　仕　様				単位
小型マンホール工（塩化ビニル製）マンホール径 300㎜ 起点および中間形式	ＫＴ・ＳＴ・Ｌ・ＤＲ	マンホール深さ 2m以下	本管径 150㎜および200㎜	箇所
			本管径 250㎜	
		マンホール深さ 2m超～3.5m以下	本管径 150㎜および200㎜	
			本管径 250㎜	
小型マンホール工（塩化ビニル製）マンホール径 300㎜ 起点落差形式	ＫＤＲ	マンホール深さ 2m以下	本管径 150㎜および200㎜	
			本管径 250㎜	
		マンホール深さ 2m超～3.5m以下	本管径 150㎜および200㎜	
			本管径 250㎜	
小型マンホール工（塩化ビニル製）マンホール径 300㎜ 底部会合形式	９０Ｙ・４５Ｙ	マンホール深さ 2m以下	本管径 150㎜および200㎜	
			本管径 250㎜	
		マンホール深さ 2m超～3.5m以下	本管径 150㎜および200㎜	
			本管径 250㎜	

２－３　加算率・補正係数

（１）　加算率・補正係数の適用基準

表２．２

区　分		記号	適　用　基　準	備考
加算額	施工規模	Ｓ0	標準	全体数量
		Ｓ1	１工事の施工規模が標準より小さい場合は、対象となる規模・仕様の単価を率で加算する。	
補正	時間的制約を受ける場合	Ｋ1	通常勤務をすべき１日の作業時間（所定労働時間）を７時間以下４時間以上に制限する場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	対象数量
	夜間作業	Ｋ2	通常勤務をすべき時間（所定労働時間）帯を変更して、作業時間が夜間（20時～６時）にかかる場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	

（２）　加算率・補正係数の数値

表２．３

区　分		記号	小型マンホール設置工
加算額	施工規模	Ｓ0	（５箇所以上）　0%
		Ｓ1	（５箇所未満）　10%
補正係数	時間的制約を受ける場合	Ｋ1	1.1
	夜間作業	Ｋ2	1.2

（注１）　施工規模加算率（Ｓ1）と時間制約を受ける場合の補正係数（Ｋ1）が重複する場合は、施工規模加算率のみを対象とする。

（注２）　施工規模による加算の判定は、１工事における小型マンホール設置数のうち、**表２．１**に係る規格・仕様の全体数量で判定する。

２－４　鋳鉄製防護蓋の設置

（１）　鋳鉄製防護蓋を設置する場合は、設置費（手間費、材料費）を別途計上する。

（２）　起点落差形式（ＫＤＲ）を設置する場合は、起点及び中間形式の設置費に対象となる規格・仕様の単価を加算額で加算する。

２－５　直接工事費の算出

直接工事費＝設計単価（注１）×設計数量

（注１）設計単価＝標準の市場単価×（１＋Ｓ0 or Ｓ1　/100）×（Ｋ1×Ｋ2）

３　適用にあたっての留意事項

市場単価の適用にあたっては、以下の点に留意すること。

（１）小型マンホール設置における施工方法（機械・人力）は問わない。

LA-12 組立マンホール工

1 適用範囲

本資料は、市場単価方式による、組立マンホール設置工に適用する。

1－1 市場単価が適用できる範囲

（1）組立マンホール工のうち、0号～3号、楕円（600×900）マンホールを設置する場合。

1－2 市場単価が適用できない範囲

（1）特別調査等別途考慮するもの

1）特殊地域において労務費の補正が適用される工事の場合。

2）その他、規格・仕様等が適合せず、市場単価が適用できない場合。

2 市場単価の設定

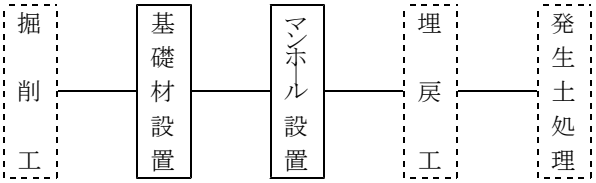
2－1 市場単価の構成と範囲

（1）組立マンホール設置工

施工単価コード	DGD60070

市場単価で対応しているのは、機・労・材の○およびフロー図の実線部分である。

工種	市場単価		
	機	労	材
組立マンホール工	○	○	×



（注1） 基礎材の材料費は含まない。基礎厚２０ｃｍ以内の施工手間は含む。敷モルタルの有無は問わない。

（注2） 掘削・埋戻し・発生土処理費（積込・運搬・処分）は含まない。

（注3） インバート工は含まない。

（注4） ブロック据付に関わる接着剤、接合材および器具損料費は含む。

（注5） 蓋・受枠設置手間を含む。

（注6） 現場条件等により、土留工が必要な場合は別途計上する。

2－2 市場単価の規格・仕様

小型マンホール工（塩化ビニル製）の規格・仕様区分は、下表のとおりである。

表２．１

規格・仕様			単位
組立マンホール工	0号（内径750mm）または楕円（600×900mm）	マンホール深さ 2m以下	箇所
		マンホール深さ 2m超～3m以下	
		マンホール深さ 3m超～5m以下	
	1号（内径900mm）	マンホール深さ 3m以下	
		マンホール深さ 3m超～4m以下	
		マンホール深さ 4m超～5m以下	
	2号（内径1200mm）	マンホール深さ 4m以下	
		マンホール深さ 4m超～5m以下	
		マンホール深さ 5m超～6m以下	
	3号（内径1500mm）	マンホール深さ 4m以下	
		マンホール深さ 4m超～5m以下	
		マンホール深さ 5m超～6m以下	

２－３　加算率・補正係数

（１）　加算率・補正係数の適用基準

表２．２

区　分		記号	適　用　基　準	備考
加算額	施工規模	Ｓ０	標準	全体数量
		Ｓ１	１工事の施工規模が標準より小さい場合は、対象となる規模・仕様の単価を率で加算する。	
補正	時間的制約を受ける場合	Ｋ１	通常勤務をすべき１日の作業時間（所定労働時間）を７時間以下４時間以上に制限する場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	対象数量
	夜間作業	Ｋ２	通常勤務をすべき時間（所定労働時間）帯を変更して、作業時間が夜間（20時～６時）にかかる場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	

（２）　加算率・補正係数の数値

表２．３

区　分		記号	小型マンホール設置工
加算額	施工規模	Ｓ０	（４箇所以上）　0%
		Ｓ１	（４箇所未満）　15%
補正係数	時間的制約を受ける場合	Ｋ１	1.15
	夜間作業	Ｋ２	1.35

（注１）施工規模加算率（Ｓ1）と時間制約を受ける場合の補正係数（Ｋ1）が重複する場合は、施工規模加算率のみを対象とする。

（注２）施工規模による加算の判定は、一工事における組立マンホール設置数のうち**表２．１**に係る規格・仕様の全体数量で判定する。

２－４　直接工事費の算出

直接工事費＝設計単価（注１）×設計数量

（注１）設計数量＝標準の市場単価×（１＋Ｓ０ or Ｓ１ /100）×（Ｋ1×Ｋ2）

３　適用にあたっての留意事項

市場単価の適用にあたっては、以下の点に留意すること。

（１）組立マンホール設置における施工方法は、機械施工とする。

LA-12 硬質塩化ビニル管設置工

１　適用範囲

本資料は、市場単価方式による、硬質塩化ビニル管設置工に適用する。

１－１　市場単価が適用できる範囲

（１）開削工法による管布設工のうち、呼び径１５０ｍｍ以上３５０ｍｍ以下の下水道用硬質塩化ビニル管（ＪＳＷＡＳ　Ｋ－１）を設置する場合。

１－２　市場単価が適用できない範囲

（１）地すべり防止施設および急傾斜崩壊対策施設における設置工事。
（２）推進工法による設置工事。
（３）特別調査等別途考慮するもの。
　１）地域において労務費の補正が適用される工事の場合。
　２）その他、規格、仕様が適合せず、市場単価が適用できない場合。

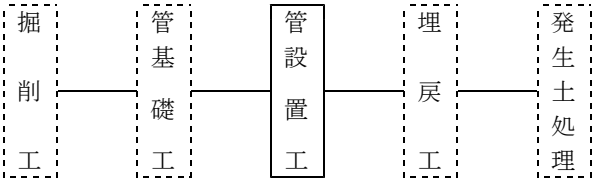
２　市場単価の設定

施工単価コード	DGD60010

２－１　市場単価の構成と範囲

市場単価で対応しているのは、機・労・材の○およびフロー図の実線部分である。

工　種	市場単価		
	機	労	材
硬質塩化ビニル管設置工	○	○	○



（注１）　掘削・埋戻し・発生土処理費（積込・運搬・処分）は含まない。
（注２）　据付に必要なクレーン費、レバーブロック費、接着剤、滑材、切断に要する費用を全て含む。
（注３）　現場内小運搬費用を含む。
（注４）　ＪＳＷＡＳ　Ｋ－１に規定された、曲管・マンホール継手など塩ビ製異形管の使用の有無は問わない。
（注５）　マンホール用可とう継手を設置する場合は、材工を別途計上する。

２－２　市場単価の規格・仕様

表２．１

規格・仕様		単位
硬質塩化ビニル管設置工	呼び径　１５０ｍｍ	m
	呼び径　２００ｍｍ	
	呼び径　２５０ｍｍ	
	呼び径　３００ｍｍ	
	呼び径　３５０ｍｍ	

２－３　加算率・補正係数

（１）　加算率・補正係数の適用基準

表２．２

区　　分		記号	適　　用　　基　　準	備考
加算率	施工規模	Ｓ0	標準	全体数量
		Ｓ1	１工事の施工規模が標準より小さい場合は、対象となる規格・仕様の単価を率で加算する。	
補正係数	時間的制約を受ける場合	K1	通常勤務すべき１日の作業時間（所定労働時間）を７時間以下４時間以上に制限する場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	対象数量
	夜間作業	K2	通常勤務すべき時間（所定労働時間）帯を変更して、作業時間が夜間（20時～６時）にかかる場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	

（２）　加算率・補正係数の数値

表２．３

区　　分		記号	硬質塩化ビニル管設置
加算率	施工規模	Ｓ0	（２０m以上）０％
		Ｓ1	（２０m未満）１０％
補正係数	時間的制約を受ける場合	K1	１．１０
	夜間作業	K2	１．２０

（注１）施工規模加算率（Ｓ1）と時間的制約を受ける場合の補正係数（K1）が重複する場合は、施工規模加算率のみを対象とする。

（注２）施工規模による加算の判定は、１工事における硬質塩化ビニル管設置延長のうち、**表２．１**に係る規格・仕様の総延長による。

（例　１工事で硬質塩化ビニル管設置が、呼び径１５０ｍｍＬ＝１５ｍと呼び径３５０ｍｍＬ＝１５ｍと複数の規格の場合は、総延長＝１５＋１５＝３０ｍで２０m以上となり、１５０ｍｍ、３５０ｍｍの両方ともに補正はしない。）

２－４　直接工事費の算出

直接工事費＝設計単価（注１）×設計数量

（注１）設計単価＝標準の市場単価×（１＋Ｓ0 or Ｓ1 /100）×（K1×K2）

３　適用にあたっての留意事項

市場単価の適用にあたっては、以下の点に留意すること。

（１）硬質塩化ビニル管設置における施工方法（機械・人力）は問わない。

LA-12 リブ付硬質塩化ビニル管設置工

１　適用範囲

本資料は、市場単価方式による、リブ付硬質塩化ビニル管設置工に適用する。

１－１　市場単価が適用できる範囲

（１）開削工法による管布設工のうち、呼び径１５０ｍｍ以上３５０ｍｍ以下の下水道用リブ付硬質塩化ビニル管（ＪＳＷＡＳ　Ｋ－１３）を設置する場合。

１－２　市場単価が適用できない範囲

（１）地すべり防止施設および急傾斜崩壊対策施設における設置工事。
（２）推進工法による設置工事。
（３）特別調査等別途考慮するもの。
　１）地域において労務費の補正が適用される工事の場合。
　２）その他、規格、仕様が適合せず、市場単価が適用できない場合。

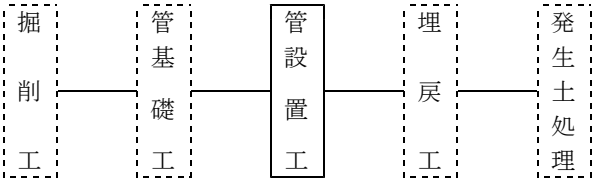
２　市場単価の設定

施工単価コード	DGD60020

２－１　市場単価の構成と範囲

市場単価で対応しているのは、機・労・材の○およびフロー図の実線部分である。

工　種	市場単価		
	機	労	材
リブ付硬質塩化ビニル管設置工	○	○	○



（注１）　掘削・埋戻し・発生土処理費（積込・運搬・処分）は含まない。
（注２）　据付に必要なクレーン費、レバーブロック費、接着剤、滑材、切断に要する費用を全て含む。
（注３）　現場内小運搬費用を含む。
（注４）　ＪＳＷＡＳ　Ｋ－１３に規定された、曲管・マンホール継手など塩ビ製異形管の使用の有無は問わない。
（注５）　マンホール用可とう継手を設置する場合は、材工を別途計上する。

２－２　市場単価の規格・仕様

表２．１

規格・仕様		単位
リブ付硬質塩化ビニル管設置工	呼び径　１５０ｍｍ	m
	呼び径　２００ｍｍ	
	呼び径　２５０ｍｍ	
	呼び径　３００ｍｍ	
	呼び径　３５０ｍｍ	

２－３　加算率・補正係数

（１）　加算率・補正係数の適用基準

表２．２

区　　分		記号	適　　用　　基　　準	備考
加算率	施工規模	Ｓ０	標準	全体数量
		Ｓ１	１工事の施工規模が標準より小さい場合は、対象となる規格・仕様の単価を率で加算する。	
補正係数	時間的制約を受ける場合	Ｋ１	通常勤務すべき１日の作業時間（所定労働時間）を７時間以下４時間以上に制限する場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	対象数量
	夜間作業	Ｋ２	通常勤務すべき時間（所定労働時間）帯を変更して、作業時間が夜間（20時～６時）にかかる場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	

（２）　加算率・補正係数の数値

表２．３

区　　分		記号	リブ付硬質塩化ビニル管設置
加算率	施工規模	Ｓ０	（２０ｍ以上）０％
		Ｓ１	（２０ｍ未満）１０％
補正係数	時間的制約を受ける場合	Ｋ１	１．１０
	夜間作業	Ｋ２	１．２０

（注１）施工規模加算率（Ｓ1）と時間的制約を受ける場合の補正係数（Ｋ1）が重複する場合は、施工規模加算率のみを対象とする。

（注２）施工規模による加算の判定は、１工事におけるリブ付硬質塩化ビニル管設置延長のうち、**表２．１**に係る規格・仕様の総延長による。

（例　１工事でリブ付硬質塩化ビニル管設置が、呼び径１５０ｍｍＬ＝１５ｍと呼び径３５０ｍｍＬ＝１５ｍと複数の規格の場合は、総延長＝１５＋１５＝３０ｍで２０ｍ以上となり、１５０ｍｍ、３５０ｍｍの両方ともに補正はしない。）

２－４　直接工事費の算出

直接工事費＝設計単価（注１）×設計数量

（注１）設計単価＝標準の市場単価×（１＋Ｓ0 or Ｓ1 /100）×（Ｋ1×Ｋ2）

３　適用にあたっての留意事項

市場単価の適用にあたっては、以下の点に留意すること。

（１）リブ付硬質塩化ビニル管設置における施工方法（機械・人力）は問わない。

LA-12 砂基礎工

1 適用範囲

本資料は、市場単価方式による、砂基礎工に適用する。

1－1 市場単価が適用できる範囲

（1）管基礎工のうち、砂基礎の設置に適用する。

1－2 市場単価が適用できない範囲

（1）地すべり防止施設および急傾斜崩壊対策施設における設置工事。
（2）推進工法による設置工事。
（3）特別調査等別途考慮するもの。
　1）地域において労務費の補正が適用される工事の場合。
　2）その他、規格、仕様が適合せず、市場単価が適用できない場合。

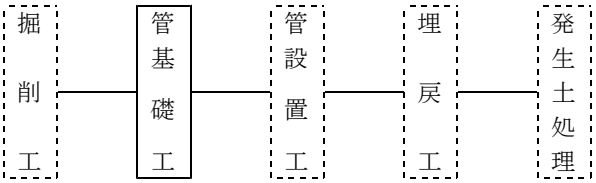
2 市場単価の設定

人力施工	施工単価コード	DGD60030
機械施工	施工単価コード	DGD60040

2－1 市場単価の構成と範囲

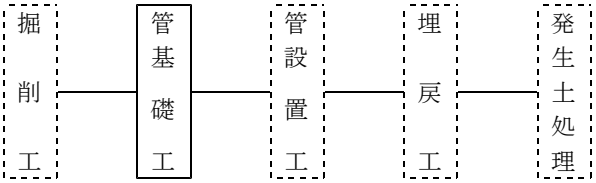
市場単価で対応しているのは、機・労・材の○およびフロー図の実線部分である。

工　種	市場単価		
	機	労	材
砂基礎設置（人力施工）	○	○	×



（注１）　基礎材の現場内小運搬費を含む。
（注２）　基礎材の投入、敷均しおよび締固費用（機械・労務）を含む。
（注３）　管周りの基礎設置を含む。

工　種	市場単価		
	機	労	材
砂基礎設置（機械施工）	○	○	×



（注１）　基礎材の現場内小運搬費を含む。
（注２）　基礎材の投入、敷均しおよび締固費用（機械・労務）を含む。
（注３）　管周りの基礎設置を含む。

2－2 市場単価の規格・仕様

表２．１

規格・仕様		単位
砂基礎設置	人力施工	m3
	機械施工	

２－３　加算率・補正係数

（１）　加算率・補正係数の適用基準

表２．２

区　　分		記号	適　　用　　基　　準	備考
加算率	施工規模	Ｓ０	標準	全体数量
		Ｓ１	１工事の施工規模が標準より小さい場合は、対象となる規格・仕様の単価を率で加算する。	
補正係数	時間的制約を受ける場合	Ｋ１	通常勤務すべき１日の作業時間（所定労働時間）を７時間以下４時間以上に制限する場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	対象数量
	夜間作業	Ｋ２	通常勤務すべき時間（所定労働時間）帯を変更して、作業時間が夜間（20時～６時）にかかる場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	

（２）　加算率・補正係数の数値

表２．３

区　　分		記号	砂基礎設置	
			人力施工	機械施工
加算率	施工規模	Ｓ０		（１０m3以上）　０％
		Ｓ１		（１０m3未満）１０％
補正係数	時間的制約を受ける場合	Ｋ１	１．１５	１．２０
	夜間作業	Ｋ２	１．５０	１．３５

（注１）施工規模加算率（Ｓ1）と時間的制約を受ける場合の補正係数（Ｋ1）が重複する場合は、施工規模加算率のみを対象とする。

２－４　直接工事費の算出

直接工事費＝設計単価（注１）×設計数量

（注１）設計単価＝標準の市場単価×（１＋Ｓ０ or Ｓ１ /100）×（Ｋ1×Ｋ2）

３　適用にあたっての留意事項

（１）砂の材料費は含まない。

（２）人力施工とは、管路への基礎材投入を人力で行う場合。

（３）機械施工とは、管路への基礎材投入を機械で行う場合。

LA-12 砕石基礎工

1 適用範囲

本資料は、市場単価方式による、砕石基礎工に適用する。

1－1 市場単価が適用できる範囲

（1）管基礎工のうち、砕石基礎の設置に適用する。

1－2 市場単価が適用できない範囲

（1）地すべり防止施設および急傾斜崩壊対策施設における設置工事。
（2）推進工法による設置工事。
（3）特別調査等別途考慮するもの。
　1）地域において労務費の補正が適用される工事の場合。
　2）その他、規格、仕様が適合せず、市場単価が適用できない場合。

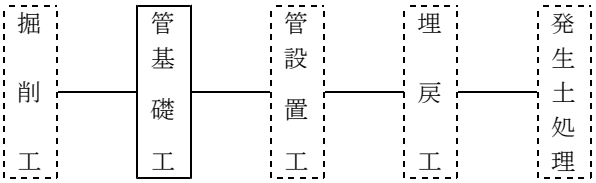
2 市場単価の設定

人力施工	施工単価コード	DGD60050
機械施工	施工単価コード	DGD60060

2－1 市場単価の構成と範囲

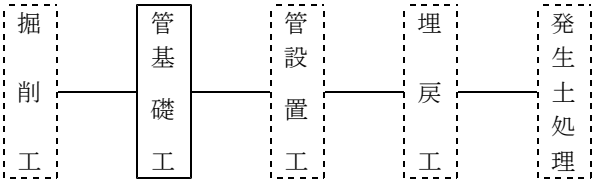
市場単価で対応しているのは、機・労・材の○およびフロー図の実線部分である。

工種	市場単価		
	機	労	材
砕石基礎設置（人力施工）	○	○	×



（注１）　基礎材の現場内小運搬費を含む。
（注２）　基礎材の投入、敷均しおよび締固費用（機械・労務）を含む。
（注３）　管周りの基礎設置を含む。

工種	市場単価		
	機	労	材
砕石基礎設置（機械施工）	○	○	×



（注１）　基礎材の現場内小運搬費を含む。
（注２）　基礎材の投入、敷均しおよび締固費用（機械・労務）を含む。
（注３）　管周りの基礎設置を含む。

2－2 市場単価の規格・仕様

表２．１

規格・仕様		単位
砕石基礎設置	人力施工	m3
	機械施工	

２－３　加算率・補正係数

（１）　加算率・補正係数の適用基準

表２．２

区　　分		記号	適　　用　　基　　準	備考
加算率	施工規模	Ｓ０	標準	全体数量
		Ｓ１	１工事の施工規模が標準より小さい場合は、対象となる規格・仕様の単価を率で加算する。	
補正係数	時間的制約を受ける場合	Ｋ１	通常勤務すべき１日の作業時間（所定労働時間）を７時間以下４時間以上に制限する場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	対象数量
	夜間作業	Ｋ２	通常勤務すべき時間（所定労働時間）帯を変更して、作業時間が夜間（20時～６時）にかかる場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	

（２）　加算率・補正係数の数値

表２．３

区　　分		記号	砕石基礎設置	
			人力施工	機械施工
加算率	施工規模	Ｓ０		（１０m3以上）　０％
		Ｓ１		（１０m3未満）１０％
補正係数	時間的制約を受ける場合	Ｋ１	１．１５	１．２０
	夜間作業	Ｋ２	１．５０	１．３５

（注１）施工規模加算率（Ｓ1）と時間的制約を受ける場合の補正係数（Ｋ1）が重複する場合は、施工規模加算率のみを対象とする。

２－４　直接工事費の算出

直接工事費＝設計単価（注１）×設計数量

（注１）設計単価＝標準の市場単価×（１＋Ｓ０ or Ｓ１ /100）×（Ｋ1×Ｋ2）

３　適用にあたっての留意事項

（１）砕石の材料費は含まない。

（２）人力施工とは、管路への基礎材投入を人力で行う場合。

（３）機械施工とは、管路への基礎材投入を機械で行う場合。

市場単価（週休２日制工事における市場単価方式の補正係数）

１．適用範囲

本資料は、市場単価方式による週休２日の補正を行う場合に適用する。

２．市場単価の補正係数

週休２日の補正の種類により、市場単価に乗じる週休２日の補正係数は次表を標準とする。

表２．１　補正係数

名　　称	規格・仕様	補正係数			
		現場閉所		交代制	
		通期	月単位	通期	月単位
硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管設置工		1.01	1.01	1.01	1.01
ﾘﾌﾞ付硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管設置工		1.01	1.01	1.01	1.01
砂基礎工	人力施工	1.02	1.02	1.02	1.02
砂基礎工	機械施工	1.02	1.02	1.02	1.02
砕石基礎工	人力施工	1.02	1.02	1.02	1.02
砕石基礎工	機械施工	1.02	1.02	1.02	1.02
組立マンホール工		1.02	1.01	1.01	1.01
小型マンホール工		1.00	1.00	1.00	1.00
取付管およびます設置工	ます設置工	1.00	1.00	1.00	1.00
取付管およびます設置工	取付管布設及び支管取付工	1.01	1.01	1.01	1.01

第２編
ポンプ場・処理場施設編

ポンプ場・処理場施設

（土木）編

ポンプ場・処理場施設（土木）編

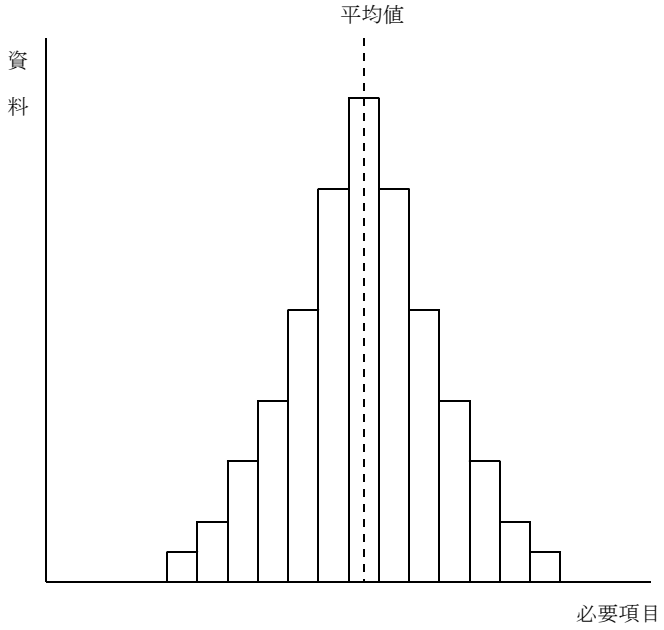
目次

適用に当っての留意事項

１．本歩掛の適用に当り、工事地先が建設工事公衆災害防止対策要綱に定める「公衆に係わる区域」に該当する場合は、同要綱に則って積算する。

２．下水道用設計標準歩掛表は、下水道工事の現場状況等の特殊性を考慮して、施工実態調査に基づき標準的な施工が行われた場合の労務、材料、機械等の規格や所要量を各工種ごとに設定したものである。
下水道用設計標準歩掛表は、あくまでも標準的な施工を想定した、予定価格を算出する手段であって、実際の施工における工法や機械を規定するものではない。

３．標準歩掛は標準的な施工が行われた場合の所要量として、その平均値を（例：図－１）をもって設定される。よって、実際の施工において労務等が標準歩掛に比べて差があったり、使用機械の機種、規格が異なったりすることは十分に起こり得ることを認識することが重要である。



図－１（イメージ図）

４．機械器具損料表の解説

１）損料は「建設機械等損料算定表」（以下「算定表」という。）を参考に積算する。

なお、算定表に定められていない機械器具（以下「機械」という。）については、類似の機械を参考として損料率等を定めており、その場合の基礎価格は別途見積等による。

２）「算定表」に定められている機械については、摘要欄に分類コード番号を掲載した。

なお、類似の機械を参考として損料率を定めたものは（ ）とした。

３）機械損料単価の補正については、算定表に定めるとおり機械損料が運転日単位又は供用日単一の単位で定められている機械を、二交替制作業（１日の通常の使用時間を超えて長時間使用する作業）に使用するときは、運転１日当り損料を50％（供用日単一の単位で機械損料が定められている機械の供用１日当りの損料については25％）増とする。

ポンプ場・処理場施設（土木）編　代価構成表

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
処理場・ ポンプ場				
	敷地造成土工			MA－１
		掘削工		
			掘削	＊
			土砂等運搬	＊
			軟弱土等運搬	＊
			整地	＊
			転石破砕	＊
			押土(ルーズ)	＊
			積込(ルーズ)	＊
			人力積込	＊
		盛土工		
			路体(築堤)盛土	＊
			路床盛土	＊
			土砂等運搬	＊
			整地	＊
			押土(ルーズ)	＊
			積込(ルーズ)	＊
			人力積込	＊
			土材料	＊
		法面整形工		
			法面整形（切土部）	＊
			法面整形（盛土部）	＊
		残土処理工		
			整地	＊
			土砂等運搬	＊
			残土等処分	＊
	法面工			MA－２
		法枠工		
			現場打法枠	＊
			プレキャスト法枠	＊
			吹付枠	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		植生工		
			種子散布	＊
			張芝	＊
			筋芝	＊
			市松芝	＊
	地盤改良工			MA－３
		表層安定処理工		
			サンドマット	＊
			安定処理	＊
			置換	＊
		バーチカルドレーン工		
			サンドドレーン	＊
			プレファブリケイテッドバーチカルドレーン	＊
		締固め改良工		
			サンドコンパクションパイル	＊
		固結工		
			機械攪拌	
			粉体噴射撹拌	
			粉体噴射撹拌（先掘）	＊
			粉体噴射撹拌（移設）	＊
			粉体噴射撹拌（軸間変更）	＊
			スラリー撹拌	＊
			高圧噴射攪拌	＊
			中層混合処理	＊
			薬液注入	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
	本体作業土工			MA－４
		床掘・埋戻工		
			床掘り（掘削）	＊
			床掘り	＊
			埋戻し	＊
			基面整正	＊
			掘削補助機械搬入搬出	＊
			転石破砕	＊
			積込（ルーズ）	＊
			人力積込	＊
			人力運搬	＊
			押土（ルーズ）	＊
			土砂等運搬	＊
			整地	＊
			土材料	＊
		掘削工		
			掘削	＊
			土砂等運搬	＊
			軟弱土等運搬	＊
			整地	＊
			転石破砕	＊
			押土（ルーズ）	＊
			積込（ルーズ）	＊
			人力積込	＊
		盛土工		
			路体（築堤）盛土	＊
			路床盛土	＊
			土砂等運搬	＊
			整地	＊
			押土（ルーズ）	＊
			積込（ルーズ）	＊
			人力積込	＊
			土材料	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		法面整形工		
			法面整形（切土部）	＊
			法面整形（盛土部）	＊
		残土処理工		
			整地	＊
			土砂等運搬	＊
			残土等処分	＊
	本体仮設工			MA－５
		土留・仮締切工		
			溝掘り	＊
			鋼矢板	＊
			広幅鋼矢板	＊
			軽量鋼矢板	＊
			Ｈ鋼杭	＊
			削孔(アンカー)	＊
			アンカー鋼材加工･組立 ･挿入･緊張･定着 ･頭部処理(アンカー)	＊
			グラウト注入	＊
			ボーリングマシン移設	＊
			アンカー工材料費(アンカー)	＊
			足場(アンカー)	＊
			タイロッド・腹起し	＊
			切梁・腹起し	＊
			横矢板	＊
			盛替染	＊
			じゃかご	＊
			ふとんかご	＊
			土のう	＊
			土のう積	＊
			締切盛土	＊
			締切盛土撤去	＊
			泥土処理	＊
			中詰盛土	＊
			中詰盛土撤去	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		地中連続壁工（壁式）		
			作業床	
			ガイドウォール	
			連続壁（壁式）	
			連壁鉄筋	
			アンカー	
			切梁・腹起し	
			仮設Ｈ鋼杭	
			廃液処理	
			泥土処理	
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
		地中連続壁工 （柱列式）		
			ガイドトレンチ	
			連続壁（柱列式）	
			プラント設置撤去	
			アンカー	
			切梁・腹起し	
			仮設Ｈ鋼杭	
			泥土処理	
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
		補助地盤改良工		管路施設編　Ⅰ開削工法
			薬液注入	MC－15
			粉体噴射撹拌	＊
			粉体噴射撹拌(先掘)	＊
			粉体噴射撹拌(移設)	＊
			粉体噴射撹拌(軸間変更)	＊
			スラリー撹拌	＊
			高圧噴射攪拌	＊
			中層混合処理	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		水替工		
			ポンプ排水	＊
		地下水位低下工		
			ウェルポイント	＊
			ディープウェル	
		仮橋・仮桟橋工		
			床掘り（掘削）	＊
			床掘り	＊
			埋戻し	＊
			基面整正	＊
			掘削補助機械搬入搬出	＊
			転石破砕	＊
			積込（ルーズ）	＊
			人力積込	＊
			人力運搬	＊
			押土（ルーズ）	＊
			整地	＊
			土砂等運搬	＊
			残土等処分	＊
			土材料	＊
			仮橋コンクリート基礎	＊
			橋脚	＊
			仮橋上部	＊
			覆工板設置･撤去	＊
			仮設高欄	＊
			コンクリート構造物取壊し	＊
			積込（コンクリート殻）	＊
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
			鋼管杭	＊
			現場取卸（鋼管杭）	＊
			防舷材	

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
	本体築造工			MA－６
		直接基礎工（改良）		
			粉体噴射撹拌	＊
			粉体噴射撹拌（先掘）	＊
			粉体噴射撹拌（移設）	＊
			粉体噴射撹拌（軸間変更）	＊
			スラリー撹拌	＊
			高圧噴射攪拌	＊
			中層混合処理	＊
		既製杭工		
			既製コンクリート杭	＊
			積込（ルーズ）	＊
			人力積込	＊
			整地	＊
			土砂等運搬	＊
			残土等処分	＊
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
			鋼管杭	＊
			現場取卸（鋼管杭）	＊
		場所打杭工		
			場所打杭	＊
			積込（ルーズ）	＊
			人力積込	＊
			整地	＊
			土砂等運搬	＊
			残土等処分	＊
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
			泥水処理	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		オープンケーソン基礎工		
			刃口金物据付	
			掘削沈下	
			沈下促進	
			コンクリート	
			型枠	
			鉄筋	
			足場	
			支保	
			底版コンクリート	
			中詰充填	
			天端コンクリート用型枠・支保	
			止水壁取壊し	
			殻運搬	
			殻処分	
		ニューマチックケーソン基礎工		
			ニューマチックケーソン設備	＊
			刃口金物据付	＊
			沈下掘削	＊
			沈下促進	＊
			コンクリート	＊
			型枠	＊
			処分費	＊
			鉄筋	＊
			足場	＊
			支保	＊
			砂セントル	
			中埋コンクリート	＊
			ブローパイプバルブ調節	＊
			中詰充填	
			天端コンクリート用型枠・支保	＊
			止水壁取壊し	＊
			殻運搬	＊
			殻処分	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		躯体工		MB－６－１
			基礎材	＊
			均しコンクリート	＊
			コンクリート	＊
			鉄筋	＊
			型枠	＊
			支保	＊
			足場	＊
			チッピング	＊
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
		伸縮継手工		MB－６－２
			目地材	＊
			止水板	＊
			シール材	＊
			可とう継手	＊
			スリップバー	＊
		越流樋工		
			越流樋	
		越流堰坂工		
			越流堰坂	
		蓋工		
			ＦＲＰ蓋	
			合成木材蓋	
			アルミ蓋	
			ＰＣ蓋	
			グレーチング蓋	
			鋼板蓋	
			蓋受枠	
			マンホール蓋	
			圧力蓋	
		角落し工		
			角落し	
			角落し受枠	
		手摺工		
			手摺	

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		防食工		
			コンクリート防食被覆	
			足場	＊
		左官工		MB－６－３
			コンクリート金ごて仕上げ	
			モルタル金ごて仕上げ	
			防水モルタル金ごて仕上げ	
		防水工		
			アスファルト防水	
			シート防水（本体）	
			塗膜防水	
		塗装工		
			各種塗装	
			複層塗材	
		埋込管工		
			埋込管	
			スリーブ管	
		仮壁撤去工		
			コンクリート構造物取壊し	＊
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
		付属物工		
			足掛金物	
			タラップ	
			吊りフック	
			コンクリートアンカー	
			排水目皿	
			ノンスリップ	
			整流壁	
			堅樋	

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
	場内管路工			MA－７
		作業土工		
			床掘り(掘削)	＊
			床掘り	＊
			埋戻し	＊
			基面整正	＊
			掘削補助機械搬入搬出	＊
			転石破砕	＊
			積込(ルーズ)	＊
			人力積込	＊
			人力運搬	＊
			押土(ルーズ)	＊
			土砂等運搬	＊
			整地	＊
			土材料	＊
		補助地盤改良工		管路施設編　Ⅰ開削工法
			薬液注入	(MC－15)
			高圧噴射攪拌	
		管路土留工		管路施設編　Ⅰ開削工法
			木矢板土留	
			建て込み簡易土留	(MC－11)
			軽量鋼矢板土留	(MC－12)
			親杭横矢板土留	
			鋼矢板土留	
		路面覆工		
			覆工板受桁	＊
			覆工板設置･撤去	＊
			覆工板･覆工板受桁	＊
		開削水替工		管路施設編　Ⅰ開削工法
			開削水替	(MC－16)
		地下水位低下工		
			ウェルポイント	＊
			ディープウェル	

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		管基礎工		管路施設編　Ｉ開削工法
			砂基礎	（MC－８）
			砕石基礎	（MC－９）
			まくら土台基礎	
			はしご胴木基礎	（MC－10）
			コンクリート基礎	
			ソイルセメント基礎	
			ベッドシート基礎	
		管布設工		管路施設編　Ｉ開削工法
			硬質塩化ビニル管	（MC－５）
			強化プラスチック複合管	（MC－６）
			鉄筋コンクリート管	（MC－４）
			既製く形きょ	
			ポリエチレン管	
			鋼管	
			鋳鉄管	
			コルゲート管	
			ステンレス管	
			消雪管	
			伸縮可とう継手（管）	
			マンホール削孔接続	
			継手類	
			弁類	
			弁ます類	
			水栓類	
			地中埋設標	
			埋設標識テープ	
			管蓋	
			既製開きょ	
		水路築造工		
			既製く形きょ	
			現場打水路	
			柵きょ	
			既製開きょ	

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		側溝工		
			プレキャストＬ形側溝	＊
			Ｌ形側溝	＊
			均しコンクリート	＊
			ＰＣ管	＊
			ヒューム管（Ｂ形管）	＊
			暗渠排水管	＊
			管（函）渠型側溝	＊
			鉄筋コンクリート台付管	＊
			巻きコンクリート	＊
			側溝基礎	＊
			プレキャストＵ型側溝	＊
			コルゲートフリューム	＊
			自由勾配側溝	＊
			側溝蓋	＊
		現場打マンホール工		管路施設編　Ｉ開削工法
			１号マンホール	(MC－17)
			２号マンホール	(MC－17)
			３号マンホール	(MC－17)
			４号マンホール	(MC－17)
			５号マンホール	(MC－17)
			６号マンホール	(MC－17)
			７号マンホール	(MC－17)
			外副管	(MC－18)
			内副管	(MC－19)
		組立マンホール工		管路施設編　Ｉ開削工法
			組立０号マンホール	(MC－20)
			組立１号マンホール	(MC－20)
			組立２号マンホール	(MC－20)
			組立３号マンホール	(MC－20)
			外副管	(MC－18)
			内副管	(MC－19)
		小型マンホール工		管路施設編　Ｉ開削工法
			小型マンホール	(MC－21，22)

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		取付管布設工		管路施設編　Ｉ開削工法
			取付管	(MC－24)
		ます設置工		管路施設編　Ｉ開削工法
			ます	(MC－23)
		舗装版破砕工		管路施設編　Ｉ開削工法
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
			舗装版切断	＊
			舗装版破砕	＊
		路面切削工		
			路面切削	＊
			殻運搬（路面切削）	＊
			殻処分	＊
		アスファルト舗装復旧工		
			下層路盤（車道・路肩部）	＊
			下層路盤（歩道部）	＊
			上層路盤（車道・路肩部）	＊
			上層路盤（歩道部）	＊
			基層（車道・路肩部）	＊
			基層（歩道部）	＊
			中間層（車道・路肩部）	＊
			中間層（歩道部）	＊
			表層（車道・路肩部）	＊
			表層（歩道部）	＊
		コンクリート舗装復旧工		
			下層路盤（車道・路肩部）	＊
			下層路盤（歩道部）	＊
			上層路盤（車道・路肩部）	＊
			上層路盤（歩道部）	＊
			中間層（車道・路肩部）	＊
			中間層（歩道部）	＊
			コンクリート舗装	＊
			連続鉄筋コンクリート舗装	＊
			縦目地	＊
			横目地	＊
			目地切り・清掃	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		区画線工		
			溶融式区画線	＊
			ペイント式区画線	＊
			高視認性区画線	＊
			区画線消去	＊
			区画線消去 （ＷＪ式日当施工量未満）	＊
	吐口工			
		作業土工		MA－８
			床掘り(掘削)	＊
			床掘り	＊
			埋戻し	＊
			基面整正	＊
			掘削補助機械搬入搬出	＊
			転石破砕	＊
			積込(ルーズ)	＊
			人力積込	＊
			人力運搬	＊
			押土(ルーズ)	＊
			土砂等運搬	＊
			整地	＊
			土材料	＊
		補助地盤改良工		管路施設編　Ｉ開削工法
			薬液注入	(MC－15)
			高圧噴射攪拌	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		土留・仮締切工		
			溝掘り	＊
			鋼矢板	＊
			広幅鋼矢板	＊
			軽量鋼矢板	＊
			Ｈ鋼杭	＊
			削孔(アンカー)	＊
			アンカー鋼材加工･組立 ･挿入･緊張･定着 ･頭部処理(アンカー)	＊
			グラウト注入	＊
			ボーリングマシン移設	＊
			アンカー工材料費(アンカー)	＊
			足場(アンカー)	＊
			タイロッド、腹起し	＊
			切梁・腹起し	＊
			横矢板	＊
			盛替染	＊
			じゃかご	＊
			ふとんかご	＊
			土のう	＊
			土のう積	＊
			締切盛土	＊
			締切盛土撤去	＊
			泥土処理	＊
			中詰盛土	＊
			中詰盛土撤去	＊
		水替工		
			ポンプ排水	＊
		地下水位低下工		
			ウェルポイント	＊
			ディープウェル	

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		直接基礎工（改良）		
			粉体噴射撹拌	＊
			粉体噴射撹拌（先掘）	＊
			粉体噴射撹拌（移設）	＊
			粉体噴射撹拌（軸間変更）	＊
			スラリー撹拌	＊
			高圧噴射攪拌	＊
			中層混合処理	＊
		既製杭工		
			既製コンクリート杭	＊
			積込（ルーズ）	＊
			人力積込	＊
			整地	＊
			土砂等運搬	＊
			残土等処分	＊
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
			鋼管杭	＊
			現場取卸（鋼管杭）	＊
		場所打杭工		
			場所打杭	＊
			積込（ルーズ）	＊
			人力積込	＊
			整地	＊
			土砂等運搬	＊
			残土等処分	＊
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
			泥水処理	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		躯体工		
			基礎材	＊
			均しコンクリート	＊
			コンクリート	＊
			鉄筋	＊
			型枠	＊
			支保	＊
			足場	＊
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
		伸縮継手工		
			目地材	＊
			止水板	＊
			シール材	＊
			可とう継手	＊
		角落し工		
			角落し	
			角落し受枠	
		コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積		
			現場打基礎コンクリート	＊
			プレキャスト基礎ブロック	＊
			現場打小口止コンクリート	＊
			プレキャスト小口止ブロック	＊
			現場打横帯(隔壁)コンクリート	＊
			プレキャスト横帯(隔壁)ブロック	＊
			基礎材	＊
			中詰コンクリート	＊
			コンクリート(間知)ブロック積	＊
			大型ブロック積	＊
			胴込・裏込コンクリート	＊
			胴込・裏込材（ 砕石）	＊
			吸出し防止材（全面）設置	＊
			遮水シート張	＊
			目地板	＊
			シール材	＊
			プレキャスト巻止ブロック	＊
			養生費	＊
			現場打天端コンクリート	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工種	レベル３ 種別	レベル４ 細別	摘要
		コンクリートブロック工 （間知ブロック張）		
			現場打基礎コンクリート	*
			プレキャスト基礎ブロック	*
			現場打小口止コンクリート	*
			プレキャスト小口止ブロック	*
			現場打横帯（隔壁）コンクリート	*
			プレキャスト横帯（隔壁）ブロック	*
			基礎材	*
			中詰コンクリート	*
			間知ブロック張	*
			目地板	*
			シール材	*
			プレキャスト巻止ブロック	*
			現場打天端コンクリート	*
		コンクリートブロック工 （平ブロック張）		
			現場打基礎コンクリート	*
			プレキャスト基礎ブロック	*
			現場打小口止コンクリート	*
			プレキャスト小口止ブロック	*
			現場打横帯（隔壁）コンクリート	*
			プレキャスト横帯（隔壁）ブロック	*
			平ブロック張	*
			目地板	*
			シール材	*
			プレキャスト巻止ブロック	*
			現場打天端コンクリート	*
		コンクリートブロック工 （連節ブロック張）		
			現場打基礎コンクリート	*
			プレキャスト基礎ブロック	*
			現場打小口止コンクリート	*
			プレキャスト小口止ブロック	*
			現場打横帯（隔壁）コンクリート	*
			プレキャスト横帯（隔壁）ブロック	*
			基礎材	*
			中詰コンクリート	*
			連節ブロック積	*
			目地板	*
			シール材	*
			プレキャスト巻止ブロック	*
			現場打天端コンクリート	*

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		コンクリートブロック工 （緑化ブロック張）		
			現場打基礎コンクリート	＊
			プレキャスト基礎ブロック	＊
			現場打小口止コンクリート	＊
			プレキャスト小口止ブロック	＊
			現場打横帯（隔壁）コンクリート	＊
			プレキャスト横帯（隔壁）ブロック	＊
			基礎材	＊
			中詰コンクリート	＊
			緑化ブロック積	＊
			ブロック植栽	＊
			天端保護ブロック	＊
			目地板	＊
			シール材	＊
			プレキャスト巻止ブロック	＊
			現場打天端コンクリート	＊
		護岸付属物工		
			横帯（隔壁）コンクリート	＊
			プレキャスト横帯（隔壁）コンクリート	＊
			小口止	＊
			プレキャスト小口止	＊
			小口止矢板	＊
			縦帯コンクリート	＊
			プレキャスト縦帯コンクリート	＊
			巻止コンクリート	＊
			プレキャスト巻止コンクリート	＊
			平張コンクリート	＊
			遮水シート張	＊
			手摺	
		石積（張）工（構造物単位）		
			石積（張）基礎	＊
			プレキャスト基礎ブロック	＊
			現場打小口止コンクリート	＊
			プレキャスト小口止ブロック	＊
			現場打横帯（隔壁）コンクリート	＊
			プレキャスト横帯（隔壁）ブロック	＊
			基礎材	＊
			中詰コンクリート	＊
			石積	＊
			石張	＊
			胴込・裏込コンクリート	＊
			裏込材	＊
			現場打天端コンクリート	＊
			目地板	＊
			シール材	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		石積（張）工		
			石積（張）基礎	＊
			プレキャスト基礎ブロック	＊
			現場打小口止コンクリート	＊
			プレキャスト小口止ブロック	＊
			現場打横帯(隔壁)コンクリート	＊
			プレキャスト横帯(隔壁)ブロック	＊
			基礎材	＊
			中詰コンクリート	＊
			石張	＊
			石積	＊
			胴込･裏込コンクリート	＊
			裏込材	＊
			現場打天端コンクリート	＊
			目地板	＊
			シール材	＊
		法枠工		
			現場打法枠	＊
			プレキャスト法枠	＊
			吹付枠	＊
		羽口工		
			じゃかご	＊
			ふとんかご	＊
			かご枠	
			連節ブロック張	＊
			連節ブロック水中吊落し	＊
			連節ブロック張(コンクリート)	＊
			連節ブロック張(型枠)	＊
		根固めブロック工		
			根固めブロック製作	＊
			消波根固めブロック製作	＊
			根固めブロック据付	＊
			消波根固めブロック仮置	＊
			消波根固めブロック運搬	＊
			袋詰玉石	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		間詰工		
			間詰コンクリート	＊
			袋詰玉石	＊
			吸出し防止材	＊
		沈床工		
			粗朶沈床	＊
			袋詰玉石	＊
			吸出し防止材	＊
			粗朶単床	＊
		捨石工		
			捨石	＊
			表面均し	＊
		かご工		
			じゃかご	＊
			ふとんかご	＊
	場内･進入道路工			MA－９
		掘削工		
			掘削	＊
			土砂等運搬	＊
			軟弱土等運搬	＊
			整地	＊
			転石破砕	＊
			押土(ルーズ)	＊
			積込(ルーズ)	＊
			人力積込	＊
		残土処理工		
			整地	＊
			土砂等運搬	＊
			残土等処分	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		舗装版破砕工		
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
			舗装版切断	＊
			舗装版破砕	＊
		路面切削工		
			路面切削	＊
			殻運搬（路面切削）	＊
			殻処分	＊
		路床安定処理工		
			安定処理	＊
		盛土工		
			路体（築堤）盛土	＊
			路床盛土	＊
			土砂等運搬	＊
			整地	＊
			押土（ルーズ）	＊
			積込（ルーズ）	＊
			人力積込	＊
			土材料	＊
		法面整形工		
			法面整形（切土部）	＊
			法面整形（盛土部）	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		植生工		
			種子散布	＊
			張芝	＊
			筋芝	＊
			市松芝	＊
		舗装準備工		
			不陸整正	＊
		アスファルト舗装工		
			下層路盤（車道・路肩部）	＊
			下層路盤（歩道部）	＊
			上層路盤（車道・路肩部）	＊
			上層路盤（歩道部）	＊
			基層（車道・路肩部）	＊
			基層（歩道部）	＊
			中間層（車道・路肩部）	＊
			中間層（歩道部）	＊
			表層（車道・路肩部）	＊
			表層（歩道部）	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		コンクリート舗装工		
			下層路盤（車道・路肩部）	＊
			下層路盤（歩道部）	＊
			上層路盤（車道・路肩部）	＊
			上層路盤（歩道部）	＊
			中間層（車道・路肩部）	＊
			中間層（歩道部）	＊
			コンクリート舗装	＊
			連続鉄筋コンクリート舗装	＊
			縦目地	＊
			横目地	＊
			目地切り・清掃	＊
		薄層カラー舗装工		
			下層路盤（車道・路肩部）	＊
			下層路盤（歩道部）	＊
			上層路盤（車道・路肩部）	＊
			上層路盤（歩道部）	＊
			薄層カラー舗装	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		ブロック舗装工		
			下層路盤（車道・路肩部）	＊
			下層路盤（歩道部）	＊
			上層路盤（車道・路肩部）	＊
			上層路盤（歩道部）	＊
			インターロッキングブロック舗装	＊
			特殊ブロック舗装	＊
			平石張	＊
		区画線工		
			溶融式区画線	＊
			ペイント式区画線	＊
			高視認性区画線	＊
			区画線消去	＊
			区画線消去 （ＷＪ式日当施工量未満）	＊
		道路付属物工		
			視線誘導標	＊
			距離標	＊
			道路鋲	＊
			車線分離標	＊
			アンカー	＊
		小型標識工		
			標識柱	＊
			標識板	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		作業土工		
			床掘り（掘削）	＊
			床掘り	＊
			埋戻し	＊
			基面整正	＊
			掘削補助機械搬入搬出	＊
			転石破砕	＊
			積込（ルーズ）	＊
			人力積込	＊
			人力運搬	＊
			押土（ルーズ）	＊
			土砂等運搬	＊
			整地	＊
			土材料	＊
		路側防護柵工		
			ガードレール	＊
			ガードパイプ	＊
			ガードケーブル	＊
		縁石工		
			歩車道境界ブロック	＊
			地先境界ブロック	＊
			植樹ブロック	＊
			アスカーブ	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		側溝工		
			プレキャストＬ形側溝	＊
			Ｌ形側溝	＊
			均しコンクリート	＊
			ＰＣ管	＊
			ヒューム管(Ｂ形管)	＊
			暗渠排水管	＊
			管（函）渠型側溝	＊
			鉄筋コンクリート台付管	＊
			巻きコンクリート	＊
			側溝基礎	＊
			プレキャストＵ型側溝	＊
			コルゲートフリューム	＊
			自由勾配側溝	＊
			側溝蓋	＊
		ます設置工		管路施設編　Ｉ開削工法
			ます	(MC－23)
	擁壁工			MA－10
		作業土工		
			床掘り(掘削)	＊
			床掘り	＊
			埋戻し	＊
			基面整正	＊
			掘削補助機械搬入搬出	＊
			転石破砕	＊
			積込(ルーズ)	＊
			人力積込	＊
			人力運搬	＊
			押土(ルーズ)	＊
			土砂等運搬	＊
			整地	＊
			土材料	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		補助地盤改良工		管路施設編　Ⅰ開削工法
			薬液注入	(MC－15)
			高圧噴射攪拌	＊
		土留・仮締切工		
			溝掘り	＊
			鋼矢板	＊
			広幅鋼矢板	＊
			軽量鋼矢板	＊
			Ｈ鋼杭	＊
			削孔(アンカー)	＊
			アンカー鋼材加工･組立 ･挿入･緊張･定着 ･頭部処理(アンカー)	＊
			グラウト注入	＊
			ボーリングマシン移設	＊
			アンカー工材料費(アンカー)	＊
			足場(アンカー)	＊
			タイロッド・腹起し	＊
			切梁・腹起し	＊
			横矢板	＊
			盛替染	＊
			じゃかご	＊
			ふとんかご	＊
			土のう	＊
			土のう積	＊
			締切盛土	＊
			締切盛土撤去	＊
			泥土処理	＊
			中詰盛土	＊
			中詰盛土撤去	＊
		水替工		
			ポンプ排水	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		地下水位低下工		
			ウェルポイント	＊
			ディープウェル	
		既製杭工		
			既製コンクリート杭	＊
			積込（ルーズ）	＊
			人力積込	＊
			整地	＊
			土砂等運搬	＊
			残土等処分	＊
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
			鋼管杭	＊
			現場取卸（鋼管杭）	＊
		場所打杭工		
			場所打杭	＊
			積込（ルーズ）	＊
			人力積込	＊
			整地	＊
			土砂等運搬	＊
			残土等処分	＊
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
			泥水処理	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		場所打擁壁工		
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
			基礎材	＊
			均しコンクリート	＊
			コンクリート	＊
			型枠	＊
			鉄筋	＊
			足場	＊
			目地材	＊
			止水板	＊
			シール材	＊
			水抜パイプ	＊
			吸出し防止材	＊
			排水材設置	
		プレキャスト擁壁工		
			プレキャスト擁壁	＊
			排水材設置	
		帯鋼補強土壁・ アンカー補強土壁工		
			補強土壁基礎	＊
			補強土壁壁面材組立・設置	＊
			補強材取付	＊
			まき出し･敷均し、締固め	＊
			採取土盛土材	＊
			壁面上端処理	＊
			排水管敷設	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘要
		ジオテキスタイル補強土壁工 （二重壁タイプ）		
			補強土壁基礎	＊
			補強土壁壁面材組立･設置	＊
			補強材取付	＊
			砕石投入	＊
			まき出し･敷均し、締固め	＊
			採取土盛土材	＊
			壁面上端処理	＊
			排水管敷設	＊
		ジオテキスタイル補強土壁工 （鋼製枠タイプ）		
			補強土壁基礎	＊
			ジオテキスタイル壁面材組立･設置	＊
			ジオテキスタイル敷設	＊
			まき出し･敷均し、締固め	＊
			採取土盛土材	＊
			壁面上端処理	＊
			排水管敷設	＊
		補強盛土工		
			補強土壁基礎	＊
			ジオテキスタイル壁面材組立･設置	＊
			ジオテキスタイル敷設	＊
			まき出し･敷均し、締固め	＊
			採取土盛土材	＊
			壁面上端処理	＊
			排水管敷設	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工種	レベル３ 種別	レベル４ 細別	摘要
		コンクリートブロック工(コンクリートブロック積)		
			現場打基礎コンクリート	*
			プレキャスト基礎ブロック	*
			現場打小口止コンクリート	*
			プレキャスト小口止ブロック	*
			現場打横帯(隔壁)コンクリート	*
			プレキャスト横帯(隔壁)ブロック	*
			基礎材	*
			中詰コンクリート	*
			コンクリート(間知)ブロック積	*
			大型ブロック積	*
			胴込･裏込コンクリート	*
			胴込･裏込材(砕石)	*
			吸出し防止材(全面)設置	*
			遮水シート張	*
			目地板	*
			シール材	*
			プレキャスト巻止ブロック	*
			養生費	*
			現場打天端コンクリート	*
		コンクリートブロック工(間知ブロック張)		
			現場打基礎コンクリート	*
			プレキャスト基礎ブロック	*
			現場打小口止コンクリート	*
			プレキャスト小口止ブロック	*
			現場打横帯(隔壁)コンクリート	*
			プレキャスト横帯(隔壁)ブロック	*
			基礎材	*
			中詰コンクリート	*
			間知ブロック張	*
			目地板	*
			シール材	*
			プレキャスト巻止ブロック	*
			現場打天端コンクリート	*
		コンクリートブロック工(平ブロック張)		
			現場打基礎コンクリート	*
			プレキャスト基礎ブロック	*
			現場打小口止コンクリート	*
			プレキャスト小口止ブロック	*
			現場打横帯(隔壁)コンクリート	*
			プレキャスト横帯(隔壁)ブロック	*
			平ブロック張	*
			目地板	*
			シール材	*
			プレキャスト巻止ブロック	*
			現場打天端コンクリート	*

レベル１ 工事区分	レベル２ 工種	レベル３ 種別	レベル４ 細別	摘要
		コンクリートブロック工（連節ブロック張）		
			現場打基礎コンクリート	*
			プレキャスト基礎ブロック	*
			現場打小口止コンクリート	*
			プレキャスト小口止ブロック	*
			現場打横帯（隔壁）コンクリート	*
			プレキャスト横帯（隔壁）ブロック	*
			基礎材	*
			中詰コンクリート	*
			連節ブロック積	*
			目地板	*
			シール材	*
			プレキャスト巻止ブロック	*
			現場打天端コンクリート	*
		コンクリートブロック工（緑化ブロック張）		
			現場打基礎コンクリート	*
			プレキャスト基礎ブロック	*
			現場打小口止コンクリート	*
			プレキャスト小口止ブロック	*
			現場打横帯（隔壁）コンクリート	*
			プレキャスト横帯（隔壁）ブロック	*
			基礎材	*
			中詰コンクリート	*
			緑化ブロック積	*
			ブロック植栽	*
			天端保護ブロック	*
			目地板	*
			シール材	*
			プレキャスト巻止ブロック	*
			現場打天端コンクリート	*
		緑化ブロック工		
			緑化ブロック積	*
			遮水シート張	*
			養生費	*
			足場	*
			ブロック植栽	*
			現場打天端コンクリート	*
			目地板	*
			シール材	*

レベル１ 工事区分	レベル２ 工種	レベル３ 種別	レベル４ 細別	摘要
		石積(張)工(構造物単位)		
			石積(張)基礎	＊
			プレキャスト基礎ブロック	＊
			現場打小口止コンクリート	＊
			プレキャスト小口止ブロック	＊
			現場打横帯(隔壁)コンクリート	＊
			プレキャスト横帯(隔壁)ブロック	＊
			基礎材	＊
			中詰コンクリート	＊
			石積	＊
			石張	＊
			現場打天端コンクリート	＊
			目地板	＊
			シール材	＊
		石積（張）工		
			石積（張）基礎	＊
			プレキャスト基礎ブロック	＊
			現場打小口止コンクリート	＊
			プレキャスト小口止ブロック	＊
			現場打横帯(隔壁)コンクリート	＊
			プレキャスト横帯(隔壁)ブロック	＊
			基礎材	＊
			中詰コンクリート	＊
			石積	＊
			石張	＊
			胴込･裏込コンクリート	＊
			裏込材	＊
			現場打天端コンクリート	＊
			目地板	＊
			シール材	＊
	場内植栽工			MA－11
		植栽工		
			植樹帯盛土	＊
			植樹	＊
			地被類植付	＊
			支柱	＊
			樹名板	
		移植工		
			移植	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工種	レベル３ 種別	レベル４ 細別	摘要
		植生工		
			種子散布	＊
			客土吹付	＊
			植生基材吹付	＊
			植生シート	＊
			植生マット	＊
			植生筋	＊
			張芝	＊
			筋芝	＊
			市松芝	＊
			人工張芝	＊
			植生穴	
	修景池・水路工			MA－12
		作業土工		
			床掘り（掘削）	＊
			床掘り	＊
			埋戻し	＊
			基面整正	＊
			掘削補助機械搬入搬出	＊
			転石破砕	＊
			積込（ルーズ）	＊
			人力積込	＊
			人力運搬	＊
			押土（ルーズ）	＊
			土砂等運搬	＊
			整地	＊
			土材料	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		植樹ます工		
			植樹ます	
		修景池工		
			基礎材	＊
			均しコンクリート	＊
			コンクリート	＊
			型枠	＊
			鉄筋	＊
			シート防水（修景）	
			止水板	＊
			目地板	＊
			シール材	＊
			仕上げ	
			小型角落し	
		修景池水路及びます工		
			基礎材	＊
			均しコンクリート	＊
			コンクリート	＊
			型枠	＊
			鉄筋	＊
			シート防水（修景）	
			止水板	＊
			目地板	＊
			シール材	＊
			集水ます（既製）	
			集水ます（現場打）	

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
	場内付帯工			MA－13
		作業土工		
			床掘り（掘削）	＊
			床掘り	＊
			埋戻し	＊
			基面整正	＊
			掘削補助機械搬入搬出	＊
			転石破砕	＊
			積込（ルーズ）	＊
			人力積込	＊
			人力運搬	＊
			押土（ルーズ）	＊
			土砂等運搬	＊
			整地	＊
			土材料	＊
		門扉工		
			基礎材	＊
			均しコンクリート	＊
			コンクリート	＊
			型枠	＊
			鉄筋	＊
			仕上げ	
			門扉	
			銘板	
			郵便受け	
		フェンス工		
			フェンス基礎(プレキャスト)	
			フェンス基礎（現場打）	
			フェンス	
		デッキ工		
			デッキ基礎	
			デッキ	

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		四阿工		
			四阿基礎	
			四阿	
		ベンチ工		
			ベンチ基礎	
			ベンチ	
		モニュメント工		
			モニュメント基礎	
			モニュメント	
		パーゴラ工		
			パーゴラ基礎	
			パーゴラ	
		旗ポール工		
			旗ポール基礎	
			旗ポール	
		遊具工		
			遊具基礎	
			遊具	
		案内板工		
			案内板基礎	
			案内板	
		花壇工		
			基礎材	＊
			均しコンクリート	＊
			コンクリート	＊
			型枠	＊
			鉄筋	＊
			仕上げ	
			客土	

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		階段工		
			基礎材	＊
			均しコンクリート	＊
			コンクリート	＊
			型枠	＊
			仕上げ	
			ノンスリップ	
		給水設備工		
			ディープウェル井	
			さく井	
		照明工		
			照明柱基礎	＊
			照明柱	＊
	構造物撤去工			MA－14
		作業土工		
			床掘り（掘削）	＊
			床掘り	＊
			埋戻し	＊
			基面整正	＊
			掘削補助機械搬入搬出	＊
			転石破砕	＊
			積込（ルーズ）	＊
			人力積込	＊
			人力運搬	＊
			押土（ルーズ）	＊
			土砂等運搬	＊
			整地	＊
			土材料	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		構造物取壊し工		
			コンクリート構造物取壊し	＊
			舗装版切断	＊
			舗装版破砕	＊
			コンクリートはつり	＊
			コンクリート表面処理	＊
			吹付法面取壊し	＊
			鋼材切断	＊
			鋼矢板引抜き	＊
			広幅鋼矢板引抜き	＊
			H鋼杭引抜き	＊
			コンクリートブロック撤去	
			根固めブロック撤去	＊
			コンクリート取壊し運搬処理	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		構造物撤去工		
			Ｌ形側溝撤去	＊
			ヒューム管撤去	＊
			ボックスカルバート撤去	＊
			ＰＣ管撤去	＊
			暗渠排水管撤去	＊
			管（函）渠型側溝撤去	＊
			集水桝撤去	＊
			コルゲートパイプ撤去	＊
			コルゲートフリューム撤去	＊
			マンホール撤去	＊
			鉄筋コンクリート台付管撤去	＊
			Ｕ型側溝撤去	＊
			蓋版撤去	＊
			プレキャスト擁壁撤去	
			フェンス撤去	
			手摺撤去	
			歩車道境界ブロック撤去	＊
			地先境界ブロック撤去	＊
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
			現場発生品運搬	＊
	コンクリート 構造物補修工			MA－15
		劣化部除去工		MB－15－１
			劣化部除去	MC－15－１－１
			殻運搬	＊
			殻処分	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		鉄筋処理工		MB－15－２
			鉄筋処理	MC－15－２－１
		断面修復工		MB－15－３
			断面修復	MC－15－３－１
		防食工		
			コンクリート防食被覆	
		改築足場工		MB－15－４
			改築足場	MC－15－４－１
	仮設工			
		工事用道路工		
			工事用道路盛土	＊
			安定処理	＊
			敷砂利	
			敷鉄板	＊
			仮設舗装	＊
			仮設アスカーブ	＊
			舗装版切断	＊
			舗装版破砕	＊
			工事用道路補修	＊
			土のう	＊
			土のう積	＊
			殻運搬	＊
			殻処分	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		仮橋･仮桟橋工		
			床掘り（掘削）	＊
			床掘り	＊
			埋戻し	＊
			基面整正	＊
			掘削補助機械搬入搬出	＊
			転石破砕	＊
			積込（ルーズ）	＊
			人力積込	＊
			人力運搬	＊
			押土（ルーズ）	＊
			整地	＊
			土砂等運搬	＊
			残土等処分	＊
			土材料	＊
			仮橋コンクリート基礎	＊
			橋脚	＊
			仮橋上部	＊
			覆工板設置･撤去	＊
			仮設高欄	＊
			コンクリート構造物取壊し	＊
			積込（コンクリート殻）	＊
			殻運搬	＊
			殻処分	＊
			鋼管杭	＊
			現場取卸（鋼管杭）	＊
			防舷材	
		路面覆工		
			覆工板受桁	＊
			覆工板設置･撤去	＊
			覆工板･覆工板受桁	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		土留・仮締切工		
			溝掘り	＊
			鋼矢板	＊
			広幅鋼矢板	＊
			軽量鋼矢板	＊
			Ｈ鋼杭	＊
			削孔（アンカー）	＊
			アンカー鋼材加工･組立 ･挿入･緊張･定着 ･頭部処理（アンカー）	＊
			グラウト注入	＊
			ボーリングマシン移設	＊
			アンカー工材料費（アンカー）	＊
			足場（アンカー）	＊
			タイロッド・腹起し	＊
			切梁・腹起し	＊
			横矢板	＊
			盛替染	＊
			じゃかご	＊
			ふとんかご	＊
			土のう	＊
			土のう積	＊
			締切盛土	＊
			締切盛土撤去	＊
			泥土処理	＊
			中詰盛土	＊
			中詰盛土撤去	＊
		水替工		
			ポンプ排水	＊
		地下水位低下工		
			ウェルポイント	＊
			ディープウェル	

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		仮水路工		
			ヒューム管	＊
			コルゲートパイプ	＊
			暗渠排水管	＊
			フィルター材	＊
			素掘側溝	＊
			土のう	＊
			土のう積	＊
		残土受入れ施設工		
			土のう	＊
			土のう積	＊
		作業ヤード整備工		
			ヤード造成	＊
		電力設備工		
			受電設備	＊
			配電設備	＊
			電動機設備	＊
			照明設備	＊
		防塵対策工		
			仮設舗装	＊
			タイヤ洗浄装置	
			路面清掃	＊
			散水	＊
		汚濁防止工		
			汚濁防止フェンス	＊
			濁水処理設備	＊
		防護施設工		
			切土及び発破防護柵	＊
			仮囲い	＊
		除雪工		
			現場内除雪（機械）	
			現場内除雪（人力）	
			仮囲い屋根部	＊

レベル１ 工事区分	レベル２ 工　　種	レベル３ 種　　別	レベル４ 細　　別	摘　　要
		雪寒施設工		
			ウェザーシェルター	
			雪寒仮囲い（Ｐタイプ）	＊
			雪寒仮囲い(W･ＰWタイプ)	＊
		法面吹付工		
			仮設用モルタル吹付	＊
		仮区画線工		
			仮区画線	＊
		防音工		管路施設編　Ｉ開削工法
			仮設防音壁	(MC－200)
			仮設防音ハウス	(MC－201)
			仮設防音工基礎	(MC－202)
			仮設防音工換気照明設備	(MC－203)
		交通管理工		
			交通誘導警備員	＊

備考　１　摘要欄に＊印のあるものは、「**土木工事標準積算基準書**」によることを標準とする。

　　２　摘要欄の（括弧書き）は「**管路施設編　Ｉ開削工法**」での項目番号を示している。

MA－１　敷地造成土工

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
掘　削　工		式	1			土木工事積算基準による
盛　土　工		式	1			土木工事積算基準による
法面整形工		式	1			土木工事積算基準による
残土処理工		式	1			土木工事積算基準による
計						

MA－２　法面工

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
法　枠　工		式	1			土木工事積算基準による
植　生　工		式	1			土木工事積算基準による
計						

MA－３　地盤改良工

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
表層安定処理		式	1			土木工事積算基準による
バーチカルﾄﾞﾚｰﾝ工		式	1			土木工事積算基準による
締固め改良工		式	1			土木工事積算基準による
固　結　工		式	1			土木工事積算基準による
計						

MA－４　本体作業土工

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
床掘・埋戻工		式	1			土木工事積算基準による
掘　削　工		式	1			土木工事積算基準による
盛　土　工		式	1			土木工事積算基準による
法面整形工		式	1			土木工事積算基準による
残土処理工		式	1			土木工事積算基準による
計						

MA－５　本体仮設工

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
土　留　・　仮締切工		式	1			土木工事積算基準による
地中連続壁工（壁式）		式	1			(下位代価なし)
地中連続壁工（柱列式）		式	1			(下位代価なし)
補助地盤改良工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
水　替　工		式	1			土木工事積算基準による
地下水位低下工		式	1			土木工事積算基準による
仮橋・仮桟橋工		式	1			土木工事積算基準による
計						

MA－６　本体築造工

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
直接基礎工(改良)		式	1			土木工事積算基準による
既製杭工		式	1			土木工事積算基準による
場所打杭工		式	1			土木工事積算基準による
オープンケーソン基礎工		式	1			(下位代価なし)
ニューマチックケーソン基礎工		式	1			土木工事積算基準による
躯体工		式	1			MB－６－１
伸縮継手工		式	1			MB－６－２
越流樋工		式	1			(下位代価なし)
越流堰板工		式	1			(下位代価なし)
蓋工		式	1			(下位代価なし)
角落し工		式	1			(下位代価なし)
手摺工		式	1			(下位代価なし)
防食工		式	1			土木工事積算基準による※
左官工		式	1			MB－６－３
防水工		式	1			(下位代価なし)
塗装工		式	1			(下位代価なし)
埋込管工		式	1			(下位代価なし)
仮壁撤去工		式	1			土木工事積算基準による
付属物工		式	1			(下位代価なし)
計						

※一部細別に下位代価無し

MA－７　場内管路工

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
作　業　土　工		式	1			土木工事積算基準による
補助地盤改良工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
管　路　土　留　工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
路　面　覆　工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
開　削　水　替　工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
地下水位低下工		式	1			土木工事積算基準による
管　基　礎　工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
管　布　設　工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
水　路　築　造　工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
側　溝　工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
標準マンホール工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
組立マンホール工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
小型マンホール工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
取付管布設工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
ま　す　設　置　工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
舗装版破砕工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
路　面　切　削　工		式	1			土木工事積算基準による
アスファルト舗装復旧工		式	1			土木工事積算基準による
コンクリート舗装復旧工		式	1			土木工事積算基準による
区　画　線　工		式	1			土木工事積算基準による
計						

MA－８　吐口工

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
作　業　土　工		式	1			土木工事積算基準による
補助地盤改良工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
土留・仮締切工		式	1			土木工事積算基準による
水　替　工		式	1			土木工事積算基準による
地下水位低下工		式	1			土木工事積算基準による
直接基礎工(改良)		式	1			土木工事積算基準による
既　製　杭　工		式	1			土木工事積算基準による
場　所　打　杭　工		式	1			土木工事積算基準による
軀　体　工		式	1			土木工事積算基準による
伸　縮　継　手　工		式	1			土木工事積算基準による
角　落　し　工		式	1			(下位代価なし)
コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積)		式	1			土木工事積算基準による
コンクリートブロック工 (間知ブロック張)		式	1			土木工事積算基準による
コンクリートブロック工 (平ブロック積)		式	1			土木工事積算基準による
コンクリートブロック工 (連節ブロック張)		式	1			土木工事積算基準による
コンクリートブロック工 (緑化ブロック積)		式	1			土木工事積算基準による
護岸付属物工		式	1			土木工事積算基準による
石積(張)工(構造物単位)		式	1			土木工事積算基準による
石　積　(　張　)　工		式	1			土木工事積算基準による
法　枠　工		式	1			土木工事積算基準による
羽　口　工		式	1			土木工事積算基準による
根固めブロック工		式	1			土木工事積算基準による
間　詰　工		式	1			土木工事積算基準による
沈　床　工		式	1			土木工事積算基準による
捨　石　工		式	1			土木工事積算基準による
か　ご　工		式	1			土木工事積算基準による
計						

MA－９　場内・進入道路工

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
掘　削　工		式	1			土木工事積算基準による
残土処理工		式	1			土木工事積算基準による
舗装版破砕工		式	1			土木工事積算基準による
路面切削工		式	1			土木工事積算基準による
路床安定処理工		式	1			土木工事積算基準による
盛　土　工		式	1			土木工事積算基準による
法面整形工		式	1			土木工事積算基準による
植　生　工		式	1			土木工事積算基準による
舗装準備工		式	1			土木工事積算基準による
アスファルト舗装工		式	1			土木工事積算基準による
コンクリート舗装工		式	1			土木工事積算基準による
薄層カラー舗装工		式	1			土木工事積算基準による
ブロック舗装工		式	1			土木工事積算基準による
区　画　線　工		式	1			土木工事積算基準による
道路付属物工		式	1			土木工事積算基準による
小型標識工		式	1			土木工事積算基準による
作　業　土　工		式	1			土木工事積算基準による
路側防護柵工		式	1			土木工事積算基準による
縁　石　工		式	1			土木工事積算基準による
側　溝　工		式	1			土木工事積算基準による
ま す 設 置 工		式	1			管路施設編　Ⅰ開削工法
計						

MA－10　擁壁工

種目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘要
作業土工		式	1			土木工事積算基準による
補助地盤改良工		式	1			**管路施設編　Ⅰ開削工法**
土留・仮締切工		式	1			土木工事積算基準による
水替工		式	1			土木工事積算基準による
地下水位低下工		式	1			土木工事積算基準による
既製杭工		式	1			土木工事積算基準による
場所打杭工		式	1			土木工事積算基準による
場所打擁壁工		式	1			土木工事積算基準による
プレキャスト擁壁工		式	1			土木工事積算基準による
帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁工		式	1			土木工事積算基準による
ジオテキスタイル補強土壁工 (二重壁タイプ)		式	1			土木工事積算基準による
ジオテキスタイル補強土壁工 (鋼製枠タイプ))		式	1			土木工事積算基準による
補強盛土工		式	1			土木工事積算基準による
コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積)		式	1			土木工事積算基準による
コンクリートブロック工 (間知ブロック張)		式	1			土木工事積算基準による
コンクリートブロック工 (平ブロック積)		式	1			土木工事積算基準による
コンクリートブロック工 (連節ブロック張)		式	1			土木工事積算基準による
コンクリートブロック工 (緑化ブロック積)		式	1			土木工事積算基準による
緑化ブロック工		式	1			土木工事積算基準による
石積（張）工（構造物単位）		式	1			土木工事積算基準による
石積（張）工		式	1			土木工事積算基準による
計						

MA－11　場内植栽工

種目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘要
植栽工		式	1			土木工事積算基準による
移植工		式	1			土木工事積算基準による
植生工		式	1			土木工事積算基準による
計						

※一部細別に下位代価無し

MA－12　修景池・水路工

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
作　業　土　工		式	1			土木工事積算基準による
植　ま　す　工		式	1			(下位代価なし)
修　景　池　工		式	1			土木工事積算基準による※
修景池水路及びます工		式	1			土木工事積算基準による※
計						

※一部細別に下位代価無し

MA－13　場内付帯工

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
作　業　土　工		式	1			土木工事積算基準による
門　扉　工		式	1			土木工事積算基準による※
フ　ェ　ン　ス　工		式	1			(下位代価なし)
デ　ッ　キ　工		式	1			(下位代価なし)
四　阿　工		式	1			(下位代価なし)
ベ　ン　チ　工		式	1			(下位代価なし)
モニュメント工		式	1			(下位代価なし)
パ　ー　ゴ　ラ　工		式	1			(下位代価なし)
旗　ポ　ー　ル　工		式	1			(下位代価なし)
遊　具　工		式	1			(下位代価なし)
案　内　板　工		式	1			(下位代価なし)
花　壇　工		式	1			土木工事積算基準による※
階　段　工		式	1			土木工事積算基準による※
給　水　設　備　工		式	1			(下位代価なし)
照　明　工		式	1			土木工事積算基準による
計						

※一部細別に下位代価無し

MA－14　構造物撤去工

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
作　業　土　工		式	1			土木工事積算基準による
構造物取壊し工		式	1			土木工事積算基準による
構　造　物　撤　去　工		式	1			土木工事積算基準による※
計						

※一部細別に下位代価無し

MA－15　コンクリート構造物補修工

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
劣化部除去工		式	1			MB－15－１
鉄筋処理工		式	1			MB－15－２
断面修復工		式	1			MB－15－３
防食工		式	1			(下位代価なし)
計						

MB－６－１　躯体工

(一式)

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　要
基礎材		m2				土木工事積算基準による
均しコンクリート		m2				土木工事積算基準による
コンクリート		m3				土木工事積算基準による
型枠		m2				土木工事積算基準による
鉄筋		t				土木工事積算基準による
足場		掛m2				土木工事積算基準による
支保		空m3				土木工事積算基準による
チッピング		m2				(下位代価なし)
殻運搬		m3				土木工事積算基準による
殻処分		m3				土木工事積算基準による
計						

MB－６－２　伸縮継手工

(一式)

種　　目	形状寸法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　要
目地材		m2				土木工事積算基準による
止水板		m				土木工事積算基準による
伸縮目地充填		m				(下位代価なし)
可とう継手		箇所				土木工事積算基準による
スリップバー		組				土木工事積算基準による
計						

MB－６－３　左官工

(一式)

種　　目	形 状 寸 法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　要
コンクリート金ごて仕上げ		m2				(下位代価なし)
モルタル金ごて仕上げ		m2				(下位代価なし)
防水モルタル金ごて仕上げ		m2				(下位代価なし)
計						

MB－15－１　劣化部除去工

(一式)

種　　目	形 状 寸 法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　要
劣　化　部　除　去		m2				MC－15－１－１
殻　　運　　搬		m3				土木工事積算基準による
殻　　処　　分		m3				土木工事積算基準による
計						

MB－15－２　鉄筋処理工

(一式)

種　　目	形 状 寸 法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　要
鉄　　筋　　処　　理		m				MC－15－２－１
計						

MB－15－３　断面修復工

(一式)

種　　目	形 状 寸 法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　要
断　　面　　修　　復		m2				MC－15－３－１
計						

MB－15－４　改築足場工

(一式)

種　　目	形 状 寸 法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　要
改　　築　　足　　場		掛m2				MC－15－４－１
計						

備考　足場材の鉛直方向の現場内小運搬作業は、改築現場内小運搬工を共通仮設費の運搬費に別途計上する。

MB－15－１　劣化部除去工

劣化部除去工

１．適用範囲

本資料は、下水道施設（処理場・ポンプ場）における、劣化した既設鉄筋コンクリート構造物を超高圧水により除去する作業に適用する。なお、１工事当りの対象面積は3,000m2以下、施工厚みについては40mmまでとする。また、これらの適用範囲を超えるものについては、別途考慮する。

２．使用機械

劣化部除去に使用する機械の機種・規格は次表を標準とする。

表－２－１　機械の機種・規格

機　　種	規　　格
超高圧水発生装置	圧力 240MPa
空気圧縮機	可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・排出ガス対策型(第１次基準) 2.0m3／min
工事用水中モータポンプ	φ50mm
発動発電機	ガソリンエンジン駆動 3kVA

備考　１　工事用水中モータポンプの動力源は、発動発電機を標準とする。
２　空気圧縮機、工事用水中モータポンプ及び発動発電機は、賃料を標準とする。
３　現場の状況により上表により難い場合は、別途考慮する。

３．施工歩掛

（１）労務歩掛

超高圧水処理による劣化部除去の歩掛は、次表を標準とする。

表－３－１　労務歩掛表　（人／100m2当り）

土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
1.9	4.8	2.2

（２）諸経費

諸経費は、超高圧水処理のハンドガン、水タンク、耐圧ホースなどの費用であり、労務費、運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表－３－２　諸経費率　（%）

諸経費率	9

4． 単価表

（1）劣化部除去工

MC－15－１－１　劣化部除去工

施工単価コード	DGD70310

（１m2当り）

名　　称	形 状 寸 法	単位	数量	単価（円）	金額(円)	摘　　要
土木一般世話役		人				表－３－１
特殊作業員		人				表－３－１
普通作業員		人				表－３－１
超高圧水発生装置運転	圧力 240MPa	日	1.9			
空気圧縮機運転	可搬式・ｴﾝｼﾞﾝ駆動・ｽｸﾘｭ型・排出ｶﾞｽ対策型（第１次基準値）2.0m3／ｍｉｎ	日	1.9			
工事用水中ﾓｰﾀﾎﾟﾝﾌﾟ運転	φ50ｍｍ	日	1.9			
発動発電機運転	ｶﾞｿﾘﾝｴﾝｼﾞﾝ駆動3kVA	日	1.9			
水		m3				有料水道水の場合に計上
諸　経　費		式	1			表－３－２
計						100m2当り
１　ｍ２　当　り						計／100m2

備考　現場の状況により車上プラントが必要な場合は、トラック損料としてトラック（5～5.5t積)を計上する。

トラック損料は、「建設機械等損料算定表」の供用１日当り損料額(11)欄を用いること。

トラック損料日数＝１．９日×α

α：供用日の割増率

（2）殻運搬処理

殻運搬処理は運搬形態に適した方法で積算する。

（3）機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
超高圧水発生装置	圧力240MPa	機－12	燃料消費量　→197 機械損料数量→1.0
空気圧縮機	可搬式 排出ガス対策型(第１次基準値) 2.0m3／min	機－16	燃料消費量　→15 機械賃料数量→1.7
工事用水中モータポンプ	φ50mm	機－30	（作業時排水） 機械賃料数量→1.2
発動発電機	ガソリンエンジン駆動　3kVA	機－16	（作業時排水） 燃料消費量　→11 機械賃料数量→1.2

コンクリート構造物補修工（劣化部除去工）機械器具損料

機種	規格				基礎価格	標準使用年数	年間標準			維持修理費率	年間管理費率	残存率	運転１時間当り		供用１日当り		運転1時間当り換算値		供用１日当り換算値		摘要
	諸元	機械質量(t)	機関出力				運転時間	運転日数	供用日数				損料率 ($\times 10^6$)	損料(円)	損料率 ($\times 10^6$)	損料(円)	損料率 ($\times 10^6$)	損料(円)	損料率 ($\times 10^6$)	損料(円)	
			(kW)	(PS)	(千円)	(年)	(時間)	(日)	(日)	(%)	(%)	(%)									
超高圧水発生装置	圧力 240 MPa																				(2071-021) 工事用 高圧洗浄機

※超高圧水発生装置運転１日当たり単価表の作成に当たっては、上記損料表適用欄に記載されている分類コード番号（建設機械等損料算定表）の機械損料率を適用することができる。

MB－15－２　鉄筋処理工

鉄筋処理工

１．適用範囲

本資料は、下水道施設（処理場・ポンプ場）における既設鉄筋コンクリート構造物で、劣化部除去によりはつり出した鉄筋の錆びの除去、防錆剤の塗布作業に適用する。なお、対象範囲は鉄筋処理延長３００m以下とする。また、適用範囲を超えるものについては、別途考慮する。

２．施工歩掛

（１）労務歩掛

鉄筋処理の歩掛は、**表－２－１**を標準とする。

表－２－１　労務歩掛表　　（人／100m当り）

土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
1.8	2.1	1.1

（２）諸雑費

諸経費は、ディスクサンダー、ワイヤーブラシ、はけ、防錆剤、防錆剤攪拌機、発動発電機運転経費等の費用であり、労務費の合計額に**表－２－２**の率を乗じた金額を計上する。

表－２－２　諸経費率　　（%）

諸経費率	１６

３．　単価表

MC－15－２－１　鉄筋処理工

施工単価コード	DGD70320

（１m当り）

名　　称	形 状 寸 法	単位	数量	単価（円）	金額(円)	摘　　要
土木一般世話役		人				**表－２－１**
特殊作業員		人				**表－２－１**
普通作業員		人				**表－２－１**
諸　経　費		式	1			**表－２－２**
計						100m当り
１　m　当　り						計／100m

MB－15－３　断面修復工

断面修復工

１．適用範囲

本資料は、下水道施設（処理場・ポンプ場）における既設鉄筋コンクリート構造物で、劣化部除去により除去した後、断面修復材を用いて断面修復する作業全般（左官工法、吹付工法）に適用する。なお、対象面積は１工事の施工部位別に１，５００m2以下、施工厚みについては４０mmまでとする。またこれらの適用範囲を超えるものについては、別途考慮する。

２．施工歩掛

（１）労務歩掛

断面修復の歩掛は、**表－２－１、表－２－２、表－２－３**を標準とする。

表－２－１　労務歩掛表（壁部）　（100m2当り）

施工厚み（mm）	施工規模（m2）	土木一般世話役（人）	左　官（人）	特殊作業員（人）	普通作業員（人）
10㎜未満	100m2未満	3.9	11.7	4.7	3.9
	100m2以上300m2未満	2.4	7.2	2.9	2.4
	300m2以上1,500m2以下	1.4	4.2	1.6	1.4
10㎜以上～20㎜未満	100m2未満	6.4	19.2	7.7	6.4
	100m2以上300m2未満	4.0	11.8	4.7	4.0
	300m2以上1,500m2以下	2.3	6.9	2.7	2.3
20㎜以上～30㎜未満	100m2未満	10.5	31.4	12.5	10.5
	100m2以上300m2未満	6.5	19.2	7.7	6.5
	300m2以上1,500m2以下	3.8	11.3	4.4	3.8
30㎜以上～40㎜以下	100m2未満	17.1	51.2	20.5	17.1
	100m2以上300m2未満	10.6	31.4	12.6	10.6
	300m2以上1,500m2以下	6.1	18.4	7.2	6.1

備考　本歩掛は、１工事の施工部位別歩掛である。

表－２－２　労務歩掛表（天井部）　（100m2当り）

施工厚み（mm）	施工規模（㎡）	土木一般世話役（人）	左　官（人）	特殊作業員（人）	普通作業員（人）
10㎜未満	100m2未満	4.5	13.4	5.3	4.5
	100m2以上300m2未満	2.7	8.1	3.3	2.7
	300m2以上1,500m2以下	1.5	4.6	1.8	1.5
10㎜以上～20㎜未満	100m2未満	7.3	21.9	8.8	7.3
	100m2以上300m2未満	4.4	13.2	5.3	4.4
	300m2以上1,500m2以下	2.5	7.5	2.9	2.5
20㎜以上～30㎜未満	100m2未満	11.9	35.7	14.3	11.9
	100m2以上300m2未満	7.3	21.5	8.7	7.3
	300m2以上1,500m2以下	4.1	12.3	4.8	4.1
30㎜以上～40㎜以下	100m2未満	19.6	58.4	23.3	19.5
	100m2以上300m2未満	11.8	35.1	14.1	11.8
	300m2以上1,500m2以下	6.7	20.1	7.8	6.7

備考　本歩掛は、１工事の施工部位別歩掛である。

表－２－３　労務歩掛表（底部）　（100m2当り）

施工厚み（mm）	施工規模（㎡）	土木一般世話役（人）	左　官（人）	特殊作業員（人）	普通作業員（人）
10㎜未満	100m2未満	3.1	9.3	3.7	3.1
	100m2以上300m2未満	1.8	5.2	2.1	1.8
	300m2以上1,500m2以下	0.9	2.8	1.1	0.9
10㎜以上～20㎜未満	100m2未満	5.1	15.2	6.1	5.1
	100m2以上300m2未満	2.9	8.6	3.4	2.9
	300m2以上1,500m2以下	1.5	4.5	1.8	1.5
20㎜以上～30㎜未満	100m2未満	8.3	24.8	9.9	8.3
	100m2以上300m2未満	4.7	14.0	5.6	4.7
	300m2以上1,500m2以下	2.5	7.5	2.9	2.5
30㎜以上～40㎜以下	100m2未満	13.5	40.5	16.2	13.5
	100m2以上300m2未満	7.7	22.9	9.2	7.7
	300m2以上1,500m2以下	4.1	12.2	4.7	4.1

備考　本歩掛は、１工事の施工部位別歩掛である。

（2）諸雑費

諸経費は、モルタルミキサー、水タンク、発動発電機運転経費等の費用であり、労務費の合計額に**表－２－４**の率を乗じた金額を計上する。

表－２－４　諸経費率　　（%）

諸経費率	5

３．　単価表

MC－15－３－１　断面修復工

施工単価コード	DGD70330

（１m2当り）

名　　称	形 状 寸 法	単位	数量	単価（円）	金額(円)	摘　　要
土 木 一 般 世 話 役		人				**表－２－１～３**
左　　官		人				**表－２－１～３**
特 殊 作 業 員		人				**表－２－１～３**
普 通 作 業 員		人				**表－２－１～３**
断面修復用モルタル		m3				
諸　経　費		式	1			**表－２－４**
計						100m2当り
１　ｍ２　当　り						計／100m2

備考　断面修復用モルタルは、施工厚みを考慮のうえ計上する。

MB－15－４　改築足場工

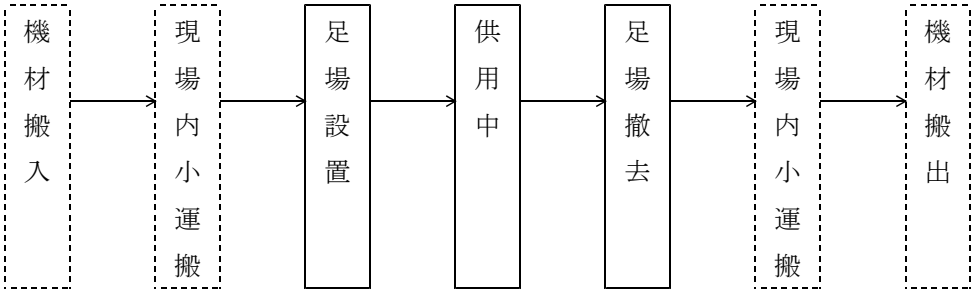
改築足場工

１．適用範囲

本資料は、下水道施設（処理場・ポンプ場）における改築を行う際の、施設内での人力施工による足場材設置・撤去作業に適用する。なお、対象範囲は平均設置高２ｍ以上、３０ｍ以下、施工数量１，０００掛ｍ２以下とする。また、本資料は標準的な下水道施設での改築を対象としており、足場設置箇所が狭隘である場合や、配管、配線等が輻輳している場合等、作業効率の著しい低下がある場合には別途考慮する。

１．１　施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。

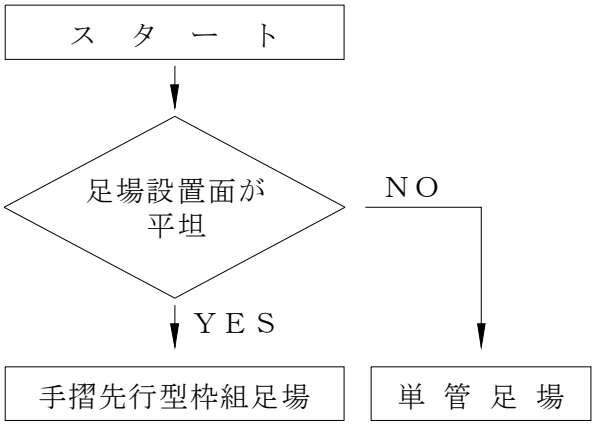


図－１－１　施工フロー

（注１）本歩掛で対応しているのは、実践部分のみである。

１．２　工法の選定

工法の選定は、次図を標準とする。



図－１－２　工法の選定

２．施工歩掛

（１）労務歩掛

改築における足場材設置・撤去歩掛は、**表－２－１**を標準とする。

表－２－１　労務歩掛表　（100掛m2当り）

名　　称	形状寸法	単位	土木一般世話役	とび工	普通作業員
手摺先行型枠組足場		人	3.0	9.2	0.8
単　管　足　場		人	1.7	7.1	1.4

（２）諸雑費

諸雑費は、改築足場工仮設材等の費用であり、労務費の合計額に**表－２－２**の率を乗じた金額を上限として計上する。なお、諸雑費には、供用中の足場材損料、既存設備の養生費等を含むものとする。

・手摺先行型枠組足場における仮設材内訳は、壁つなぎ、敷板、建枠、筋違、板付布枠、連結ピン、アームロック、ジャッキベース、手摺柱、手摺、手摺枠（二段手摺の機能を有する）、幅木、階段、養生ネット（メッシュシート）等である。

・単管足場における仮設材内訳は、丸パイプ、直交クランプ、自在クランプ、直線ジョイント、固定ベース、足場板、敷板、壁つなぎ、階段、養生ネット（メッシュシート）等である。

・安全ネットが必要な場合には別途考慮する。

表－２－２　諸雑費率　（%）

手摺先行型枠組足場	80
単管足場	63

３．単価表

MC－15－４－１　改築足場工

（100掛m2当り）

名　　称	形 状 寸 法	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
土木一般世話役		人				**表－２－１**
と　び　工		人				**表－２－１**
普通作業員		人				**表－２－１**
諸　経　費		式	1			**表－２－２**
計						100掛m2当り
１　掛ｍ２　当　り						計／100掛m2

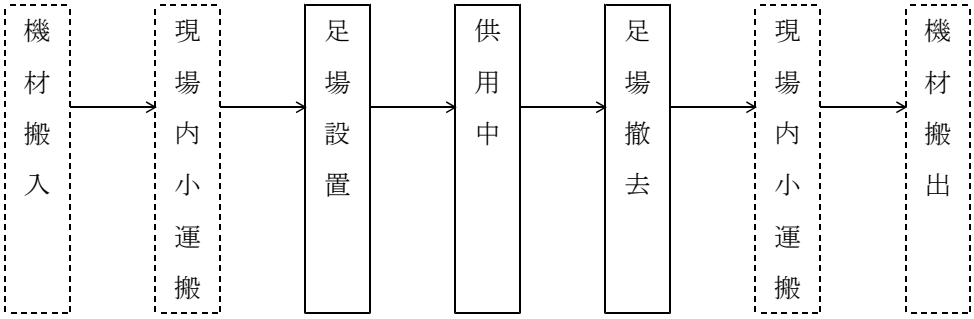
改築足場現場内小運搬工

１．適用範囲

本資料は、下水道施設（処理場・ポンプ場）における改築を行う際の足場材の、人力またはウインチ類を利用した鉛直方向の現場内小運搬作業に適用する。なお、対象範囲は鉛直運搬距離が２ｍ以上、３０ｍ以下とする。

１．１　施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



図－１－１　施工フロー

（注１）本歩掛で対応しているのは、実践部分のみである。

（注２）足場材の鉛直方向の現場内小運搬作業は、改築足場現場内小運搬工を共通仮設費の運搬費に別途計上する。

２．施工歩掛

（1）労務歩掛

改築足場現場内小運搬の歩掛は、**表－２－１**を標準とする。

表－２－１　労務歩掛表　（100掛m2当り）

名　　称	形状寸法	単位	普通作業員
手摺先行型枠組足場		人	6.6
単　管　足　場		人	5.7

（2）諸雑費

諸雑費は、下水道施設内の養生費、人力運搬時に使用する台車の損料、３ｔを上限とするウインチ類の費用（吊上げ作業に伴う労務を含む）であり、労務費の合計額に**表－２－２**の率を乗じた金額を上限として計上する。

表－２－２　諸雑費率　（%）

手摺先行型枠組足場	3
単管足場	10

３．単価表

MC－16－１－１　改築足場現場内小運搬工

（100掛m2当り）

名　　称	形 状 寸 法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
普 通 作 業 員		人				表－２－１
諸　　経　　費		式	1			表－２－２
計						100掛m2当り
1　掛ｍ2　当　り						計／100掛m2

機 械 運 転 単 価 表

本資料は、各工種に使用する機械のうち標準的な機種について単価表を示したものである。

１．労務歩掛は、土木工事積算基準の建設機械運転労務歩掛による。

２．燃料の種類及び数量は、土木工事積算基準の原動機燃料消費量による。

３．表題には機械名を記入する。

４．燃料費の規格欄には燃料の種類を記入する。

５．燃料損料の規格欄には機械の規格を記入する。

機－１２　〇〇運転１日当り単価表

（１日当り）

名　　称	規　　格	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
燃　　料　　費		ℓ				
機　械　損　料		日	１．０			
諸　　雑　　費		式	1			
計						

（注）　運転歩掛は、施工歩掛に含まれている。

機－１６　〇〇運転１日当り単価表

（１日当り）

名　　称	規　　格	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
燃　　料　　費		ℓ				
賃　　料		供用日				
諸　　雑　　費		式	1			
計						

（注）　運転歩掛は、施工歩掛に含まれている。

機－３０　〇〇運転１日当り単価表

（１日当り）

名　　称	規　　格	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
（　電　力　）		ｋＷｈ				
賃　　料		供用日				
諸　　雑　　費		式	1			
計						

（注）１．発動発電機を電源とする場合は、電力の積算はしない。

２．運転歩掛係は施工歩掛に含まれている。

ポンプ場・処理場施設

（機械設備）編

ポンプ場・処理場施設（機械設備）編

目次

Ⅰ　設計標準歩掛表

第１編　一般事項

１．適用範囲

本標準歩掛は、「下水道用機械設備請負工事工事費積算基準」に基づく工事設計書の作成に使用する歩掛として定めたものである。

この歩掛は、下水道事業の機械設備工事に係わる労務費の積算に適用する。

２．構成と範囲

２－１　標準歩掛

本歩掛表は、標準的作業を想定して定めたものである。

特に施工条件が大幅に異なる場合には、実績等を勘案して補正する。

２－２　主要職種

（１）　普通作業員

普通の技能及び高度の肉体的条件を有し、主として次に掲げる作業を行うものとする。

１）　人力による土砂の掘削、積込み、運搬等の作業。

２）　保安及び交通整理等。

３）　その他各作業について必要とされる補助的作業。

（２）　設備機械工

据付け工事について相当程度の技能を有し、主として次に掲げる作業について主体的業務を行うものである。鋼製階段、鋼製ふた類、支持金物等の据付け及び取付け。

（３）　電工

電気工事について相当程度の技能及び必要な資格を有し、主として次に掲げる作業について主体的業務を行うものである。

１）　配線器具・照明器具、発電機、通信機器、盤類等の取付け、据付けまたは撤去。

２）　電線・電線管等の取付け、据付けまたは撤去。

３）　各種材料の現地加工作業

４）　技術者の補助的作業

（４）　配管工

配管工事について相当程度の技能を有し、主として次に掲げる作業について主体的業務を行うものである。

１）　屋内及び屋外における汚水、汚泥、給排水、給油、給排気及び換気等の配管・弁類の取付け。

２）　管防護作業等。

（５）　塗装工

塗装作業について相当程度の技能を有し、ペイント等の現場における手塗り、吹き付け、下地処理作業等について主体的業務を行うものである。

（６）　溶接工

溶接作業について相当程度の技能を有し、ガス、電気等の方法により、形鋼・鋼管等の溶接、切断作業について主体的業務を行うものである。

（７）　左官

左官工事について相当程度の技能を有し、モルタル充填、壁塗り、床塗り、仕上げ直し等の作業について主体的業務を行うものである。

（８）　ダクト工

ダクトの加工、製作作業について相当程度の技能を有し、ダクト・ダンパ類の取付け取外し作業について主体的業務を行うものである。

（9） はつり工

はつり作業について相当程度の技能を有し、コンクリート等構造物の表面のはつり取り、床・壁の穴あけ等の作業について主体的業務を行うものである。

(10) 機械設備据付工

機械設備の据付について相当程度の技能を有し、設備の据付け、調整等について直接従事する主として**表－１**に掲げる作業について主体的業務を行うものである。

なお、現場代理人若しくは主任技術者（監理技術者）としての業務を行う労働者、補助的作業及び配管・配線等に従事する現地採用の労働者、塗装に従事する労働者は除く。

据付け作業調整及び指導等の具体的内容

１）据付け基準線の芯出し罫書き
２）据付け用架台等の仮設物設置
３）各機器の搬入及び吊り込み・固定
４）部材の溶接
５）溶接材の歪み等の矯正
６）溶接部の仕上げ加工
７）ライナー等による据付け調整及びボルト等による個々の機器の固定
８）個々の機器等の接続及び各種調整
９）機械設備における単体試験
10）各据付け工程における段取り

表－１　機械設備据付工の業務範囲

歩掛別作業 ／ 工種 ／ 機器名		標準歩掛で行う作業		別途積算で行う作業
		据付作業調製及び指導等	単体試験	総合試運転
機械設備据付工	第１類～第６類の機器	○	○	○
	第７類の機器	－	－	－

２－３　単体試験及び総合試運転

本歩掛においては、単体試験を含むが、総合試運転の歩掛は含まないため、必要に応じて別途積算する。この場合、総合試運転の目的、範囲、方法、内容及び期間等を考慮して積算する。

（1） 単体実験

据付け完了後の機器単体調整試験及び動作確認試験等をいい、次の作業も含む。

１） タンク・配管等の漏洩、圧力試験。
２） 機器の振動、騒音試験。
３） 保護装置の動作チェック及び設定。
４） タイマ、その他制御機器の動作チェック及び設定。
５） 絶縁抵抗等の測定。
６） 計装機器の確認（零調製、スパン調整等）。

（2） 総合試運転

本工事、他工事等を含めて総合的なプラント機能を確認する必要がある場合、単体試験、別途電気設備工事で実施する組合せ試験完了後に行う実負荷（又は相当負荷）試運転。

総合的なプラントの機能を確認するに必要な標準運転時間及び実施期間を**付－２**の**表－６**に示す。

２－４　他歩掛の準用

標準歩掛に定めていない設備の歩掛については、国及び都道府県等制定歩掛、物価資料等歩掛及びその他実績歩掛等を準用する。

３．適用上の留意事項

３－１　歩掛の補正

設備工事は、工事場所の現場状況、作業環境、施工条件及び他工事との競合等がある場合に補正する。補正歩掛は、次式により算出して得た値とする。

（補正歩掛）＝（標準歩掛）×（１＋補正率）

なお、補正率は、**表－２**により、作業種別に応じた補正率を適用し、工事場所における作業種別が多種類にわたり該当する場合は、その該当する種別の補正率を加算する。

表－２　補正率表

区　　分	作　業　種　別	補正率	適　用　基　準
危　険　作　業	悪環境における作業	０．２	毒性ガスの発生する恐れのある場所及び危険物、劇毒物を保管している場所又は施工に作業性の悪い場所
	高所又は地下における作業	０．１	地表又は床面より５ｍ以上又は地下２ｍ以下の場所
作業工程上制約がある作業	複雑な制約がある作業	０．４	次の制約条件がある場合 （１）　競合 （２）　停電等による作業能率低下
	単純な制約がある作業	０．２	
錯　綜　場　所	錯綜がある所での作業	０．３	機器まわり、管廊等で特に錯綜する場所

備考　１　補正率は、作業内容に応じて特に必要な場合には、適宜補正する。

２　撤去工事の歩掛にも適用できる。

３－２　付属材料及び補完材料の歩掛

付属材料費率（**表－５**）を用いて算出した場合の付属材料については、歩掛の対象としない。

ただし、補完材料については、歩掛の対象とする。

３－３　撤去工事の積算

既設物の撤去工事歩掛は、標準歩掛又は補正歩掛に対して**表－３**による。

表－３　撤去歩掛表

区　　分	撤去歩掛	ダクト撤去歩掛
再使用する撤去物	標準歩掛又は補正歩掛の６０％	標準歩掛又は補正歩掛の４０％
再使用しない撤去物	標準歩掛又は補正歩掛の４０％	標準歩掛又は補正歩掛の３０％

備考１　撤去物を再使用しない場合で、撤去対象物の標準歩掛に機械設備据付工を掲げているときは、機械設備据付工を設備機械工と読み替える。

２　ダクトの撤去歩掛は、ダクトの附属品類にも使用できる。

付－１　材料積算上の注意

１．材料の集計

直接材料は呼び径３５０mm以下の鋳鉄管を除き積上げにより積算数量を集計し、設計数量とする。

ただし、付属材料費及び材料補完量を、直接材料積算数量に対する率により算出するものでは、次の式より算出し、直接材料の設計数量とする。

（設計数量）＝（積算数量）×（１＋材料補完率）

（付属材料費）＝（設計数量）×（単価）×（付属材料費率）

ここでいう積算数量とは、設計図に示す個数又は設計寸法から求めた数量をいう。

２．鋳鉄管（呼び径３５０mm以下）材料の積算

鋳鉄管材料費は、口径別にスケルトン図から集計した、弁類、伸縮管等の長さを除く配管長さと異形管の個数、及びメカニカル直管の本数から下記の算出式で積算する。

$$M=〔\alpha W_o \beta 1+W_M \beta 2+(W_o-W_M-\alpha W_o)\ \beta 3〕\times L\times(1+\gamma 1\text{又は}\gamma 2)$$

M　：全材料費（円）

α　：異形管率（口径別）

β1　：異形管単価（円/ｋg）

β2　：メカニカル直管単価（円/ｋg）

β3　：フランジ長管単価（円/ｋg）

γ1　：接合材料率（露出配管部）

γ2　：接合材料率（水中配管部）

n　：メカニカル直管本数（本）

WM　：配管全長に対するメカニカル直管の単位質量（ｋg/m）で下記の式による。

$$\frac{\text{メカニカル直管本数（n）}\times\text{１本当り質量}}{\text{スケルトン図の口径別配管長}}$$

Wo　：解析単位質量（ｋg/m）

L　：スケルトン図の口径別配管長（m）

（弁類、伸縮管等の長さを除く）

（注１）　αの計算値が０以下の場合はα＝０、１以上の場合はα＝１とする。

（注２）　メカニカル直管は定尺以下の長さのものも受口があれば１本と数える。

（１）　解析単位質量（Wo）

解析単位質量は下記の算出式で計算する。

Wo＝ａＸ＋ｂ

Ｘ：ｍ当りの異形管の個数（個／ｍ）

ａ：定数

ｂ：定数

Ｘ＝ｘ／Ｌ

ｘ：異形管の個数（個）

Ｌ：スケルトン図の口径別配管長（ｍ）

（弁類、伸縮管等の長さを除く）

内面塗装使用により、次表１）または２）の定数を使用する。

１）　内面モルタルライニング

口径（ｍｍ）	ａ（定数）	ｂ（定数）
７５	８．０	１５．８
１００	１２．０	１８．１
１５０	１２．６	３１．５
２００	１８．１	４６．０
２５０	２１．９	６０．４
３００	５５．６	６３．０
３５０	７５．５	７９．１

２）　内面エポキシ樹脂粉体塗装

口径（ｍｍ）	ａ（定数）	ｂ（定数）
７５	８．５	１４．８
１００	１３．１	１５．５
１５０	１４．６	２７．９
２００	２０．１	４１．４
２５０	２５．５	５４．１
３００	６５．３	４９．７
３５０	８４．３	６５．２

（２）　異形管率（α）

異形管率は下記の算出式で計算する。

$\alpha = aX^2 + bX + c$

Ｘ：ｍ当りの異形管の個数（個/ｍ）

ａ：定数

ｂ：定数

ｃ：定数

（注）　αの計算値が０以下の場合はα＝０，１以上の場合はα＝１とする。

口径（ｍｍ）	ａ（定数）	ｂ（定数）	ｃ（定数）
７５	－０．２７	１．０４	０．０４
１００	－０．２０	０．８８	０．０３
１５０	－０．２４	０．９６	０．０８
２００	－０．２２	０．８９	０．１０
２５０	－０．３０	１．１２	０．０４
３００	－０．５０	１．４６	－０．０３
３５０	－０．５６	１．４５	０．０２

（３）異形管の単価（β1）

異形管の単価は一番多用している第Ⅲ類の単価を使用する。

異形管単価（β1）＝Ⅲ類単価×補正率（Ｃ）

ただし、補正率（Ｃ）＝０．９６とする。

（４）接合材料率（γ1・γ2）

露出配管部及び水中配管部の接合材料率は下表による。

口径（mm）	γ1（露出配管部接合材料率）	γ2（水中配管部接合材料率）
７５	０．１６	０．３７
１００	０．２１	０．３７
１５０	０．１４	０．２８
２００	０．１３	０．２８
２５０	０．１４	０．２７
３００	０．１３	０．２３
３５０	０．１６	０．２８

備考　地中管理設管は、γ1（露出配管部接合材料率）を適用する。

３．材料補完率

材料補完率は、材料を積算するうえで設計図では予測しがたい、曲り、高低差、迂回距離等を材料積算数量に補完するものである。

材料保管量は、**表－４**により算出する。

表－４材料補完率表

材　料　名	単　位	補完率
小配管（呼び径６５mm以下）	m	０．１０
換気・脱臭（角）ダクト	m2	０．０５

４．付属材料費率

付属材料は、**表－５**により算出する。

表－５　付属材料費率表

材料名		付属材料費率	備考
小配管（呼び径３５０mm以下）付属材料	鋼管、塩化ビニル管等	１．７０	管継手（エルボ、ベンド、チーズ、フランジ等）　０．５５ 接合材料（ボルト、ナット、パッキン等）　０．１０ 支持材料（形鋼サポート、Ｕボルト等及びそれらの塗装）　０．７０ 塗装（上下各２回塗り、文字書き含む。）　０．３５
	ステンレス鋼管	１．４０	管継手　１．１５ 接合材料（ボルト、ナット、　ＳＵＳ）　０．１０ 支持材料（ＳＳ）　０．１５
	塩化ビニルライニング鋼管	２．３０	管継手　１．９０ 接合材料　０．０５ 支持材料　０．２５ 塗装　０．１０

備考　備考欄の内訳で明らかに不必要なものは、削除して率を低減する。

付－２　総合試運転の設備標準運転時間及び実施期間

表－６　総合試運転の設備標準運転時間及び実施期間

施設名	設備名称	運転時間	実施期間
ポンプ場施設	沈砂地機械設備 ポンプ設備	２０時間	９日
水処理施設	沈砂地機械設備 ポンプ設備 水処理設備 空気機械設備	２０時間	１６日 （９日）
汚泥処理施設	濃縮設備 消化設備 洗浄設備 脱水設備（薬注設備含）	２０時間	１２日 （９日）

備考１　（　）内は小規模処理場（ＯＤ・回分・好気性ろ床法等）の場合の日数を示す。

２　実施期間は土日祭日を含み、主要機器の運転、維持管理等の説明（講習会）等を含んだ期間である。

３　上表に示す施設（設備）以外で、汚泥焼却設備等総合試運転を必要とする工事については、積み上げ積算または見積りを用い、総合試運転費を算出し、実施することができる。

なお、積み上げた「機械設備据付工」は、据付間接費の対象とする。

付－３　関連通達

設計書の作成については、国土交通省（旧建設省）関係通達及び基準等を参照されたい。

なお、主要なものは下記のとおりである。

１．補助事業に係る工事設計書の作成について
（建設省会発第１０７号　昭和３４年４月１日、最終改正　建設省会発第１６５号　平成１１年３月１９日、建設事務次官）

２．下水用機械設備請負工事工事費積算要領並びに同積算基準、下水用電気設備請負工事工事費積算要領並びに同積　算基準の改定について
（建設省都下公発第８号　昭和５３年３月１４日、最終改正　建設省都下公発第３１号　平成１２年１０月１８日、都市局長）

３．下水道用設計標準歩掛表について
（建設省都下公発第２３号　昭和５２年７月３０日、最終改正　建設省都下公発第３２号　平成１２年１０月１８日、下水道部長）

４．下水道事業における機械設備請負工事工事費積算基準の運用及び下水道事業における電気設備請負工事工事費積　算基準の運用の改正について
（建設省都下公発第２２号　昭和５２年７月３０日、最終改正　建設省都下公発第３３号　平成１２年１０月１８日、公共下水道課長）

５．下水道工事の設計積算について
（建設省都下公発第８号　昭和５５年４月１日）

第２編　機械設備工事歩掛

１．適用条件

１－１　歩掛に含む作業

施工期間中における準備・跡片づけ費用、機器等基礎のアンカ溶接、さし筋、芯出し及び墨出しは含む。

１－２　歩掛に含まない作業

機器等のコンクリート基礎及び掘削等の土木工事は含まない。

１－３　電気設備工事との取り合い

電気設備工事との取合いは特記のない限り端子までとし、一次側配線、接続は含まない。

１－４　歩掛の適用

本歩掛は標準的な歩掛であり、クレーン類を使用できない場合、小型、軽量や精密その他の理由でこの歩掛によりがたい場合は別途考慮する。

２．機器等据付工

２－１　人工数の算出方法

機器等の据付人工数は、**表－１**により機器等の分類を行い、**表－２**によりその分類に該当する歩掛を用いて算出する。

２－２　据付工の職種

（１）第１類から第６類の機器等については、算出した人工数の９０％を機械設備据付工とし、１０％を普通作業員とする。

（２）第７類の据付工はすべて設備機械工とする。

表－１　機器等据付歩掛分類及び類別歩掛表

分類	分類目標	機　器　等　名　称	範　　囲	据付工（人） X:1台当り質量（ｔ） X’：１槽当り必要空気量(m3/min)
第１類	比較的高速回転の回転機器	ポンプ、ブロワ、モータ、減速機、真空ポンプ、空気圧縮機、エンジン、遠心濃縮機、遠心脱水機等	(a)本体に付属するバルブ以後の給油及び給水等小配管は、管の歩掛による。 (b)流体機器の吸込み、吐出フランジ以後は、弁又は管の歩掛による。 (c)共通ベットのあるものは、これを含む。	$12.2X^{0.711}$
第２類	芯出し調整の楽な機器	弁類（自動（電動、空気）弁呼び径１００mm以上手動弁呼び径４００mm以上)、フィルタ（油式、乾式)、モータ用抵抗制御器、水中ポンプ、ファン、水中攪拌機、水中機械式曝気機等	(a)自動（電動・空気）弁呼び径９０mm下、手動弁呼び径３５０mm以下の弁類で鋳鉄管配管中のものは、鋳鉄管歩掛により算出し、鋼管配管中のものは小配管歩掛に含む。 (b)弁のフランジ接合は、管の歩掛による。 (c)付属するモータ、減速機等（バルブコントローラ）を含む。	$4.8X^{0.776}$
第３類	芯出し調整が必要な機器	阻水扉、制水扉、塩素関係機器、ボイラ等	(a)バイブコントローラのあるものはこれを含む。 (b)配管を除いた油圧装置を含む。	$14.2X^{0.676}$
第４類	貯留機器	タンク類、塔類（スクラバ、サイレンサ)、熱交換器、ストレーナ類、急速ろ過機（鋼製）等	(a)取出しフランジ以後は管の歩掛による。	4.8X
第５類	散気設備	メンブレン式散気装置、高密度配置式散気装置等	(a)バルブからライザ管、ヘッダ管、エアレーション装置、架台まで含む据付け歩掛りである。 (b)水中機械式曝気機は、第２類とする。 (c)深槽用架台は、第7類とする。	3.8X’
		散気板、散気筒（散気管）	(a)バルブからライザ管、ホルダ、散気板（筒，管)、架台まで含む据付け歩掛である。 (b)深槽用架台は、第7類とする。	**表－２、表－３参照**
第６類	比較的低速回転で、現場組立部品の多いもの	沈砂地機械、沈殿池機械、コンベヤ類、ホッパ類、汚泥濃縮タンク機械、物上げ機械、脱水機（ＢＰ、加圧)、機械曝気機（オキシデーションディッチ用）等	(a)付属するモータ、減速機等駆動装置を含む。 (b)点検用歩廊、階段は第７類とする。	7.5X
第７類	安全設備、架台類	鋼製渡り、手すり、鋼製ふた類、管支持架台、点検歩廊、階段、防泡金網、カバー等		4.9X

備考　１　屋内及び屋外工事ともこの歩掛を適用する。
２　第４類で合成樹脂製のもの及び第７類でアルミ製のものは、各々10％増とする。
３　第５類の必要空気量（ｍ３/min）は、20℃１気圧換算の空気量とする。
４　第１類、第２類及び第３類の人工数積算例
〔例１〕汎用横軸ポンプ（真空ポンプ、コンプレッサ等）の場合：（ポンプ質量＋モータ質量＋共通ベッド質量）の①類 歩掛
〔例２〕散気用ブロワ（汎用でない横軸ブロワ等）の場合：（ブロワ質量＋ベッド質量＋モータ質量）の①類歩掛。
〔例３〕１床式立軸斜流ポンプ（モータ直結形）の場合：（ポンプ質量＋ポンプベース質量＋モータ質量）の①類歩掛＋（抵抗制御器質量）の②類歩掛
〔例４〕２床式立軸斜流ポンプ（モータ直結形）の場合：（ポンプ質量＋ポンプベース質量）の①類歩掛＋（モータ質 量＋モータベース質量）の①類歩掛＋（抵抗制御器質量）の②類歩掛り
〔例５〕２床式立軸斜流ポンプ（エンジン掛）の場合：（ポンプ質量＋ポンプベース質量）の①類歩掛り＋（エンジン質 量＋減速機質量＋減速機ベース質量）の①類歩掛
〔例６〕電動弁の場合：（弁質量＋バルブコントローラ質量）の②類歩掛
〔例７〕換気ファンの場合：（ファン質量＋モータ質量＋防振ベッド質量＋プーリ等質量）の②類歩掛り
〔例８〕油圧入口阻水扉の場合：（扉及び枠質量＋ロッド及びシリンダ質量）の③類歩掛＋（油圧ユニット質量）の③ 類歩掛＋（手元操作盤質量）の③類歩掛＋（油タンク質量）の④類歩掛＋（配管歩掛）
〔例９〕電動制水扉の場合：（扉及び枠質量＋ロッド、スタンド及びバルブコントローラ質量）の③類歩掛
５　２－２による職種の振分け例
〔例１〕1,000㎜、10（ｔ）の立軸斜流ポンプを据付ける場合、表－１の第１類より
62.7（人）×0.9＝56.4（人）……機械設備据付工
62.7（人）×0.1＝6.27（人）……普通作業員
〔例２〕必要空気量11（ｍ３/min、20℃、1 気圧）のメンブレン式散気装置を据付ける場合、表－１の第５類メンブレン式散気装置、高密度配置式散気装置等より
38.5（人）×0.9＝34.6（人）……機械設備据付工
38.5（人）×0.1＝3.85（人）……普通作業員
〔例３〕800幅の鋼製段階1.3（ｔ）を据付ける場合：**表－１**の第７類より6.37（人）……設備機械工

表－２　散気板（単列、複列共）

人／１ライザ１組

ホルダ／組	枚／ホルダ	人／組
1	6	1.47
	8	1.58
	10	1.69
2	6	2.16
	8	2.38
	10	2.60
4	6	3.54
	8	3.98
	10	4.42
6	6	4.92
	8	5.58
	10	6.24

表－３　散気筒（吊上、回転式）

人／１ライザ１組

本／組	吊上式	回転式
	人／組	人／組
8	1.52	3.28
10	1.54	3.30
12	1.56	3.32
14	1.58	3.34
16	1.72	3.36
18	1.74	3.38
20	1.76	3.40

備考　1 表－２の７、９枚/ホルダは，各組合せの中間とする。

2 表－２及び表－３の歩掛は、1 ライザ１組とした全て（バルブから架台まで）の据付け歩掛である。ただし、表－２又は表－３の歩掛により難いもの（規模その他）は、表－４又は表－５の歩掛を適用することができる。

表-４散気板（鋼製ホルダ共）

枚	（人／組）
6	0.4
8	0.5
10	0.6
12	0.7

表-５散気管、散気筒

0.01（人／本）

備考 表－４又は表－５の歩掛を適用する場合には、ライザ管は配線歩掛を用いる。

３．配管据付工

３－１　人工数の算出方法

（１）　鋳鉄管（呼び径φ350ｍｍ以下）の据付人工数の積算は、「第１編 付－１ 材料積算上の注意 ２．鋳鉄管（呼び径φ３５０ｍｍ以下）材料の積算（１）解析単位質量（Wo）」により求めた口径別の解析単位質量（WD）と配管長さ（Ｌ）から、次の計算により総質量（Ｗ）を求め、その質量により配管布設人工数を算出する。

Ｗ＝Wo×Ｌ÷１０００

Ｗ　：総質量（ｔ）

Wo　：解析単位質量（kg/m）

Ｌ　：スケルトン図の口径別配管長さ（m）

（弁類、伸縮管等の長さを除く）

（２）　大口径鋳鉄管（呼び径４００ｍｍ以上）の場合は、口径別に管（直管、異形管）の総質量を求め、その質量により布設人工数を算出し、接合人工数を加える。接合人工数は、図面により接合箇所数を求め接合歩掛を用いて算出する。

また、管支持に鋼材を用いた場合は、**表－２**第７類により別途算出する。

（３）　鋼管（呼び径４００ｍｍ以上）の場合も同様に積算するが、フランジ管への溶接及び管のつき合わせ溶接を伴う場合は、６．の溶接歩掛により別途算出する。

（４）　小口径鋼管（呼び径３５０ｍｍ以下）の場合は、口径別に総延長を求め、その長さにより据付け人工数を算出する。

３－２　下水処理設備用鋳鉄管（直管、異形管）布設

（１）　呼び径　７５～３５０ｍｍ

（人/ｔ）

呼び径（ｍｍ）	配管工
７５	３１．９
１００	３０．２
１５０	２７．０
２００	２４．１
２５０	２１．５
３００	１９．２
３５０	１７．３

備考　１　鋳鉄管配管中の自動（電動・空気）弁呼び径９０ｍｍ以下、手動弁呼び径３５０ｍｍ以下の弁類についてもこの歩掛を用いる。

２　呼び径３５０ｍｍ以下の弁類長さはスケルトン長さに含まない。

３　墨出し、水圧検査、管接合等は含むが、支持架台取付けは含まれていないので別途計上する。

４　屋外配管（地中埋設配管を含む。）については、本歩掛の２５％減とする。

５　屋内配管で既設クレーン類が使用可能な場合は、本歩掛の３０％減とする。なお、この場合クレーン類の積み上げをする必要はない。

６　屋外配管で既設クレーン類が使用可能な場合は、本歩掛の４７．５％減とする。

７　既設管廊内及び既設機器設置場所での作業は３０％上乗せする。

ただし、表－２補正率表　錯綜場所の補正率は適用しない。

既設管廊内及び既設機器設置場所での作業とは、増設工事において配管が既に取付いている既設管廊内及び機器が既に取付いている機械室、ポンプ室等での作業をいう。

８　普通作業員は計上しない。

（２）　呼び径４００mm以上

（人/ｔ）

呼び径（mm）	配管工	普通作業員
４００～　６００	６．０	配管工と同数
７００～１，０００	５．５	〃
１，１００～１，３５０	５．０	〃
１，５００～１，６００	４．５	〃
１，６５０以上	４．０	〃

備考１　墨出し、水圧検査等は含むが、支持架台取付け及び管接合は含まれていないので別途計上する。
２　３－２（１）の備考４，５，６については本歩掛にも適用する。

３－３　下水処理設備用鋼管（直管、異形管）布設

（人/ｔ）

呼び径（mm）	配管工	普通作業員
４００～　５５０	８．４	配管工と同数
６００～１，０００	７．７	〃
１，０００を超えるもの	６．８	〃

備考１　管接合、溶接及び支持架台の取付けは含まれていないので、別途計上する。
２　墨出し、水圧検査等は、本歩掛に含まれる。
３　３－２（１）の備考４，５，６について本歩掛にも適用する。

３－４　小配管据付

（１）鋼管、ライニング鋼管

（人/m）

管種		配管用（白、黒）、水道用鋼管			ライニング鋼管		
配管場所		屋内配管	屋外配管	埋設配管	屋内配管	屋外配管	埋設配管
工種		配管工	配管工	配管工	配管工	配管工	配管工
呼び径（mm）	15	0.13	0.10	0.06	0.11	0.08	0.06
	20	0.16	0.12	0.07	0.14	0.11	0.07
	25	0.19	0.15	0.09	0.16	0.12	0.09
	32	0.23	0.18	0.11	0.19	0.15	0.11
	40	0.27	0.21	0.12	0.23	0.18	0.12
	50	0.33	0.26	0.15	0.27	0.21	0.15
	65	0.41	0.32	0.19	0.34	0.27	0.19
	80	0.49	0.39	0.21	0.41	0.32	0.21
	100	0.60	0.48	0.27	0.50	0.40	0.22
	125	0.74	0.59	0.32	0.61	0.48	0.26
	150	0.88	0.70	0.40	0.73	0.58	0.34
	200	1.16	0.92	0.57	0.95	0.76	0.48
	250	1.44	1.15	0.77	1.18	0.94	0.64
	300	1.72	1.37	0.93	1.41	1.12	0.77
	350	1.99	1.61	1.11	1.63	1.30	0.91

備考１　墨出し、切断、ねじ切り、ねじ込み、管接合、支持材料の取付け及び弁類取付けを含む。
２　ソケット、ベンド等で一般的に必要なものの取付け人工は、本歩掛に含まれる。
３　フランジ接合の場合も本歩掛を使用できる。なお、フランジ接合の場合のフランジ、ボルト、ナット等は、付属材料率で算出できる。
４　屋外配管歩掛には根切り、埋戻し等の土木工事は含まない。
５　水圧検査等は、本歩掛に含まれる。
６　溶接接合歩掛（フランジ溶接、高圧配管以外のつき合わせ溶接）は本歩掛に含まれる。
７　支持材料の架台・Ｕボルト等は、付属材料率で算出できる。
８　既設管廊内及び既設機器設置場所での作業は３０％上乗せする。
ただし、表－２補正率表、錯綜場所の補正率は適用しない。
既設管廊内及び既設機器設置場所での作業とは、増設工事において配管が既に取付いている既設管廊内及び機器が既に取付いている機械室、ポンプ室等での作業をいう。

（２） ステンレス鋼鋼管、塩化ビニル管

（人/m）

管種		ステンレス鋼鋼管			塩化ビニル管		
配管場所		屋内配管	屋外配管	埋設配管	給水用（屋内）	給水用（屋外）	排水通気用
工種		配管工	配管工	配管工	配管工	配管工	配管工
呼び径（mm）	13	—	—	—	0.08	0.06	—
	15	0.17	0.13	0.07	—	—	—
	20	0.20	0.16	0.09	0.09	0.07	—
	25	0.24	0.19	0.11	0.11	0.08	—
	30	—	—	—	0.13	0.10	—
	32	0.29	0.23	0.12	—	—	—
	40	0.35	0.28	0.15	0.15	0.12	0.11
	50	0.42	0.33	0.19	0.18	0.14	0.15
	65	0.53	0.42	0.21	0.22	0.17	0.19
	75	—	—	—	0.26	0.20	0.22
	80	0.63	0.50	0.24	—	—	—
	100	0.78	0.62	0.35	0.32	0.25	0.28
	125	0.96	0.76	0.45	0.39	0.31	0.34
	150	1.14	0.91	0.54	0.46	0.36	0.41
	200	1.50	1.20	0.75	—	—	0.53
	250	1.86	1.48	1.00	—	—	0.66
	300	2.22	1.77	1.27	—	—	0.79
	350	2.58	2.20	1.50	—	—	—

備考　１　墨出し、切断、管接合、支持材料及び弁類の取付けを含む。
　　２　ステンレス鋼鋼管は、（１）鋼管、ライニング鋼管の備考２～８を適用する。
　　３　塩化ビニル管は、（１）鋼管、ライニング鋼管の備考２，３，４，５，７，８を適用する。

３－５　鋳鉄管及び鋼管接合

（人/箇所）

口径（mm）	メカニカル形		フランジ形	
	配管工	普通作業員	配管工	普通作業員
400	0.47	配管工と同数	0.56	配管工と同数
450	0.54	〃	0.64	〃
500	0.60	〃	0.72	〃
600	0.70	〃	0.87	〃
700	0.84	〃	1.0	〃
800	0.96	〃	1.2	〃
900	1.1	〃	1.3	〃
1,000	1.2	〃	1.5	〃
1,100	1.4	〃	1.6	〃
1,200	1.5	〃	1.8	〃
1,350	1.8	〃	2.1	〃
1,500	2.0	〃	2.2	〃
1,600	2.1	〃	2.6	〃
1,800	2.5	〃	3.0	〃
2,000	2.9	〃	3.5	〃
2,100	3.1	〃	3.8	〃
2,200	3.4	〃	4.1	〃

備考１　離脱防止形（継手用押輪共）を使用する場合は、本歩掛10％増とする。
　　２　３－２（１）の備考４，５，６については、本歩掛にも適用する。

４．換気・脱臭用ダクト加工及び据付工

４－１　亜鉛鉄板製矩形ダクト（アングル工法）

（１）　低圧ダクト

（出来上り１m2当り）

細目	名称		規格寸法等	単位	ダクト板厚及びダクト長辺（mm）					
					0.5	0.6	0.8	1.0	1.2	1.6
					450以下	451～750	751～1,500	1,501～2,200	2,201以上	
アングルフランジ工法ダクト（低圧ダクト）	材料	亜鉛鉄板	1,829㎜幅コイル	m2	1.41	1.36	1.31	1.31	1.32	—
		鋼板	914×1,829㎜	kg	—	—	—	—	—	14.7
		形鋼	25×25×3	kg	3.2	3.6	—	—	—	—
			30×30×3	〃	—	—	4.5	—	—	—
			40×40×3	〃	—	—	—	5.7	—	—
			40×40×5	〃	—	—	—	—	9.4	9.2
		ボルト・ナット	M8×20L～25L	組	18	20	17	17	17	16
		フランジ用ガスケット	3㎜厚×25幅テープ	m	1.5	1.6	—	—	—	—
			3㎜厚×30	〃	—	—	1.3	—	—	—
			3㎜厚×40	〃	—	—	—	1.3	1.3	1.2
		棒鋼・形鋼	M10,25×25×3	kg	0.31	0.54	—	—	—	—
			M10,30×30×3	〃	—	—	0.77	—	—	—
			M10,40×40×3	〃	—	—	—	1.0	—	—
			M10,40×40×5	〃	—	—	—	—	1.23	1.1
	鋼材防錆塗装		錆止めペイント	kg	0.37	0.41	0.46	0.60	0.65	2.5
	鉄板鋼材加工取付		塗装工	人	0.37	0.41	0.46	0.60	0.65	2.5
			ダクト工	人	0.25	0.26	0.28	0.31	0.41	0.54

（注）　鋼材防錆塗装は、上記歩掛の0.34倍して計上する。
　　塗装工は、上記歩掛の0.03倍して計上する。

備考　継目又は継手を外面からシール材でシールする場合は、本表複合価格の2%増しとする。

（２） 高圧１ダクト、高圧２ダクト

（出来上り１m2当り）

細目	名称		規格寸法等	単位	ダクト板厚及びダクト長辺（mm）					
					0.8	1.0	1.0	1.2	1.2	1.2
					450以下	451～750	751～1,500	1,201～1,500	1,501～2,200	2,201以上
アングルフランジ工法ダクト 〔高圧１ダクト 高圧２ダクト 排煙も含む〕	材料	亜鉛鉄板	1,829㎜幅コイル	m2	1.41	1.36	1.31	1.31	1.31	1.32
		鋼板	914×1,829㎜	kg	—	—	—	—	—	—
		形鋼	25×25×3	kg	3.5	3.6	—	—	—	—
			30×30×3	〃	—	—	4.5	4.5	—	—
			40×40×3	〃	—	—	—	—	5.7	—
			40×40×5	〃	—	—	—	—	—	9.4
		ボルト・ナット	M8×20L～25L	組	18	17	17	17	17	17
		フランジ用ガスケット	3㎜厚×25幅テープ	m	1.5	1.6	—	—	—	—
			3㎜厚×30	〃	—	—	1.3	1.3	—	—
			3㎜厚×40	〃	—	—	—	—	1.3	1.3
		棒鋼・形鋼	M10,25×25×3	kg	0.31	0.54	—	—	—	—
			M10,30×30×3	〃	—	—	0.77	0.77	—	—
			M10,40×40×3	〃	—	—	—	—	1.0	—
			M10,40×40×5	〃	—	—	—	—	—	1.23
	鋼材防錆塗装		錆止めペイント	kg	0.37	0.41	0.46	0.46	0.60	0.65
	鉄板鋼材加工取付		塗装工	人	0.37	0.41	0.46	0.46	0.60	0.65
			ダクト工	人	0.25	0.26	0.28	0.28	0.31	0.41

（注） 鋼材防錆塗装は、上記歩掛の0.34倍して計上する。
塗装工は、上記歩掛の0.03倍して計上する。

備考 継目又は継手を外面からシール材でシールする場合は、本表複合価格の2%増しとする。

４－２　ステンレス鋼板製矩形ダクト

（１）　ステンレス鋼板製矩形ダクト（ＳＵＳ・Ａ）

〔低圧ダクト〕

（出来上り１m2当り）

名　　称	規格寸法等	単位	ダクト板厚及びダクト長辺（mm）			
			0.5	0.6	0.8	1.0
			750以下	751～1,500	1,501～2,200	2,201以上
ステンレス鋼板	1,000×2,000㎜	m2	1.28	1.28	1.28	1.28
ステンレス形鋼	25×25×３㎜	kg	2.0	—	—	—
	30×30×３〃	〃	—	3.0	—	—
	40×40×３〃	〃	—	—	4.0	—
	40×40×５〃	〃	—	—	—	6.4
ボルトナット（ＳＵＳ）	M8×20～25L	組	13.3	13.3	13.3	13.3
フランジ用ガスケット	25㎜幅×３㎜厚	m	1.3	—	—	—
	30　〃×　〃	〃	—	1.3	—	—
	40　〃×　〃	〃	—	—	1.3	1.3
ステンレス製棒鋼・形鋼	M10,25×25×3	kg	0.3	—	—	—
	M10,30×30×3	〃	—	0.86	—	—
	M10,40×40×3	〃	—	—	1.13	—
	M10,40×40×5	〃	—	—	—	1.4
ステンレス鋼板・鋼材加工取付	ダクト工	人	0.56	0.59	0.63	0.78

備考１　ダクトのかどの継目は、ピッツバーグはぜ・ボタンパンチスナップはぜ又は溶接とする。
　　２　ＳＵＳ・Ａダクト：ダクトの仕様は、形鋼、つり金物、ボルトナット等がすべてステンレス製のもの。

（２）　ステンレス鋼板製矩形ダクト（ＳＵＳ・Ａ）

〔高圧ダクト〕

（出来上り１m2当り）

名　　称	規格寸法等	単位	ダクト板厚及びダクト長辺（mm）					
			0.8	1.0	1.0	1.2	1.2	1.2
			450以下	451～750	751～1,200	1,201～1,500	1,501～2,200	2,201以上
ステンレス鋼板	1,000×2,000㎜	m2	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28
ステンレス形鋼	25×25×３㎜	kg	2.0	2.0	—	—	—	—
	30×30×３〃	〃	—	—	3.0	3.0	—	—
	40×40×３〃	〃	—	—	—	—	4.0	—
	40×40×５〃	〃	—	—	—	—	—	6.4
ボルトナット（ＳＵＳ）	M8×20～25L	組	13.3	13.3	13.3	13.3	13.3	13.3
フランジ用ガスケット	25㎜幅×３㎜厚	m	1.3	1.3	—	—	—	—
	30　〃×　〃	〃	—	—	1.3	1.3	—	—
	40　〃×　〃	〃	—	—	—	—	1.3	1.3
ステンレス製棒鋼・形鋼	M10,25×25×3	kg	0.3	0.3	—	—	—	—
	M10,30×30×3	〃	—	—	0.86	0.86	—	—
	M10,40×40×3	〃	—	—		—	1.13	—
	M10,40×40×5	〃	—	—	—	—	—	1.4
ステンレス鋼板・鋼材加工取付	ダクト工	人	0.56	0.56	0.59	0.59	0.63	0.78

備考１　ダクトのかどの継目は、ピッツバーグはぜ・ボタンパンチスナップはぜ又は溶接とする。
　　２　ＳＵＳ・Ａダクト：ダクトの仕様は、形鋼、つり金物、ボルトナット等がすべてステンレス製のもの。

（３） ステンレス鋼板製矩形ダクト（ＳＵＳ・Ｂ）

（フランジ及び支持金物等は普通鋼材を使用）

〔低圧ダクト〕

（出来上り１m2当り）

名　　称	規格寸法等	単位	ダクト板厚及びダクト長辺（mm）			
			0.5	0.6	0.8	1.0
			750以下	751～1,500	1,501～2,200	2,201以上
ステンレス鋼板	1,000×2,000㎜	m2	1.28	1.28	1.28	1.28
形鋼	25×25×３㎜	kg	3.6	—	—	—
	30×30×３〃	〃	—	4.5	—	—
	40×40×３〃	〃	—	—	5.7	—
	40×40×５〃	〃	—	—	—	9.4
ボルトナット	M8×20～25L	組	20	17	17	17
フランジ用ガスケット	25㎜幅×３㎜厚	m	1.3	—	—	—
	30 〃× 〃	〃	—	1.3	—	—
	40 〃× 〃	〃	—	—	1.3	1.3
棒鋼・形鋼	M10,25×25×3	kg	0.3	—	—	—
	M10,30×30×3	〃	—	0.86	—	—
	M10,40×40×3	〃	—	—	1.13	—
	M10,40×40×5	〃	—	—	—	1.4
鋼材防錆塗装	錆止めペイント	kg	0.34	0.38	0.52	0.52
ステンレス鋼板・鋼材加工取付	塗装工	人	0.34	0.38	0.52	0.52
	ダクト工	人	0.56	0.59	0.63	0.78

（注） 鋼材防錆塗装は、上記歩掛の0.34倍して計上する。
塗装工は、上記歩掛の0.03倍して計上する。

備考１ ダクトのかどの継目は、ピッツバーグはぜ・ボタンパンチスナップはぜ又は溶接とする。

２ ＳＵＳ・Ｂダクト：ダクトの仕様は、形鋼、つり金物、ボルトナット等が普通鋼材製のもの。

（４） ステンレス鋼板製矩形ダクト（ＳＵＳ・Ｂ）

（フランジ及び支持金物等は普通鋼材を使用）

〔高圧ダクト〕

（出来上り１m2当り）

名称	規格寸法等	単位	ダクト板厚及びダクト長辺（mm）					
			0.8	1.0	1.0	1.2	1.2	1.2
			450以下	451～750	751～1,200	1,201～1,500	1,501～2,200	2,201以上
ステンレス鋼板	1,000×2,000㎜	m2	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28
形鋼	25×25×３㎜	kg	3.2	3.6	—	—	—	—
	30×30×３〃	〃	—	—	4.5	4.5	—	—
	40×40×３〃	〃	—	—	—	—	5.7	—
	40×40×５〃	〃	—	—	—	—	—	9.4
ボルトナット	M8×20～25Ｌ	組	18	20	17	17	17	17
フランジ用ガスケット	25㎜幅×３㎜厚	m	1.3	1.3	—	—	—	—
	30 〃×〃	〃	—	—	1.3	1.3	—	—
	40 〃×〃	〃	—	—	—	—	1.3	1.3
棒鋼・形鋼	M10,25×25×3	kg	0.3	0.3	—	—	—	—
	M10,30×30×3	〃	—	—	0.86	0.86	—	—
	M10,40×40×3	〃	—	—		—	1.13	—
	M10,40×40×5	〃	—	—	—	—	—	1.4
棒材防錆塗装	錆止めペイント	kg	0.34	0.34	0.38	0.38	0.52	0.52
ステンレス鋼板・鋼材加工取付	塗装工	人	0.34	0.34	0.38	0.38	0.52	0.52
	ダクト工	人	0.56	0.56	0.59	0.59	0.63	0.78

（注） 鋼材防錆塗装は、上記歩掛の0.34倍して計上する。
塗装工は、上記歩掛の0.03倍して計上する。

備考１ ダクトのかどの継目は、ピッツバーグはぜ・ボタンパンチスナップはぜ又は溶接とする。

２ ＳＵＳ・Ｂダクト：ダクトの仕様は、形鋼、つり金物、ボルトナット等が普通鋼材製のもの。

４－３　硬質塩化ビニル板製矩形ダクト

（１）硬質塩化ビニル板製矩形ダクト（ビニル・Ａ）

〔低圧・高圧１ダクト、１，０００（Ｐａ）以下〕

（出来上り１m2当り）

名　　称	規格寸法等	単位	ダクト板厚及びダクト長辺（mm）				
			3	4	5	5	6
			500以下	501～1,000	1,001～1,500	1,501～2,000	2,001～3,000
硬質塩化ビニル板		m2	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1
硬質塩化ビニル製アングル	50×50×６㎜	m	2.0	—	—	—	—
	60×60×７〃	〃	—	2.2	2.2	2.2	2.2
補強鋼板（ＳＵＳ）	50×４㎜	kg	—	—	1.2	1.3	2.2
ステンレス製棒鋼・形鋼	M10，30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—
	M10，40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—
	M10，40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69
ボルトナット（ＳＵＳ）	Ｍ　８×２０Ｌ	組	9.1	－	－	－	－
	Ｍ１０×２０Ｌ	〃	－	8.9	11.4	10.5	12.0
フランジ用ガスケット	50㎜幅	m	1.1	—	—	—	—
	60㎜幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6
加工取付	ダクト工	人	0.72	0.78	0.81	0.83	0.93

備考　ビニル・Ａダクト：ダクト仕様は、補強鋼板、つり金物、ボルトナット等がステンレス製のもの。

（２）硬質塩化ビニル板製矩形ダクト（ビニル・Ａ）

〔高圧２ダクト、１，０００（Ｐａ）～１，５００（Ｐａ）以下〕

（出来上り１m2当り）

名　　称	規格寸法等	単位	ダクト板厚及びダクト長辺（mm）				
			3	5	5	5	6
			500以下	501～1,000	1,001～1,500	1,501～2,000	2,001～3,000
硬質塩化ビニル板		m2	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1
硬質塩化ビニル製アングル	50×50×６㎜	m	2.0	—	—	—	—
	60×60×７〃	〃	—	2.2	2.2	2.2	2.2
補強鋼板（ＳＵＳ）	50×４㎜	kg	—	—	1.2	1.3	2.2
ステンレス製棒鋼・形鋼	M10，30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—
	M10，40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—
	M10，40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69
ボルトナット（ＳＵＳ）	Ｍ　８×２０Ｌ	組	9.1	－	－	－	－
	Ｍ１０×２０Ｌ	〃	－	8.9	11.4	10.5	12.0
フランジ用ガスケット	50㎜幅	m	1.1	—	—	—	—
	60㎜幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6
加工取付	ダクト工	人	0.72	0.78	0.81	0.83	0.93

備考　ビニル・Ａダクト：ダクト仕様は、補強鋼板、つり金物、ボルトナット等がステンレス製のもの。

（３）硬質塩化ビニル板製矩形ダクト（ビニル・Ａ）

〔高圧２ダクト、１，５００（Ｐa）を超え２，０００（Ｐa）以下〕

（出来上り１m2当り）

名称	規格寸法等	単位	ダクト板厚及びダクト長辺（mm）				
			4	5	5	5	6
			500以下	501～1,000	1,001～1,500	1,501～2,000	2,001～3,000
硬質塩化ビニル板		m2	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1
硬質塩化ビニル製アングル	50×50×６㎜	m	2.0	—	—	—	—
	60×60×７〃	〃	—	2.2	2.2	2.2	2.2
補強鋼板（ＳＵＳ）	50×４㎜	kg	—	1.2	1.2	1.3	2.2
ステンレス製棒鋼・形鋼	M10，30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—
	M10，40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—
	M10，40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69
ボルトナット（ＳＵＳ）	Ｍ　８×２０Ｌ	組	9.1	—	—	—	—
	Ｍ１０×２０Ｌ	〃	—	8.9	11.4	10.5	12.0
フランジ用ガスケット	50㎜幅	m	1.1	—	—	—	—
	60㎜幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6
加工取付	ダクト工	人	0.72	0.78	0.81	0.83	0.93

備考　ビニル・Ａダクト：ダクト仕様は、補強鋼板、つり金物、ボルトナット等がステンレス製のもの。

（４）硬質塩化ビニル板製矩形ダクト（ビニル・Ｂ）

〔低圧・高圧１ダクト、１，０００（Ｐa）以下〕

（出来上り１m2当り）

名称	規格寸法等	単位	ダクト板厚及びダクト長辺（mm）				
			3	4	5	5	6
			500以下	501～1,000	1,001～1,500	1,501～2,000	2,001～3,000
硬質塩化ビニル板		m2	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1
硬質塩化ビニル製アングル	50×50×６㎜	m	2.0	—	—	—	—
	60×60×７〃	〃	—	2.2	2.2	2.2	2.2
補強鋼板	50×4.5㎜	kg	—	—	1.2	1.3	2.2
棒鋼・形鋼	M10，30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—
	M10，40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—
	M10，40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69
ボルトナット	Ｍ　８×２０Ｌ	組	9.1	—	—	—	—
	Ｍ１０×２０Ｌ	〃	—	8.9	11.4	10.5	12.0
フランジ用ガスケット	50㎜幅	m	1.1	—	—	—	—
	60㎜幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6
鋼材防錆塗装	錆止めペイント	kg	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
加工取付	塗装工	人	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
	ダクト工	人	0.72	0.78	0.81	0.83	0.93

（注）　鋼材防錆塗装は、上記歩掛の0.34倍して計上する。
　　塗装工は、上記歩掛の0.03倍して計上する。

備考１　ビニル・Ｂダクト：ダクト仕様は、補強鋼板、つり金物、ボルトナット等が普通鋼材製のもの。

（５）硬質塩化ビニル板製矩形ダクト（ビニル・Ｂ）

〔高圧２ダクト、１，０００（Ｐa）～１，５００（Ｐa）以下〕

（出来上り１m2当り）

名称	規格寸法等	単位	ダクト板厚及びダクト長辺（mm）				
			3	5	5	5	6
			500以下	501～1,000	1,001～1,500	1,501～2,000	2,001～3,000
硬質塩化ビニル板		m2	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1
硬質塩化ビニル製アングル	50×50×６㎜	m	2.0	—	—	—	—
	60×60×７〃	〃	—	2.2	2.2	2.2	2.2
補強鋼板	50×4.5㎜	kg	—	—	1.2	1.3	2.2
棒鋼・形鋼	M10，30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—
	M10，40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—
	M10，40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69
ボルトナット	Ｍ　８×２０Ｌ	組	9.1	—	—	—	—
	Ｍ１０×２０Ｌ	〃	—	8.9	11.4	10.5	12.0
フランジ用ガスケット	50㎜幅	m	1.1	—	—	—	—
	60㎜幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6
鋼材防錆塗装	錆止めペイント	kg	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
加工取付	塗装工	人	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
	ダクト工	人	0.72	0.78	0.81	0.83	0.93

（注）　鋼材防錆塗装は、上記歩掛の0.34倍して計上する。
　　塗装工は、上記歩掛の0.03倍して計上する。

備考１　ビニル・Ｂダクト：ダクト仕様は、補強鋼板、つり金物、ボルトナット等が普通鋼材製のもの。

（６）硬質塩化ビニル板製矩形ダクト（ビニル・Ｂ）

〔高圧２ダクト、１，５００（Ｐa）を超え２，０００（Ｐa）以下〕

（出来上り１m2当り）

名称	規格寸法等	単位	ダクト板厚及びダクト長辺（mm）				
			4	5	5	5	6
			500以下	501～1,000	1,001～1,500	1,501～2,000	2,001～3,000
硬質塩化ビニル板		m2	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1
硬質塩化ビニル製アングル	50×50×６㎜	m	2.0	—	—	—	—
	60×60×７〃	〃	—	2.2	2.2	2.2	2.2
補強鋼板	50×4.5㎜	kg	—	1.2	1.2	1.3	2.2
棒鋼・形鋼	M10，30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—
	M10，40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—
	M10，40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69
ボルトナット	Ｍ　８×２０Ｌ	組	9.1	—	—	—	—
	Ｍ１０×２０Ｌ	〃	—	8.9	11.4	10.5	12.0
フランジ用ガスケット	50㎜幅	m	1.1	—	—	—	—
	60㎜幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6
鋼材防錆塗装	錆止めペイント	kg	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
加工取付	塗装工	人	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
	ダクト工	人	0.72	0.78	0.81	0.83	0.93

（注）　鋼材防錆塗装は、上記歩掛の0.34倍して計上する。
　　塗装工は、上記歩掛の0.03倍して計上する。

備考１　ビニル・Ｂダクト：ダクト仕様は、補強鋼板、つり金物、ボルトナット等が普通鋼材製のもの。

４－４　ガラス繊維強化塩化ビニル板製矩形ダクト

（出来上り１m2当り）

名　　称	規格寸法等	単位	ダクト板厚及びダクト長辺（㎜）					
			3	3（4）	4	4	5	5
			500以下	501～1,000	1,001～1,500	1,501～2,000	2,001～3,000	3,001以上
ガラス繊維強化塩ビ板		m2	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1	1.1
ステンレス製フランジ及び補強材	30×30×３㎜	kg	2.7	—	—	—	—	—
	40×40×３〃	〃	—	4.0	4.0	4.0	4.0	—
	40×40×５〃	〃	—	—	—	—	—	6.2
ステンレス製棒鋼・形鋼	M10，30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—	—
	M10，40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—	—
	M10，40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69	—
	M12，40×40×5	〃	—	—	—	—	—	1.69
ボルトナット（ＳＵＳ）	Ｍ８	組	9	—	—	—	—	—
	M10	〃	—	9.4	11.4	9.0	9.0	8.5
リベット（ＳＵＳ）	4φ	本	16	15	16	14	13	16
パッキン	30㎜幅	m	1.1	—	—	—	—	—
	40㎜幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6	0.7
加工取付	ダクト工	人	0.80	0.92	0.98	1.03	1.14	1.19

備考１　ダクト仕様は、接合フランジ、つり金物、ボルトナット、リベット等がステンレス製のもの。
　　２　ダクト長辺５０１～１，０００mmのダクト板厚４mmは、１，０００Paを超えるもの。

４－５　スパイラルダクト

（１）　低圧ダクト

（出来上り１ｍ当り）

細目	ダクト口径	鉄板厚	スパイラルダクト	補助材						ダクト工
				ダクト用テープ（50幅）	タップスクリュー	シール材	吊りボルト用平鋼	棒鋼	ボルトナット	
	mm	mm	m	m	本	g	kg	kg	本	人
スパイラルダクト（低圧ダクト）	100	0.5	1.1	0.63	4	12	0.11	0.17	0.47	0.115
	125		〃	0.79	〃	15	0.14	〃	〃	0.115
	150		〃	0.88	〃	17	0.16	〃	〃	0.133
	175		〃	1.10	〃	21	0.18	〃	〃	0.155
	200		〃	1.26	6	23	0.20	〃	〃	0.174
	225		〃	1.41	〃	27	0.22	〃	〃	0.191
	250		〃	1.57	〃	28	0.25	〃	〃	0.200
	275		〃	1.73	〃	32	0.26	〃	〃	0.220
	300		〃	1.88	8	34	0.33	〃	〃	0.250
	350		〃	2.20	〃	40	0.34	〃	〃	0.288
	400		〃	2.51	10	46	0.38	〃	〃	0.336
	450		〃	2.83	〃	53	0.43	0.46	0.94	0.392
	500	0.6	1.1	3.14	12	58	0.47	〃	〃	0.433
	550		〃	3.45	〃	75	0.52	〃	〃	0.509
	600		〃	3.77	14	83	0.56	〃	〃	0.520
	650		〃	4.08	〃	88	0.61	〃	〃	0.577
	700		〃	4.40	16	95	0.65	〃	〃	0.606
	750	0.8	1.1	4.71	16	102	0.70	〃	〃	0.654
	800		〃	5.02	18	108	0.74	〃	〃	0.694
	850		〃	5.34	〃	115	0.79	〃	〃	0.721
	900		〃	5.65	20	122	0.82	〃	〃	0.769
	950		〃	5.97	〃	127	0.88	〃	〃	0.798
	1,000		〃	6.28	22	135	0.92	〃	〃	0.869

（２） 高圧１ダクト、高圧２ダクト

（出来上り１ｍ当り）

細目	ダクト口径	鉄板厚	スパイラルダクト	補助材						ダクト工
				ダクト用テープ（50幅）	タップスクリュー	シール材	吊りボルト用平鋼	棒鋼	ボルトナット	
	mm	mm	m	m	本	g	kg	kg	本	人
スパイラルダクト（高圧１ダクト 高圧２ダクト）	100	0.5	1.1	0.63	4	12	0.11	0.17	0.47	0.115
	125		〃	0.79	〃	15	0.14	〃	〃	0.115
	150		〃	0.88	〃	17	0.16	〃	〃	0.133
	175		〃	1.10	〃	21	0.18	〃	〃	0.155
	200		〃	1.26	6	23	0.20	〃	〃	0.174
	225	0.6	1.1	1.41	6	27	0.22	〃	〃	0.191
	250		〃	1.57	〃	28	0.25	〃	〃	0.200
	275		〃	1.73	〃	32	0.26	〃	〃	0.220
	300		〃	1.88	8	34	0.33	〃	〃	0.250
	350		〃	2.20	〃	40	0.34	〃	〃	0.288
	400		〃	2.51	10	46	0.38	〃	〃	0.336
	450		〃	2.83	〃	53	0.43	0.46	0.94	0.392
	500		〃	3.14	12	58	0.47	〃	〃	0.433
	550		〃	3.45	〃	75	0.52	〃	〃	0.509
	600	0.8	1.1	3.77	14	83	0.56	〃	〃	0.520
	650		〃	4.08	〃	88	0.61	〃	〃	0.577
	700		〃	4.40	16	95	0.65	〃	〃	0.606
	750		〃	4.71	〃	102	0.70	〃	〃	0.654
	800		〃	5.02	18	108	0.74	〃	〃	0.694
	850	1.0	1.1	5.34	18	115	0.79	〃	〃	0.721
	900		〃	5.65	20	122	0.82	〃	〃	0.769
	950		〃	5.97	〃	127	0.88	〃	〃	0.798
	1,000		〃	6.28	22	135	0.92	〃	〃	0.869

４－６　ダクト付帯設備

（１）吸込口、吹出口（鋼板製又はビニル製）

（人/個）

名　　称	大　き　さ	ダクト工
吸　込　口 （GH、GV、GHS、GVS、GN1、GN2）	0.1m2以下	0.42
	0.2	0.44
	0.3	0.46
	0.4	0.50
	0.5	0.55
	0.6	0.60
	0.7	0.65
	0.8	0.70
	0.9	0.75
	1.0	0.80
	1.2	0.90
	1.4	1.00
	1.6	1.10
	1.8	1.20
	2.0	1.30
	2.2	1.40
	2.4	1.50
吹　出　口 アネモディフューザ （Ｃ２、ＣＡ、Ｅ２、ＥＡ）	直径200㎜以下	0.39
	250～350	0.46
	400～500	0.55
	550以上	0.63
吹出口・ユニバーサル形 （ＶＨＳ、ＶＨ、Ｖ、ＶＳ）	0.04以下	0.33
	0.06	0.34
	0.08	0.36
	0.10	0.38
	0.15	0.40
	0.20	0.44
	0.25	0.48
	0.30	0.54
	0.35	0.58
	0.40	0.70
線　状　吹　出　口 （ＢＬ－Ｓ、ＢＬ－Ｄ）	長辺１ｍ未満	0.34
	〃　２ｍ　〃	0.52
	〃　２ｍ以上	0.70
照明器具組込形 40W	１連形	0.45
	２連形	0.85
	４連形	1.55
ノ　ズ　ル　形　吹　出　口		0.39
排　煙　口 （手動操作装置を含む。）	長辺0.5m未満	0.60
	〃　1.0m　〃	0.80
	〃　1.0m以上	1.10

備考　排煙口には、手動操作装置を含む。

（２） ダンパ類

（人/個）

名　　称	大　き　さ	ダクト工
風量調節ダンパ（ＶＤ） （鋼板製又はビニル製）	0.1m2以下	0.42
	0.2	0.44
	0.3	0.46
	0.4	0.48
	0.5	0.50
	0.6	0.55
	0.7	0.60
	0.8	0.65
	0.9	0.70
	1.0	0.75
	1.2	0.80
	1.4	0.90
	1.6	1.00
	1.8	1.10
	2.0	1.20
	2.2	1.30
	2.4	1.40
防火ダンパ　　（ＦＤ） 防煙ダンパ　　（ＳＤ） ピストンダンパ（ＰＤ） 風量調節、防火ダンパ（ＦＶＤ） 防火防煙ダンパ（ＳＦＤ）	0.1m2以下	0.45
	0.2	0.48
	0.3	0.50
	0.4	0.53
	0.5	0.55
	0.6	0.60
	0.7	0.65
	0.8	0.70
	0.9	0.75
	1.0	0.80
	1.2	0.90
	1.4	1.00
	1.6	1.10
	1.8	1.20
	2.0	1.30
	2.2	1.40
	2.4	1.50
風　量　測　定　口		0.23
ベンドキャップ		0.20

備考　２．４m2を越える場合は、適宜勘案して定める。

（３） 外気取入れガラリ、排気ガラリ

（人/個）

名　　称	大　き　さ	ダクト工
外気取入れ　ガ　ラ　リ 排　　気　ガ　ラ　リ	0.6m2以下	1.20
	0.7	1.30
	0.8	1.40
	0.9	1.50
	1.0	1.60
	1.2	1.70
	1.4	1.80
	1.6	2.00
	1.8	2.10
	2.0	2.20
	2.2	2.30
	2.4	2.40

備考　２．４m2を越える適宜勘案して定める。

（４） たわみ継手 （ビニル製）

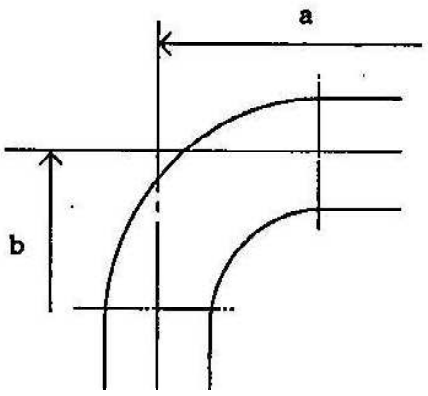
（人）

名　　称	単　位	送　風　機No.	ダクト工
たわみ継手 両吸込み形 （吐出口のみ）	箇　所	2 以下	0.12
		2 1/2	0.14
		3	0.15
		3 1/2	0.16
		4	0.18
		4 1/2	0.20
		5	0.22
		5 1/2	0.24
		6	0,27
		7	0.30
		8	0.35
		9	0.42
		10	0.50
たわみ継手 片吸込み形 （吸込口、吐出口共）	組	2 以下	0.19
		2 1/2	0.21
		3	0.23
		3 1/2	0.25
		4	0.27
		4 1/2	0.31
		5	0.34
		5 1/2	0.37
		6	0.41
		7	0.46
		8	0.53
		9	0.65
		10	0.75

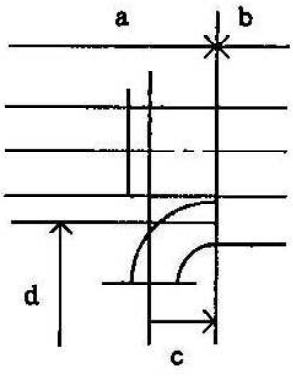
４－７　ダクト複合単価構成例　（低圧ダクト（ＳＵＳ・Ｂ）0.5ｔ　ダクト長辺750ｍｍ以下の例）

名　　称	形　　状	単位	数量	単　価	金　額	備　　考
ステンレス鋼板	1,000×2,000㎜	m2	1.28			物価資料等
形　　鋼	25×25×3	kg	3.6			穴あけ加工溶接共
ボルト、ナット	M8×20～25	組	20			物価資料等
フランジ用ガスケット	3㎜厚×25グラス又はロックウール等のテープ	m	1.3			〃
棒鋼・形鋼	M10，25×25×3	kg	0.30			〃
小　　計						（直接材料費）
補助材料		式	1			直接材料費×0.04
小　　計						（補助材料費）
ダクト工		人	0.56			加工、取付方
小　　計						（労務費）
機械経費		式	1			労務費×0.02
小　　計						（直接経費）
鋼材防錆塗装	錆止めペイント	式	1			錆止めペイント0.34kg×0.34 塗装工0.34人×0.03
小　　計						（複合工費）
計	0.5ｔダクト(SUS・B)	m2	1			材工共複合単価

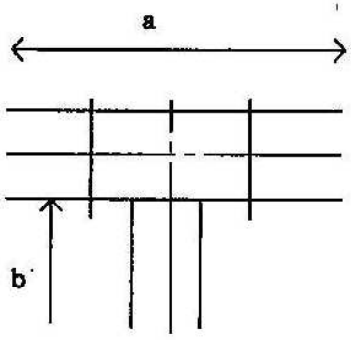
備考　ダクトの中心線の長さの求め方は下図の通りである。



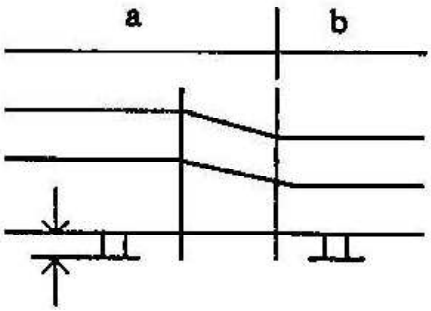
Ｌ＝ａ＋ｂ

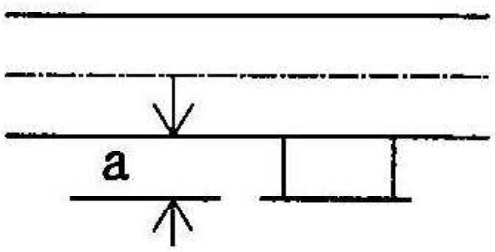


Ｌ１＝ａ
Ｌ２＝ｂ
Ｌ３＝ｃ＋ｄ



Ｌ１＝ａ
Ｌ２＝ｂ



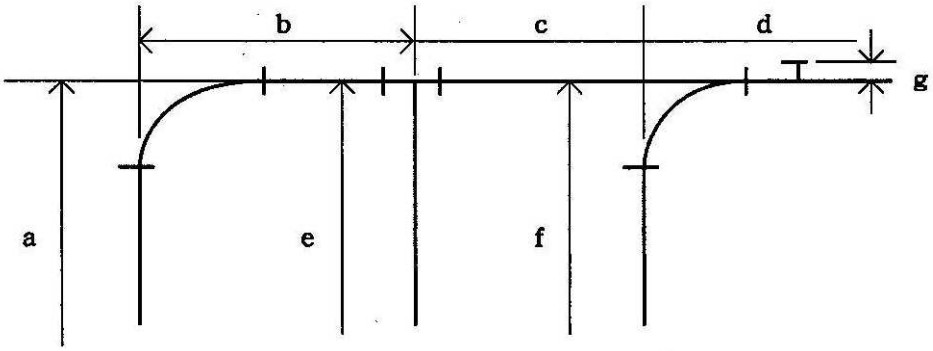


Ｌ１＝ａ

Ｌ２＝ｂ

Ｌ３＝２×ｃ

※　吸出口又は吸入口のａは、ａ＝0.15ｍとする。
ただし、ビニール板製風道の場合は見込まない。



Ｌ１＝ａ＋ｂ

Ｌ２＝ｃ

Ｌ３＝ｄ

Ｌ４＝ｅ

Ｌ５＝ｆ

Ｌ６＝ｇ

５． 現場塗装工

現場塗装は、はけ塗りを標準とする。

５－１ 現場塗装費構成

（１m2当り）

名　称	単 位	数 量	備　考
塗　料	kg		１回当りの塗料使用料（質量）×塗装回数
希 釈 剤	kg		塗料使用料（質量）の5～10%
小　計			（直接材料費）
補 助 材 料	式	1	直接材料費×0.04
小　計			（補助材料費）
塗 装 工	人		塗装歩掛＝塗装工標準歩掛×（１＋塗装工補正率）
小　計			（労務費）
機 械 経 費	式	1	労務費×0.02
小　計			（直接経費）
計	m2	1	材工共複合単価

５－２ 塗料使用量

(kg/m2/回)

塗　料　名	塗　料　使　用　量		
	下　塗　り	中　塗　り	上　塗　り
エッチングプライマ	0.12		
ジンクリッチプライマ	0.18		
一般用さび止め塗料	0.140	—	—
鉛・クロムフリーさび止めペイント	0.140	—	—
エポキシ樹脂系塗料	0.220	0.180	0.170
長油性フタル酸塗料	—	0.130	0.120
フェノール塗料	0.140	0.120	0.120
ポリウレタン塗料	0.160	0.150	0.130
フェノールＭＩＯ系塗料	—	0.250	—
エポキシＭＩＯ系塗料	—	0.250	—
アルミニウム系塗料	—	—	0.090
鋳鉄管用アクリルＮＡＤ系艶有塗料	—	0.060	0.060
鋳鉄管用ポリウレタン塗料	—	0.100	0.100
鋳鉄管用エポキシ樹脂塗料	—	0.090	0.090

備考　上表の数値は、塗料作業中に飛散したものや、残余塗料で使用不可能等になった塗料のロス分を含んだものである。

５－３　希釈剤使用率

ペイント使用量（質量）に対する希釈剤使用率（質量）は、下表を標準とする。

塗料名	希釈剤使用率（%）
エッチングプライマ	5
ジンクリッチプライマ	
一般用さび止め塗料	5
鉛・クロムフリーさび止めペイント	
エポキシ樹脂系塗料	
長油性フタル酸塗料	
フェノール塗料	
アルミニウム塗料	
フェノールＭＩＯ系塗料	
エポキシＭＩＯ系塗料	
アクリルＮＡＤ系艶有塗料	
ポリウレタン樹脂塗料	10

備考１　希釈剤の比重は、０．８５とする。

２　希釈剤使用率には、使用機器の洗浄用希釈剤を含む。

５－４　塗装工標準歩掛

（人/m2/回）

区分	塗装工	備考
はけ塗	0.028	
プライマ処理	0.014	

備考　準備補修工数は、標準歩掛に含まれているので計上しない。

５－５　塗装工補正率

工事場所の現場状況、作業環境、施工条件等に応じて次式により補正することができる。

塗装歩掛（人/m2/回）＝塗装工標準歩掛（人/m2/回）×（１＋補正率）

区分	補正率
密閉部内作業	0.80

備考　上記以外の補正率は、３－１　歩掛の補正による**表－２**補正率表を適宜適用することができる。

５－６　素地調整歩掛

（１m2当り）

項　目 ＼ 素地調整程度	１種ケレン（製品プラスト）	２種ケレン	３種ケレン	４種ケレン
材　　料	グリット1.0kg 又はサンド40kg	—	—	—
塗　装　工	0.055	0.043	0.024	0.009

５－７　現場塗装費構成例

（フェノール樹脂系　１m2当り）

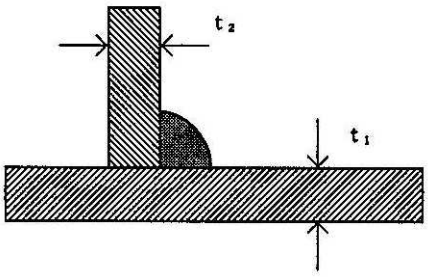
名　称	形　状	単位	数量	単　価	金　額	備　考
エッチングプライマ	下塗り　１回	kg	0.12			
フェノール樹脂系塗料	下塗り　２回	kg	0.28			0.14×2
	中塗り　１回	kg	0.12			
	上塗り　１回	kg	0.12			
希　釈　剤		kg	0.032			0.12×0.05＋(0.28＋0.12＋0.12) ×0.05
小　計						（直接材料費）
補　助　材　料		式	1			直接材料費×0.04
小　計						（補助材料費）
塗　装　工	素地調整（２種ケレン）	人	0.043			
	プライマ	人	0.014			
	下塗り	人	0.056			0.028×2
	中塗り	人	0.028			
	上塗り	人	0.028			
小　計						（労務費）
機　械　経　費		式	1			労務費×0.02
小　計						（直接経費）
計		m2	1			材工共複合単価

６．　現場溶接工

６－１　鋼材溶接

すみ肉及びＶ形つき合せ溶接歩掛（人/ｍ）		
板　厚（㎜）	溶　接　工	普通作業員
4.5	0.29	溶接工と同数
6.0	0.34	〃
8.0	0.42	〃
10.0	0.52	〃
12.0	0.64	〃

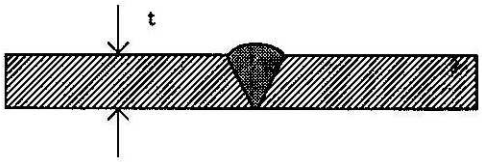
参考図（すみ肉溶接）



ｔ：板厚

ｔは、ｔ１・ｔ２の小さいほうを取る。

参考図（Ｖ型つき合せ溶接）



ｔ：板厚

備考　本歩掛は、第７類の溶接に適用する。

６－２　鋼管さし込み溶接フランジ

呼　び　径		溶　接　工（人/枚）	普通作業員（人/枚）
ｍｍ	ｉｎ		
100	4	0.23	溶接工と同数
150	6	0.28	〃
200	8	0.51	〃
250	10	0.69	〃
300	12	0.79	〃
350	14	0.82	〃
400	16	0.86	〃
450	18	0.87	〃
500	20	0.96	〃
600	24	1.10	〃
700	28	1.30	〃
800	32	1.60	〃
900	36	2.00	〃
1,000	40	2.10	〃
1,100	44	2.30	〃
1,200	48	2.80	〃
1,350	54	3.20	〃
1,500	60	4.00	〃

備考　呼び径３５０ｍｍ以下の歩掛は、主に高圧配管に適用する。

６－３　鋼管Ｖ形つき合せ溶接

呼　び　径		溶　接　工（人/箇所）	普通作業員（人/箇所）
ｍｍ	ｉｎ		
100	4	0.20	溶接工と同数
150	6	0.24	〃
200	8	0.44	〃
250	10	0.60	〃
300	12	0.68	〃
350	14	0.71	〃
400	16	0.74	〃
450	18	0.75	〃
500	20	0.83	〃
600	24	0.95	〃
700	28	1.10	〃
800	32	1.40	〃
900	36	1.70	〃
1,000	40	1.80	〃
1,100	44	2.00	〃
1,200	48	2.40	〃
1,350	54	2.80	〃
1,500	60	3.50	〃

備考　呼び径350㎜以下の歩掛は、主に高圧配管に適用する。

７．下水処理設備用モルタル工

	左　　官	普通作業員	単　　位
モルタル充填	0.01	0.01	人/Ｌ
モルタル仕上げ（厚２㎝）	0.05	0.01	人/m2

備考１　モルタル充填は、アンカ穴埋戻し及び機器基礎等荷重のかかる場所の充填に適用。

ポンプ場・処理場施設

（電気設備）編

ポンプ場・処理場施設（電気設備）編

目次

Ⅰ　設計標準歩掛表

第１編　一般事項

１．適用範囲

本標準歩掛は、「下水道用電気設備請負工事工事費積算基準」に基づく工事設計書の作成に使用する歩掛として定めたものである。

この歩掛は、下水道事業の電気設備工事に係わる労務費の積算に適用する。

２．構成と範囲

２－１　標準歩掛

本歩掛表は、標準的作業を想定して定めたものである。特に施工条件が大幅に異なる場合には、実績等を勘案して補正する。

２－２　主要職種

（１）　技術者

据付工事部門等から派遣され、機器等の設置（据付、単体調整）、組合せ試験等において相当程度の専門的知識と経験を持ち、直接あるいは主体的にその業務を行い、かつ一般作業員を指導できるものである。

（２）　一般作業員

１）　普通作業員

普通の技能及び高度の肉体的条件を有し、主として次に揚げる作業を行うものである。

①　人力による土砂等の掘削、積込み、運搬等の作業。

②　保安及び交通整理等

③　その他各種作業について必要とされる補助的作業。

２）　電工

電気工事について相当程度の技能及び必要な資格を有し、主として次に揚げる作業について主体的業務を行うものである。

①　配線器具、照明器具、発電機、通信機器、盤類等の取付け、据付けまたは撤去。

②　電線・電線管等の取付け、据付けまたは撤去。

③　各種材料の現地加工作業。

④　技術者の補助的作業。

３）　設備機械工

据付け工事について相当程度の技能を有し、主として次に掲げる作業について主体的業務を行うものである。

①　鋼製階段、鋼製蓋類、支持金物等の据付け及び取付け。

４）　配管工

配管工事について相当程度の技能を有し、主として次に揚げる作業について主体的業務を行うものである。

①　屋内及び屋外における汚水、汚泥、給排水、給油、給排気及び換気等の配管・弁類の取付け。

②　管防護作業等。

２－３　単体調整・組合せ試験・総合試運転

本歩掛においては、単体調整及び組合せ試験を含むが、総合試運転の歩掛は含まないため、必要に応じて別途積算する。この場合、総合試運転の目的、範囲、方法、内容及び期間等を考慮して積算する。

（１）　単体調整

据付け完了後における保護継電器調整試験、蓄電池組み込み調整（電圧試験、比重測定等）、計装設備調整（発信器類・変換器類等の各種設定及び零調整・スパン調整等）等の機器単体の調整。

（２）　組合せ試験

本工事並びに本工事と他工事、あるいは既設装置等との機器間の良好な動作、および機能的関連等を確認するために実負荷をかけずに行う各種試験（インターフェース試験、シーケンス試験、計装制御及びループ試験等）、絶縁耐力試験、自主検査、発電装置等に係る試験。

（３）　総合試運転

本工事、他工事等を含めて総合的なプラントの機能を確認する必要がある場合、単体調整、組合せ試験完了後に行う実負荷（又は相当負荷）試運転。

総合的なプラントの機能を確認するに必要な標準運転時間及び実施期間を付－１に示す。

２－４　他歩掛の準用

標準歩掛に定めていない設備の歩掛については、**「土木関係工事積算要領　第１部　土木工事積算要領（一般土木編・電気編・機械編）」及び「土木工事積算基準（電気通信・機械設備編）」**等に基づき適切に積算すること。

３．適用上の留意事項

３－１　歩掛の補正

設備工事は、工事場所の現場状況、作業環境、施工条件及び他工事との競合等がある場合に補正する。補正歩掛は、次式により算出して得た値とする。

（補正歩掛）＝（標準歩掛）×（１＋補正率）

なお、補正率は、**表－１**により、作業種別に応じた補正率を適用し、工事場所における作業種別が多種類にわたり該当する場合は、その該当する種別の補正率を加算する。

表－１　補正率表

区　分	作　業　種　別	補正率	適　用　基　準
危険作業	高圧充電部に接近して行う作業	0.4	高圧充電部との離隔距離が２ｍ以内の場所
	低圧充電部に接近して行う作業	0.2	低圧充電部との離隔距離が１ｍ以内の場所
	悪環境における作業	0.2	毒性ガスの発生するおそれがある場所及び危険物、劇毒物を保管している場所または施工に作業性の悪い場所
	高所又は地下における作業	0.1	地表又は床面より５ｍ以上、又は地下２ｍ以下の場所
作業工程上制約がある作業	複雑な制約がある作業	0.4	次の制約条件がある場合 １）競合 ２）停電等による作業能率低下
	単純な制約がある作業	0.2	
錯綜場所	錯綜があるところでの作業	0.3	機器まわり、管廊等で特に錯綜する場所

備考　１　補正率は、作業内容に応じて特に必要な場合には、適宜補正する。

２　撤去工事の歩掛にも適用できる。

３－２　付属材料及び補完材料の歩掛

付属材料費率（**表－４**）を用いて算出した場合の付属材料については、歩掛の対象としない。ただし、補完材料については、歩掛の対象とする。

３－３　撤去工事の積算

既設物の撤去工事歩掛は、標準歩掛又は補正歩掛に対して**表－２**による。

表－２　撤去歩掛表

区　　分	撤去歩掛
再使用する撤去物	標準歩掛又は補正歩掛の６０％
再使用しない撤去物	標準歩掛又は補正歩掛の４０％

備考１　撤去物を再使用しない場合で、撤去対象物の標準歩掛に技術者を掲げているときは、技術者を電工と読み替える。

２　単体調整歩掛には適用しない。

３－４　材料補完率

材料補完率は、材料を積算するうえで設計図では予測しがたい曲がり、高低差、迂回距離等を材料積算数量に補完するものである。

材料補完量は、**表－３**により算出する。

表－３　材料補完率表

材　　料　　名	単　　位	補　完　率
ケ　ー　ブ　ル　類	m	0.10 (0.05)
電　　線　　類	m	0.10
電　　線　　管　　類	m	0.10
ワイヤリングダクト、ケーブルラック類	m	0.05
小配管（呼び径６５Ａ以下）	m	0.10
換　気　ダ　ク　ト	m2	0.05

備考１　ケーブル、電線類の補完率は、原則として１／100の平面図により想定した長さに階高を加えた最適の電線路を設定し、これによって計測、積算した集計値に適用する。従って、**表－３**には、材料補完率で定義したもののほかに、平面図では計測できない機器、盤等への立上り、立下り及び階高に含まれないラック等からの立上り、立下り部分を含んでいる。

２　ケーブル類の(0.05)を適用するのは、１条当たり300m以上の下記ケーブルとする。

（イ）単芯60mm2（公称断面積）以上の低圧ケーブル

（ロ）多芯38mm2（公称断面積）以上の低圧ケーブル

（ハ）高圧以上のケーブル

３　電線管類の補完率は、原則として１/100の平面図より想定した長さに、断面図より機器への立ち上がりなどの配管高さを加えた最適な電線路を設定し、これによって計測、積算した集計値に適用する。

３－５　付属材料費率

付属材料費率は、**表－４**により算出する。

表－４　付属材料費率表

材　料　名	付属材料費率	備　考
電線管類付属材料	1.00	ジャンクションボックス、プルボックス、スイッチボックス、ノーマルベンド、ターミナルキャップ等端末器具、端末用可とう電線管を別途積算する場合 接合材料　0.20 塗装、ボンド材　0.20 支持材料　0.60
	1.75	プルボックス及びスイッチボックスを別途積算する場合 接合材料　0.20 端末器具　0.10 ノーマルベンド　0.15 塗装、ボンド材　0.20 端末可とう電線管　0.50 支持材料　0.60
ワイヤリングダクト付属材料	0.28	直線に換算した場合 付属材料（点検窓、ケーブルサポート、アースボンド、セパレータ等を含む。）　0.24 支持材料　0.04
レースウェイ付属材料	0.30	
ケーブルラック付属材料	0.70	直接部のみ積上げた場合 接続固定材料　0.25 セパレータ　0.05 支持材料　0.40
ケーブル、電線類付属材料	0.015	Ⅳ線又は低圧動力ケーブル（端末処理材を使用しないもの）若しくは制御・計装ケーブルの場合（絶縁キャップ付圧着端子、マークバンド、ケーブル記号札、絶縁テープ、Ⅳ線接続材等）

備考１　防爆、防水材料等特殊な場合は、適用しない。

２　備考欄の内訳で明らかに不必要なものは、削除して率を低減する。

付－１　総合試運転時の設備標準運転時間及び実施期間

表－５　総合試運転時の設備標準運転時間及び実施期間

施設名	設備名称	運転時間	実施期間
ポンプ場施設	沈砂地機械設備に係る電気設備 ポンプ設備に係る電気設備	20時間	９日
水処理施設	沈砂地機械設備に係る電気設備 ポンプ設備に係る電気設備 水処理設備に係る電気設備 空気機械設備に係る電気設備	20時間	16日 （９日）
汚泥処理施設	濃縮設備に係る電気設備 消化設備に係る電気設備 洗浄設備に係る電気設備 脱水設備（薬注設備含む）に係る電気設備	20時間	12日 （９日）

備考１　（ ）内は小規模処理場（ＯＤ・回分・好気性ろ床法等）の場合の日数を示す。

２　実施期間は、土日祭日を含み、主要機器の運転、維持管理等の説明（講習会）等を含んだ期間である。

付－２　関連通達

設計書の作成については、国土交通省（旧建設省）関係通達及び基準等を参照されたい。

なお、主要なものは下記のとおりである。

１．補助事業等に係る工事設計書の作成について

（建設省会発第107号昭和34年４月１日、最終改正建設省会発第165号平成11年３月19日、建設省事務次官）

２．下水道用機械設備請負工事工事費積算要領並びに同積算基準、下水道用電気設備請負工事工事費積算要領並びに同積算基準の改定について

（建設省都下公発第８号昭和53年３月14日、最終改正建設省都下公発第31号平成12年10月18日、都市局長）

３．下水道用設計標準歩掛表について

（建設省都下公発第23号昭和52年７月30日、最終改正建設省都下公発第32号平成12年10月18日、下水道部長）

４．下水道事業における機械設備請負工事工事費積算基準の運用及び下水道事業における電気設備請負工事工事費積算基準の運用の改定について

（建設省都下公発第22号昭和52年７月30日、最終改定建設省都下公初第33号平成12年10月18日、公共下水道課長）

５．下水道工事の設計積算について

（建設省都下公発第８号昭和55年４月１日）

第２編　電気設備工事歩掛

１．適用条件

（１）　本歩掛は、標準的な歩掛であり、この歩掛によることが著しく不適当又は困難であると認められる場合は別途考慮する。

（２）　本歩掛は、標準的な基礎、架台等に据付ける場合を示し、特別な場合は別途計上する。

（３）　歩掛は、特に断らない限り「人/歩掛表の単位」とする。

２．機器設置工

２－１　受変電設備

（１）遮断器

作業種別	細　別　規　格		単位	据　　付		単体調整	摘　　要
				技術者	電　工	技術者	
ガス遮断機	30kV　級以下	16kA	台	1.4	5.9	1.3	
	70kV　級以下	20kA	〃	2.4	9.8	1.3	
	70kV　級以下	31.5kA	〃	2.4	11	1.3	
油入遮断機	30kV　級以下	25kA	台	1.1	4.1	1.3	
	70kV　級以下	25kA	〃	1.9	4.7	1.3	
	70kV　級以下	31.5kA	〃	1.9	5.6	1.3	
真空遮断機	６kV　級以下	12.5kA	台	0.17	1.6	0.84	
	６kV　級以下	16kA	〃	0.17	1.6	0.84	
	６kV　級以下	20kA	〃	0.17	1.9	0.84	
	６kV　級以下	25kA	〃	0.17	1.9	0.84	

備考　屋内形、屋外形共通とする。

（２）断路器

作業種別	細　別　規　格		単位	据　　付		単体調整	摘　　要
				技術者	電　工	技術者	
断　路　器	１Ｐフック操作	６kV 級以下	台	0.11	0.71	－	
		70kV 級以下	〃	0.11	0.71	－	
	３Ｐレバー操作	６kV 級以下	組	0.14	2.3	－	
		30kV 級以下	〃	0.14	3.0	－	
		70kV 級以下	〃	0.14	4.0	－	
	３Ｐ動力操作	６kV 級以下	組	0.18	2.3	0.17	
		30kV 級以下	〃	0.18	4.0	0.17	
		70kV 級以下	〃	0.18	5.5	0.17	

備考　屋内形、屋外形共通とする。

（３） 電力ヒューズ（限流形）

作業種別	細別規格		単位	据付		摘要
				技術者	電工	
電力ヒューズ	６kV級以下	100A以下	台	0.02	0.18	
		100～200A	〃	0.02	0.24	
		200Aを超える	〃	0.02	0.29	
	70kV級以下	10A以下	台	0.10	1.1	
		15A以上	〃	0.10	1.4	

備考　屋内形、屋外形共通とする。

（４） 避雷器

作業種別	細別規格	単位	据付		摘要
			技術者	電工	
酸化亜鉛形ギャップレスアレスタ	8.4kV以下	組	0.04	0.40	
特高用酸化亜鉛形ギャップレスアレスタ	30kV級以下	〃	0.15	1.7	
	70kV級以下	〃	0.15	2.1	

備考　接地線の接続を含むものとする。ただし、接地工事は除く。

（５） 母線・碍子

作業種別	細別規格	単位	据付	摘要
			電工	
銅丸棒	5～ 9㎜φ	m	0.07	
	10～12㎜φ	〃	0.08	
銅帯	3× 50㎜	m	0.13	
	6× 50㎜	〃	0.14	
	6× 75㎜	〃	0.18	
	6×100㎜	〃	0.29	
	6×125㎜	〃	0.35	
電線	8ｍｍ2以下	m	0.05	
	14～ 30ｍｍ2	〃	0.06	
	38～ 50ｍｍ2	〃	0.06	
	60～100ｍｍ2	〃	0.08	
	125～250ｍｍ2	〃	0.22	
碍子	懸垂　２連	連	0.29	
	懸垂　５連	〃	0.41	
	耐張　２連	〃	0.22	
	耐張　５連	〃	0.34	
	長幹　70kV	〃	0.45	

備考１　銅帯が２枚重ねの場合、延べ長さに対して15%増とする。
　　２　アルミ材の場合は30%減とする。
　　３　電線を母線として使用する場合を示す。
　　４　穴あけ、曲げ加工等を含むものとする。
　　５　３～６kV級母線取付けの場合、碍子取付けを含むものとする。

（６） 計器用変圧器・変流器

作業種別	細別規格	単位	据付		摘要
			電工		
６kV 級以下	モールド	組	0.05	0.72	
30kV 級以下	モールド	〃	0.14	2.0	
70kV 級以下	油入	〃	0.14	2.0	

備考　屋内形、屋外形共通とする。

（７） 変圧器（特高　油入）

作業種別	細別規格	単位	据付		単体調整	摘要
			技術者	電工	技術者	
三相	300～ 500kVA	台	2.0	12	1.3	
	750～1,000kVA	〃	2.4	15	1.3	
	1,500～3,000kVA	〃	2.8	17	1.3	
	4,000～6,000kVA	〃	3.2	20	1.3	
	7,500kVA	〃	3.6	22	1.3	
	10,000kVA	〃	4.1	23	1.3	
	15,000kVA	〃	5.0	27	1.3	
単価	100～ 500kVA	台	2.0	10	1.3	

備考１　屋内形、屋外形共通とする。
　　２　地上設置を標準とし、特別な基礎、架台等を必要とする場合は別途計上する。
　　３　変圧器は、１次電圧20～70kV級、２次電圧は３～６kV級とする。

（８） 変圧器（高圧）

作業種別	細別規格	単位	据付		摘要
			技術者	電工	
三相変圧器（油入）	30～ 50kVA	台	0.42	2.1	
	75～ 100kVA	〃	0.72	3.6	
	150～ 300kVA	〃	0.99	5.0	
	500～ 750kVA	〃	1.5	7.7	
	1,000～1,500kVA	〃	2.0	10	
	2,000～3,000kVA	〃	2.3	12	
三相変圧器（モールド・乾式）	30～ 50kVA	台	0.39	1.8	
	75～ 100kVA	〃	0.66	3.0	
	150～ 300kVA	〃	0.90	4.2	
	500～ 750kVA	〃	1.4	6.4	
	1,000～1,500kVA	〃	1.9	8.3	
	2,000～3,000kVA	〃	2.1	10	
単相変圧器（油入）	30～ 50kVA	台	0.29	1.7	
	75～ 100kVA	〃	0.50	2.9	
	150～ 300kVA	〃	0.69	4.0	
	500～ 750kVA	〃	1.0	6.2	
	1,000～1,500kVA	〃	1.4	8.0	
	2,000～3,000kVA	〃	1.6	9.6	
単相変圧器（モールド・乾式）	30～ 50kVA	台	0.27	1.4	
	75～ 100kVA	〃	0.46	2.4	
	150～ 300kVA	〃	0.63	3.3	
	500～ 750kVA	〃	0.91	5.2	
	1,000～1,500kVA	〃	1.3	6.7	
	2,000～3,000kVA	〃	1.5	8.0	

備考１ 屋内形、屋外形共通とする。

２ 地上設置を標準とし、特別な基礎、架台等を必要とする場合は別途計上する。

３ 変圧器は、１次電圧３～６kV級、２次電圧３相の場合200～400V,単相の場合100/200V～200/400Vとする。

（９） **進相コンデンサ**（高圧、３相）

作業種別	細別規格	単位	据付		摘要
			技術者	電工	
進相コンデンサ	30kvar以下	台	0.12	0.74	
	50kvar以下	〃	0.13	0.85	
	75kvar以下	〃	0.16	1.2	
	100kvar以下	〃	0.20	1.5	
	200kvar以下	〃	0.24	1.9	
	300kvar以下	〃	0.32	2.7	
	500kvar以下	〃	0.47	4.2	
直列リアクトル	12kvar以下	台	0.12	0.88	
	18kvar以下	〃	0.14	1.1	
	30kvar以下	〃	0.16	1.4	

備考１　屋内形、屋外形共通とする

２　地上 設置を標準とし、特別な基礎、架台等を必要とする場合は別途計上する。

３　進相コンデンサの歩掛は放電コイルの取付けを含むものとする。

２－２ 配電盤設備

（１） **配電盤－１**

作業種別	細別規格	単位	据付		単体調整	摘要
			技術者	電工	技術者	
金属閉鎖形スイッチギア １	補助盤	面	0.43	5.3	0.37	ＶＣＴ等収納
金属閉鎖形スイッチギア ２	遮断器、１段積 20kA以下	〃	0.70	5.6	0.76	W:800×H:2,300×D:2,500
金属閉鎖形スイッチギア ３	遮断器、２段積 20kA以下	〃	0.84	6.2	1.3	W:800×H:2,300×D:2,500
金属閉鎖形スイッチギア ４	遮断器、LA, ZPC, VCT,20kA以下	〃	0.73	5.9	0.84	受電用その他これに類するもの W:800×H:2,300×D:2,500
金属閉鎖形スイッチギア ５	高圧コンビネーション １段積み	〃	0.70	5.6	0.69	電力ヒューズ、接触器、付属品他
	高圧コンビネーション ２段積み	〃	0.84	6.2	1.1	
	高圧コンビネーション ３段積み	〃	0.98	6.5	1.5	
簡易キュービクル	低圧用	〃	0.54	4.6	0.57	
	高圧用	〃	0.73	5.9	0.63	

備考１　屋内形、屋外形共通とする。

２　既設盤と列盤にする場合は、当該盤のみ据付け歩掛を20%増とする。

３　地上又は床面積設置を標準とし、特別な基盤が必要な場合は別途計上する。

４　盤寸法（㎜)は、概略数値を示す。

５　２段積みでかつＶＣＢ等が１実装の場合、１段積み歩掛を適用する。

（２） 配電盤－２

作業種別	細 別 規 格	単位	据付		摘 要
			技術者	電 工	
ロードセンタ１	ＡＣＢ １段積み	面	0.37	5.6	W: 700×H: 2,300×D: 2,000
ロードセンタ２	ＡＣＢ ２段積み	〃	0.54	6.2	W: 700×H: 2,300×D: 2,000
ロードセンタ３	ＡＣＢ ３段積み	〃	0.71	6.5	W: 700×H: 2,300×D: 2,000
ＭＣＣＢ盤 １	ＭＣＣＢ 収納盤	〃	0.54	4.6	W: 900×H: 2,300×D: 1,500
ＭＣＣＢ盤 ２	ＭＣＣＢ 収納盤	〃	0.71	5.0	W:1,200×H: 2,300×D: 1,500
変圧器盤 １	３相 200kＶＡ以下	〃	1.4	4.6	
変圧器盤 ２	３相 500kＶＡ以下	〃	1.7	6.1	
変圧器盤 ３	３相 750kＶＡ以下	〃	2.1	6.6	
変圧器盤 ４	３相1,000kＶＡ以下	〃	2.2	7.2	
変圧器盤 ５	３相1,500kＶＡ以下	〃	2.4	8.3	
変圧器盤 ６	単相 200kＶＡ以下	〃	0.64	3.9	
変圧器盤 ７	単相 500kＶＡ以下	〃	0.82	4.3	
変圧器盤 ８	単相 750kＶＡ以下	〃	0.96	4.6	
変圧器盤 ９	単相1,000kＶＡ以下	〃	1.0	5.0	
変圧器盤 10	単相1,500kＶＡ以下	〃	1.1	5.8	
コンデンサ盤	コンデンサ・ リアクトル内蔵	〃	0.71	5.9	
分電盤	コントロールセンタ形 マグネット無し	〃	0.54	3.7	

備考１ 屋内形、屋外形共通とする。

２ 変圧器盤１～10は、モールド及び油入に適用する。

３ 既設盤と列盤にする場合は、当該盤のみ据付け歩掛を20%増とする。

４ 盤寸法（㎜）は、概略数値を示す。

（３） 配電盤－３

作業種別	細別規格	単位	据付		摘要
			技術者	電工	
コントロールセンタ	片面式	面	1.4	3.7	W: 600×H: 2,300×D: 500
	両面式	〃	2.6	4.1	W: 600×H: 2,300×D: 500
ＶＶＶＦ盤	自立形	〃	0.54	4.1	
動力制御盤 1	自立形	〃	1.3	3.8	W: 800×H: 2,300×D: 600
動力制御盤 2	自立形	〃	1.6	4.3	W: 1,000×H: 2,300×D: 600
動力制御盤 3	自立形	〃	1.9	4.6	W: 1,200×H: 2,300×D: 600
動力制御盤 4	自立形	〃	2.3	5.3	W: 1,600×H: 2,300×D: 600
現場操作盤 1	自立形	〃	1.2	3.3	W: 700×H: 1,600
現場操作盤 2	自立形	〃	1.4	3.3	W: 900×H: 1,600
現場操作盤 3	自立形	〃	1.2	3.6	W: 700×H: 1,900
現場操作盤 4	自立形	〃	1.6	3.6	W: 1,000×H: 1,900
現場操作盤 5	壁掛・スタンド形	〃	0.71	1.8	W: 400×H: 500
現場操作盤 6	壁掛・スタンド形	〃	0.88	1.9	W: 500×H: 600
現場操作盤 7	壁掛・スタンド形	〃	1.0	2.0	W: 600×H: 800
現場操作盤 8	壁掛・スタンド形	〃	1.2	2.1	W: 800×H: 900

備考１ 屋内形、屋外形共通とする。
２ 既設盤と列盤にする場合は、当該盤のみ据付け歩掛を20%増とする。
３ 盤寸法（㎜)は、概略数値を示す。

２－３ 監視制御設備

（１） 監視制御装置

作業種別	細別規格	単位	据付		摘要
			技術者	電工	
監視盤 1		面	0.71	4.6	W: 1,500×H: 2,300×D: 1,500
監視盤 2		〃	0.88	5.0	W: 2,000×H: 2,300×D: 1,500
監視盤 3		〃	0.54	3.6	W: 1,000×H: 2,300×D: 500
監視盤 4		〃	0.71	4.2	W: 1,500×H: 2,300×D: 500
操作盤 1	机形	〃	0.54	2.5	W: 1,000
操作盤 2	机形	〃	0.71	2.8	W: 1,500
操作盤 3	机形	〃	0.88	3.1	W: 2,000
遠方監視制御盤	自立形	〃	2.3	3.3	
シーケンスコントローラ盤		〃	2.3	3.3	W: 600×H: 2,300×D: 500
マルチコントローラ盤		〃	2.3	3.3	W: 600×H: 2,300×D: 500
補助継電器盤 1		〃	2.3	3.3	W: 600×H: 2,300×D: 500
補助継電器盤 2		〃	2.9	3.6	W: 1,000×H: 2,300×D: 500
中継端子盤 1		〃	3.8	2.3	W: 600×H: 2,300×D: 500
中継端子盤 2		〃	5.6	2.5	W: 1,000×H: 2,300×D: 1,000
計装盤 1		〃	1.3	3.6	W: 800×H: 2,300×D: 1,000
計装盤 2		〃	1.3	4.2	W: 800×H: 2,300×D: 2,000
計装盤 3		〃	1.5	3.8	W: 1,000×H: 2,300×D: 1,000
計装盤 4		〃	1.9	5.0	W: 1,800×H: 2,300×D: 2,000

備考 １ 既設盤と列盤にする場合は、当該盤のみ据付け歩掛を20%増とする。
２ 監視盤のうち壁面構造の場合は、監視盤３，４と同様とし、ベンチ形監視作盤は、監視盤１，２と同様とする。
３ ミニグラフィック形監視操作卓は、寸法に従って操作盤１～３を適用する。
４ 盤寸法（mm)は、概略数値を示す。

（２） ＩＴＶ装置

作業種別	細別規格	単位	据付		摘要
			技術者	電工	
カメラ	アナログ伝送	台	0.90	1.09	照明、雲台、中継箱含む
	ネットワーク伝送		0.91	1.77	
カメラ監視制御装置	アナログ伝送	式	1.77	2.89	制御盤、映像データ変換装置、映像データ伝送装置、信号変換装置、画像切替器、増幅器、操作制御装置等を含む
	ネットワーク伝送		1.33	2.09	
映像モニタ		台	0.64	1.28	モニタ(PC含む)、操作部含む

備考 １ カメラは、屋内形、屋外形共通とする。
２ カメラは、ズームレンズ、カメラケース等を含むものとする。

（３） 情報処理設備

作業種別	細別規格	単位	据付		摘要
			技術者	電工	
中央処理装置		面	2.3	3.3	コントローラ盤等
入出力装置		〃	2.3	3.3	インターフェース盤等
ＣＲＴディスプレイ		台	0.20	2.2	操作卓を含む
プリンタ装置		〃	0.10	0.50	卓を含む
ハードコピー		〃	0.10	0.50	卓を含む
ワークステーション		〃	0.10	0.50	卓を含む

（４） 気象観測装置

作業種別	細別規格	単位	据付		摘要
			技術者	電工	
温度・湿度計		台	0.15	0.11	検出端
雨量計		〃	0.15	0.11	検出端
気圧計		〃	0.15	0.11	検出端
風向風速計		〃	0.18	0.75	検出端
百葉箱		箱	0.10	0.94	

（５） 非常通報装置

作業種別	細別規格	単位	据付		摘要
			技術者	電工	
非常通報装置		台	0.14	0.40	壁取付

２－４ 特殊電源設備

（１） 発電設備

作業種別	細別規格	単位	据付		単体調整	摘要
			技術者	電工	技術者	
発動機盤		面	0.73	5.9	0.84	遮断器収納
自動始動盤		〃	1.8	5.9	0.84	遮断器収納
自動始動盤		〃	1.8	5.3	－	同期盤も同様とする
発電装置		組	$4.54X^{0.590}$	$7.17X^{0.594}$	－	発電機＋原動機
補機類		台	$8.31X^{0.398}$	$13.4X^{0.342}$	－	コンプレッサ、ポンプ機
各種タンク類		〃	$3.09X^{0.480}$	$4.59X^{0.487}$	－	空気・燃料タンク、消音器、冷却器（別置形）、クーリングタワー等

備考 １ Ｘは、各機械の質量（ｔ）とする。
２ その他の盤類は、配電盤設備、監視制御設備に準処する。

（２） 搭載形発電装置

作業種別	細別規格	単位	据付		摘要
			技術者	電工	
オープン形	37.5kVA	台	5.9	9.1	
	50kVA	〃	5.9	9.1	
	62.5VA	〃	6.2	9.5	
	75kVA	〃	6.2	9.5	
	100kVA	〃	7.2	11	
	125kVA	〃	7.2	11	
	150kVA	〃	8.6	13	
	175kVA	〃	8.6	13	
	200kVA	〃	8.6	13	
	250kVA	〃	9.3	14	
	300kVA	〃	10	15	
	375kVA	〃	11	17	
キュービクル形	37.5kVA	台	5.9	10	
	50kVA	〃	5.9	10	
	62.5kVA	〃	6.2	11	
	75kVA	〃	6.2	11	
	100kVA	〃	7.2	12	
	125kVA	〃	7.2	12	
	150kVA	〃	8.6	14	
	175kVA	〃	8.6	14	
	200kVA	〃	8.6	14	
	250kVA	〃	9.3	15	
	300kVA	〃	10	16	
	375kVA	〃	11	18	

備考　搭載形発電装置には、原動機、発電機、共通架台．自動始動盤、始動装置（バッテリー）等を含むものとする。

（３） 直流電源・無停電電源装置

作業種別	細別規格	単位	据付		単体調整	摘要
			技術者	電工	技術者	
アルカリ蓄電池（80～90セル）	100Ah 以下	組	1.1	6.3	1.4	
	300Ah 以下	〃	1.2	7.6	1.4	
	500Ah 以下	〃	1.3	8.7	1.4	
鉛蓄電池		〃	0.97	2.5	0.65	ＭＳＥ形
整流器盤		面	0.84	1.5	－	１φ、3φ共
ＵＰＳ装置		組	1.7	7.2	1.1	整流部、インバータ部、蓄電池(ＭＳＥ)部、切替部等を含む
汎用ミニＵＰＳ		台	－	0.74	－	

備考　蓄電池は、盤組み込み形を標準とする。

２－５ 計装設備

（１） 電磁流量計

作業種別	細別規格	単位	据付		摘要
			技術者	電工	
電磁流量計	50φ	台	0.77	0.19	一般形、潜水形
	100φ	〃	0.77	0.33	
	200φ	〃	0.77	0.95	
	400φ	〃	0.77	2.0	
	600φ	〃	0.77	5.8	
	700φ	〃	0.77	6.3	一般形
	800φ	〃	0.77	7.7	
	900φ	〃	0.77	9.1	
	1,000φ	〃	0.77	11	
	1,100φ	〃	0.77	13	
	1,200φ	〃	0.77	15	
	1,350φ	〃	0.77	17	
	1,600φ	〃	0.77	23	
	1,800φ	〃	0.77	29	
	2,000φ	〃	0.77	33	

備考１　濃度計にも適用する。

２　変換器、せき板の取付は別途とする。

（２） パーシャルフリューム

作業種別	細別規格	単位	据付		摘要
			技術者	電工	
パーシャルフリューム	幅３Ｂ	組	2.8	0.74	
	幅６Ｂ	〃	2.8	0.74	
	幅９Ｂ	〃	2.8	0.74	
	幅12Ｂ	〃	3.0	1.0	
	幅18Ｂ	〃	5.9	1.5	
	幅24Ｂ	〃	6.2	1.6	
	幅36Ｂ	〃	6.5	1.7	
	幅48Ｂ	〃	6.5	1.7	
	幅60Ｂ	〃	8.3	2.2	
	幅72Ｂ	〃	9.1	2.4	
	幅84Ｂ	〃	10	2.8	
	幅96Ｂ	〃	12	3.3	

備考　基礎、架台等は別途計上する。

（３） 検出端等

作業種別	細別規格	単位	据付		単体調整	摘要
			技術者	電工	技術者	
温度検出端		台	0.50	1.1	－	
液位検出端		〃	0.60	1.1		
変換器類		〃	0.38	1.2	0.56	
発信器類		〃	0.41	1.3	1.3	
加熱消泡式濃度計盤		〃	1.0	3.3	1.3	発信器は除く
パージセット	エアパージ水位計用	〃	0.47	3.8	1.3	

備考１　温度検出端は、抵抗式、熱電対、膨張式等をいう。
　　２　液位検出端は、フリクトレベルスイッチ、電極式水位計等をいう。
　　３　発信器類は、圧力・差圧発信器、フロート式水位計発信器、ＰＨ発信器等水質センター類等をいう。

３．配管・配線工

３－１　電線路布設工

（１）電線管

作業種別	細別規格	単位	電工	摘要
厚鋼	16	10m	0.60	
	22	〃	0.80	
	28	〃	1.0	
	36	〃	1.2	
	42	〃	1.7	
	54	〃	2.2	
	70	〃	2.6	
	82	〃	3.2	
	92	〃	3.6	
	104	〃	4.0	
薄鋼	19	10m	0.52	
	25	〃	0.70	
	31	〃	0.89	
	39	〃	1.0	
	51	〃	1.4	
	63	〃	1.9	
	75	〃	2.3	

備考１　埋め込み配管を標準とし、露出配管は20%増とする。
　　２　ねじなし電線管を使用する場合は、電線管（薄鋼）の20%減とする。
　　３　電線管１本の長さは3.66ｍとする。

（２）硬質ビニル電線管

作業種別	細別規格	単位	電工	摘要
硬質ビニル電線管	16	10m	0.44	
	22	〃	0.54	
	28	〃	0.64	
	36	〃	0.86	
	42	〃	1.0	
	54	〃	1.3	
	70	〃	1.6	
	82	〃	1.9	

備考　１　埋め込み配管を標準とし、露出配管は20％増とする。
　　２　硬質ビニル電線管１本の長さは４ｍとする。

（３）金属製可とう電線管

作業種別	細別規格	単位	電工	摘要
金属製可とう電線管	17	10m	0.26	
	24	〃	0.35	
	30	〃	0.44	
	38	〃	0.54	
	50	〃	0.73	
	63	〃	0.99	
	76	〃	1.1	

（４）ワイヤリングダクト（ケーブルダクト）

鋼製（cm）　　電工（人/m）

寸法	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110
10	0.52									
20	0.56									
30	0.60	0.64								
40	0.64	0.68	0.72							
50	0.68	0.72	0.76	0.80						
60	0.72	0.76	0.80	0.84	0.88					
70	0.76	0.80	0.84	0.88	0.92	0.96				
80	0.80	0.84	0.88	0.92	0.96	1.00	1.04			
90	0.84	0.88	0.92	0.96	1.00	1.04	1.08	1.12		
100	0.88	0.92	0.96	1.00	1.04	1.08	1.12	1.16	1.20	
110	0.92	0.96	1.00	1.04	1.08	1.12	1.16	1.20	1.24	1.28

アルミ製（cm）　　電工（人/m）

寸法	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110
10	0.36									
20	0.39									
30	0.42	0.44								
40	0.44	0.47	0.50							
50	0.47	0.50	0.53	0.56						
60	0.50	0.53	0.56	0.58	0.61					
70	0.53	0.56	0.58	0.61	0.64	0.67				
80	0.56	0.58	0.61	0.64	0.67	0.70	0.72			
90	0.58	0.61	0.64	0.67	0.70	0.72	0.75	0.78		
100	0.61	0.64	0.67	0.70	0.72	0.75	0.78	0.81	0.84	
110	0.64	0.67	0.70	0.72	0.75	0.78	0.81	0.84	0.86	0.89

備考　表以外の寸法は、縦（Hcm）、横（Wcm）として

鋼　　製：（100＋H＋W）　×0.004（人/m）

アルミ製：（100＋H＋W）　×0.004×0.7（人/m）

（５）バスダスト（３組）

作業種別	細別規格	単位	電工	摘要
バスダスト	200A	m	0.40	
	400A	〃	0.50	
	600A	〃	0.60	
	800A	〃	0.70	
	1,000A	〃	0.85	
	1,200A	〃	1.0	
	1,500A	〃	1.2	
	2,000A	〃	1.5	

備考１　水平部分取付けを標準とし、壁面部分取付けは10%減とする。
２　銅導体鉄ダクト３フィーダを標準とする。
３　４フィーダの場合は20%増、アルミダクトの場合は30%減とする。
４　エルボ、ティー、クロス等の歩掛はダクト３m相当とする。
５　相分離母線等については、別途積算とする。ただし、可能なものについては上記歩掛及び母線の種類、電圧等を勘案して決定してもよい。
６　取付け金具、付属品の取付け及び調整を含むものとする。

（６）ケーブルラック

作業種別	細別規格	単位	電工		摘要
			鋼製１段積み	アルミ製１段積み	
ケーブルラック	200mm巾	m	0.30	0.21	
	300mm巾	〃	0.40	0.28	
	400mm巾	〃	0.50	0.35	
	500mm巾	〃	0.55	0.38	
	600mm巾	〃	0.60	0.42	
	700mm巾	〃	0.65	0.45	
	800mm巾	〃	0.70	0.49	
	900mm巾	〃	0.80	0.56	
	1,000mm巾	〃	0.90	0.63	

備考１　付属品の取付けも含むものとする。
２　多段積みの場合、最下段（最大巾）については本表を適用し、それ以外のものについては本表の75%を加算する。

（７）プルボックス

作業種別	細別規格	単位	電工	摘要
プルボックス	150mm×　150mm×100mm	個	0.20	
	200mm×　200mm×100mm	〃	0.25	
	250mm×　250mm×100mm	〃	0.30	
	300mm×　300mm×200mm	〃	0.40	
	350mm×　350mm×200mm	〃	0.45	
	400mm×　400mm×200mm	〃	0.50	
	450mm×　450mm×200mm	〃	0.55	
	500mm×　500mm×300mm	〃	0.65	
	550mm×　550mm×300mm	〃	0.70	
	600mm×　600mm×300mm	〃	0.75	
	650mm×　650mm×300mm	〃	0.80	
	700mm×　700mm×300mm	〃	0.85	
	750mm×　750mm×400mm	〃	0.95	
	800mm×　800mm×400mm	〃	1.0	
	850mm×　850mm×400mm	〃	1.0	
	900mm×　900mm×400mm	〃	1.1	
	950mm×　950mm×400mm	〃	1.1	
	1,000mm×1,000mm×500mm	〃	1.2	
	1,100mm×1,100mm×500mm	〃	1.3	
	1,200mm×1,200mm×500mm	〃	1.4	

備考　本表以外の寸法のプルボックスについては、
（巾cm＋高さcm＋奥行きcm）×0.005を１個当たりの歩掛（電工）とする。

（８）コンクリート製ケーブルトラフ

作業種別	細別規格	単位	電工	摘要
トラフ	巾 70mm	100m	8.7	砂の充填を含む
	巾 120mm	〃	12	
	巾 150mm	〃	15	
	巾 200mm	〃	18	
	巾 250mm	〃	20	
	巾 300mm	〃	22	
	巾 400mm	〃	24	
ケーブル埋設シート		100m	0.40	
地中埋設標	コンクリート製	個	0.20	
	鉄製	〃	0.02	

備考１　直線、曲線、分岐、勾配等異径の区別はしない。
　　２　異径はサイズの大きい方を適用する。
　　３　掘削、埋め戻しは、別途とする。

（９）波付硬質合成樹脂管

作業種別	細別規格	単位	電工	摘要
波付硬質合成樹脂管	30mm	100m	2.6	
	40mm	〃	3.1	
	50mm	〃	3.5	
	65mm	〃	4.0	
	80mm	〃	4.5	
	100mm	〃	6.0	
	125mm	〃	6.6	
	150mm	〃	7.2	
	200mm	〃	10	

備考１　掘削、埋め戻しは、別途とする。
　　２　管の布設、接続を含む。

（10）遠心力鉄筋コンクリート管

作業種別	細別規格	単位	配管工	普通作業員	摘要
ヒューム管	150φ	100m	4.5	6.0	
	200φ	〃	5.5	7.0	
	250φ	〃	6.5	8.0	
	300φ	〃	8.5	12	
	350φ	〃	8.5	14	

備考１　管の吊下し、据付け、接合、モルタル練りあわせ及び突込みを含む。
　　２　掘削、埋め戻しは、別途とする。
　　３　ソケット管及びいんろう管については上記歩掛の配管工は35%減、普通作業員は20%減とする。
　　４　小規模の場合を対象とする。
　　５　遠心力鉄筋コンクリート管の１本の長さは２ｍとする。

（11）掘削、埋戻し

土木工事積算基準による。

３－２ 配線工

（１） ビニル絶縁電線（ＩＶ）

作業種別	細別規格	単位	電工	摘要
ビニル絶縁電線（ＩＶ）	1.2mm	100m	1.0	
	1.6mm	〃	1.0	
	2.0mm	〃	1.1	
	2.0mm2	100m	1.0	
	3.5mm2	〃	1.1	
	5.5mm2	〃	1.4	
	8.0mm2	〃	1.6	
	14mm2	〃	2.0	
	22mm2	〃	2.4	
	30mm2	〃	2.9	
	38mm2	〃	3.2	
	50mm2	〃	3.7	
	60mm2	〃	4.2	
	80mm2	〃	4.9	
	100mm2	〃	5.6	
	125mm2	〃	6.3	
	150mm2	〃	7.3	
	200mm2	〃	8.3	
	250mm2	〃	9.8	
	325mm2	〃	11	

備考１　耐熱ビニル絶縁電線（ＨＩＶ）等その他電線類も適用する。

２　天井取付けの金属ダクト内に入れる場合も本歩掛を適用する。

３　管内引入を標準とし、ピット、トラフ、ダクト内布設は20%減、波付硬質合成樹脂管内配線は10%減、ケーブルラックの場合は20%増とする。

（２） 600Ｖ架橋ポリエチレンケーブル（ＣＶ，ＣＶＴ）

作業種別	細別規格	単位	電工			摘要
			単心	２心	３心	
電力ケーブル	2.0mm(3.5mm2) 以下	100m	1.2	1.7	2.1	
	2.6mm(5.5mm2) 以下	〃	1.6	2.1	2.6	
	8mm2	100m	1.7	2.3	2.9	
	14mm2	〃	2.2	2.9	3.7	
	22mm2	〃	2.9	3.7	4.7	
	38mm2	〃	3.7	5.0	6.2	
	60mm2	〃	4.9	6.5	8.2	
	100mm2	〃	6.7	9.0	11	
	150mm2	〃	8.3	11	13	
	200mm2	〃	10	13	17	
	250mm2	〃	11	15	19	
	325mm2	〃	14	19	24	
	400mm2	〃	15	－	－	
	500mm2	〃	18	－	－	
	600mm2	〃	20	－	－	
	800mm2	〃	25	－	－	
	1,000mm2	〃	28	－	－	

備考１　管内引入を標準とし、ピット、トラフ、ダクト内布設は20%減、波付硬質合成樹脂管内配線は10%減、ケーブルラックの場合は20%増とする。
２　鉛被覆ケーブルの場合は20%増、銅帯がい装ケーブルの場合は50%増とする。
３　ＣＶケーブルの他、ＣＥ，ＥＥ，ＶＶ－Ｒ，ＶＶ－Ｆケーブルの場合にも適用する。

（３） 3,300Ｖ，6,600Ｖ架橋ポリエチレンケーブル（ＣＶ，ＣＶＴ）

作業種別	細別規格	単位	電工		摘要
			単心	３心	
電力ケーブル	8mm2	100m	1.9	3.2	
	14mm2	〃	2.4	4.0	
	22mm2	〃	3.1	5.2	
	38mm2	〃	4.1	6.8	
	60mm2	〃	5.4	9.0	
	100mm2	〃	7.4	12	
	150mm2	〃	9.1	15	
	200mm2	〃	11	18	
	250mm2	〃	12	21	
	325mm2	〃	16	27	
	400mm2	〃	17	－	
	500mm2	〃	20	－	
	600mm2	〃	25	－	
	800mm2	〃	30	－	
	1,000mm2	〃	36	－	

備考１　管内引入を標準とし、ピット、トラフ、ダクト内布設は20%減、波付硬質合成樹脂管内配線は10%減、ケーブルラックの場合は20%増とする。
２　鉛被覆ケーブルの場合は20%増、銅帯がい装ケーブルの場合は50%増とする。
３　ＣＶケーブルの他、ＣＥ，ＥＥ，その他ケーブルの場合にも適用する。
４　端末処理は、別途計上する。

（４） 制御用ケーブル（ＣＶＶ，ＣＶＶ－Ｓ）

作業種別	細別規格	単位	電工					適用
			1.25mm2	2mm2	3.5mm2	5.5mm2	8mm2	
制御ケーブル	2C	100m	1.5	1.7	1.8	2.1	2.6	
	3C	〃	1.7	1.9	2.1	2.4	3.0	
	4C	〃	1.9	2.2	2.3	2.8	3.4	
	5～6C	〃	2.5	2.8	3.0	3.7	4.4	
	7～8C	〃	3.0	3.4	3.7	4.4	5.4	
	10C	〃	3.7	4.2	4.5	5.4	6.6	
	12C	〃	4.3	4.8	5.3	6.3	7.7	
	15C	〃	5.4	6.0	6.6	7.8	－	
	20C	〃	6.3	7.0	7.7	9.1	－	
	30C	〃	7.5	8.3	9.1	－	－	

備考　管内引入を標準とし、ピット、トラフ、ダクト内布設は20%減、波付硬質合成樹脂管内配線は10%減、ケーブルラックの場合は20%増とする。

（５） 600Ｖ電力ケーブル端末処理（３心）

作業種別	細別規格	単位	電工	摘要
端末処理	14mm2	個所	0.38	
	22mm2	〃	0.50	
	38mm2	〃	0.55	
	60mm2	〃	0.67	
	100mm2	〃	0.78	
	150mm2	〃	0.97	
	200mm2	〃	1.1	
	250mm2	〃	1.2	
	325mm2	〃	1.3	

備考１　３心を標準とし、２心は20%減、単心は40%減とする。
２　ケーブル接続、端末整線を含む。
３　圧着端子、行き先表示札、ケーブル番号取り付け等を含む。
４　上記端末処理、ケーブル布設とともに行う場合計上しない。

（６） 3,300Ｖ，6,600Ｖ電力ケーブル端末処理

作業種別	細別規格	単位	電工			摘要
			１心	２心	３心	
端末処理	14mm2	個所	0.27	0.36	0.46	
	22mm2	〃	0.36	0.48	0.60	
	38mm2	〃	0.41	0.55	0.69	
	60mm2	〃	0.60	0.80	1.0	
	100mm2	〃	0.78	1.0	1.3	
	150mm2	〃	1.0	1.3	1.7	
	200mm2	〃	1.2	1.6	2.0	
	250mm2	〃	1.2	1.6	2.1	
	325mm2	〃	1.4	1.9	2.4	

備考　１　ケーブル接続、端末整線を含む。
　　２　圧着端子、行き先表示札、ケーブル番号取り付け等を含む。

（７） 3,300Ｖ，6,600Ｖ電力ケーブル端末（プレハブ）

作業種別	細別規格	単位	電工			摘要
			１心	２心	3心耐塩	
端末処理	14mm2	個所	0.11	0.19	0.20	
	38mm2	〃	0.21	0.35	0.41	
	60mm2	〃	0.31	0.52	0.62	
	100mm2	〃	0.39	0.65	0.78	
	150mm2	〃	0.52	0.87	1.0	
	200mm2	〃	0.60	1.0	1.2	

備考　１　ケーブル接続、端末整線を含む。
　　２　圧着端子、行き先表示札、ケーブル番号取り付け等を含む。

（８）制御ケーブル端末処理

作業種別	細別規格	単位	電工	摘要
端末処理	2mm2　２Ｃ	個所	0.11	
	2mm2　４Ｃ	〃	0.17	
	2mm2　６Ｃ	〃	0.23	
	2mm2　８Ｃ	〃	0.29	
	2mm2　12Ｃ	〃	0.40	
	2mm2　19Ｃ	〃	0.55	
	2mm2　30Ｃ	〃	0.90	

備考　１　3.5mm2の場合は10％増、5.5mm2は20％増、8.0mm2は30％増とする。
　　２　ケーブル接続、端末整線を含む。
　　３　圧着端子、行き先表示札、ケーブル番号取り付け等を含む。
　　４　上記端末処理、ケーブル布設とともに行う場合計上しない。

（９）600Ｖ電力ケーブル直線接続（３心）

作業種別	細別規格	単位	電工	摘要
直線接続	5.5mm2以下	個所	0.22	
	8mm2以下	〃	0.24	
	14mm2以下	〃	0.27	
	22mm2以下	〃	0.31	
	38mm2以下	〃	0.37	
	60mm2以下	〃	0.43	
	100mm2以下	〃	0.50	
	150mm2以下	〃	0.58	
	200mm2以下	〃	0.65	
	250mm2以下	〃	0.71	
	325mm2以下	〃	0.79	

備考　３心を標準とし、２心は20%減、単心は40%減とする。

(10)　3,300Ｖ，6,600Ｖ電力ケーブル直線接続（３心）

作業種別	細別規格	単位	電工	摘要
3,300Ｖ用	14mm2	個所	0.45	
	22mm2	〃	0.53	
	38mm2	〃	0.68	
	60mm2	〃	0.87	
	100mm2	〃	1.1	
	150mm2	〃	1.3	
	200mm2	〃	1.5	
	250mm2	〃	1.7	
	325mm2	〃	1.9	
6,600Ｖ用	14mm2	個所	0.51	
	22mm2	〃	0.60	
	38mm2	〃	0.78	
	60mm2	〃	0.99	
	100mm2	〃	1.2	
	150mm2	〃	1.4	
	200mm2	〃	1.6	
	250mm2	〃	1.8	
	325mm2	〃	2.0	

備考　３心を標準とし、２心は20%減、単心は40%減とする。

（11）制御ケーブル直接接続

作業種別	細別規格	単位	電工	摘要
直接接続	2mm2　２Ｃ	個所	0.085	
	2mm2　４Ｃ	〃	0.12	
	2mm2　６Ｃ	〃	0.17	
	2mm2　８Ｃ	〃	0.21	
	2mm2　12Ｃ	〃	0.29	
	2mm2　19Ｃ	〃	0.41	
	2mm2　30Ｃ	〃	0.65	

備考　3.5mm2の場合は10％増、5.5mm2は20％増、8.0mm2は30％増とする。

３－３ 接地工

（１）　接地工

作業種別	細別規格	単位	電工	摘要
銅板式	接地銅板 900m×900m×1.5t	枚	1.5	
	接地銅板 500m×500m×1.5t	〃	0.82	
	接地銅板 500m×250m×1.5t	〃	0.60	
打込式	銅覆鋼棒 ３連結打込	式	0.38	
	銅覆鋼棒 ２連結打込	〃	0.28	
	銅覆鋼棒 単独結打込	〃	0.18	
接地埋設標	黄銅製	枚	0.51	測定を含む 測定　：0.40 埋設標：0.11
接地用端子箱	１，２個端子用	個	0.25	
	３，４個端子用	〃	0.44	
	５，６個端子用	〃	0.60	

備考　１　補助接地棒及び至近距離に設けられた接地端子箱まで配線歩掛は各接地歩掛に含む。
　　２　掘削、埋め戻しは、別途計上する。

３－４ 配電盤器具取付工

（１） 配電盤器具

作業種別	細別規格	単位	技術者	摘要
指示電気計器		個	0.22	
保護継電器	電力用	〃	0.29	
計器用変流器	低圧	〃	0.20	
	高圧	〃	0.30	
計器用変圧器	低圧	〃	0.31	
	高圧	〃	0.46	
電磁開閉器	7.5kW 以下	〃	0.27	
	11kW 以上	〃	0.46	
配線用遮断器	225ＡＦ 以下	〃	0.44	
	400ＡＦ 以上	〃	0.63	
表示灯	１灯用	〃	0.15	
	２灯用	〃	0.22	
補助継電器		〃	0.29	
静止形モーターリレー		〃	0.22	
運転時間計		〃	0.23	
操作スイッチ	捻回	〃	0.24	
	押ボタン	〃	0.19	
盤面塗装		m2	0.26	マスキング作業を含む
盤名板		個	0.12	
記録計	小型	〃	0.71	
調節計		〃	0.71	
端子台	10Ｐ程度	〃	0.14	
盤加工	穴あけ仕上げ	m	0.71	開口部外周１ｍ当たり
盤裏面配線		〃	0.06	端末処理、配線チェック等

備考 １ 取付工は、パネル加工＋器具取付けとする。。
２ パネル加工は、仕上げを含む。
３ 本歩掛は現地作業での小規模改造作業に適用する。

４．組合せ試験工

４－１　適用条件

１．金属閉鎖形スイッチギアの歩掛は、受変電設備、監視制御装置、情報処理設備等との組合せとする。

２．高圧コンビネーションスタータ、コントロールセンタ及び動力制御盤の歩掛は、運転操作設備、監視制御置、情報処理設備、負荷側等との組合せとする。

３．発信器類の歩掛かりは、計装設備、監視制御装置、情報処理設備等ループとの組合せとする。

４．特高設備の歩掛は、特別高圧変電所内の機器・盤、監視制御装置、情報処理設備等との組合せとする。

５．発電設備の歩掛は、始動装置、補機類、高低圧配電盤、監視制御装置、情報処理設備等との組合せ及び負荷試験等を含む。

４－２　組合せ試験工

（１）電気設備

作業種別	細別規格	単位	技術者	電工	摘要
受変電設備	金属閉鎖形スイッチギア（引込盤）	面	1.3	－	
	金属閉鎖形スイッチギア（遮断器　１段）	〃	1.7	－	
	金属閉鎖形スイッチギア（遮断器　２段）	〃	2.2	－	
運転操作設備	高圧コンビネーションスタータ	負荷	0.81	－	１負荷当たり
	コントロールセンタ	〃	0.81	－	
	動力制御盤	〃	0.81	－	
計装設備	発信器類（制御あり）	ループ	0.60	－	１ループ当たり
	発信器類（制御なし）	〃	0.32	－	
ＩＴＶ装置		台	1.6	－	カメラ１台当たり
絶縁耐力試験	高圧	式	3.5	1.6	高圧電気室当たり

備考　ＩＴＶ装置は、カメラ１台と映像モニタ、ＩＴＶ監視制御装置間の歩掛とする。

（２）特高設備

作業種別	細別規格	単位	技術者	電工	摘要
受変電設備	特高設備（遮断器　20kＡ以下）	台	3.9	－	
	特高設備（遮断器　31.5kＡ以下）	〃	3.9	－	
	特高設備（遮断器）	〃	1.9	－	
絶縁耐力試験	特　高	式	3.8	2.4	

（３）発電設備

作業種別	細別規格	単位	技術者	摘要
発電装置 (ディーゼル、ガスタービン)	200kＶＡ	式	14	
	300kＶＡ	〃	15	
	500kＶＡ	〃	18	
	625kＶＡ	〃	19	
	750kＶＡ	〃	20	
	1,000kＶＡ	〃	21	
	1,250kＶＡ	〃	23	
	1,500kＶＡ	〃	24	
	2,000kＶＡ	〃	26	
	3,000kＶＡ	〃	27	
	5,000kＶＡ	〃	31	
搭載形発電装置	37.5kＶＡ	式	6.5	
	75kＶＡ	〃	7.2	
	100kＶＡ	〃	8.5	
	150kＶＡ	〃	9.4	
	200kＶＡ	〃	10	
	375kＶＡ	〃	11	

ポンプ場・処理場施設

（建築・建築設備）編

ポンプ場・処理場施設（建築・建築設備）編

目次

Ⅰ　設計標準歩掛表

1．　一般事項

1　本設計標準歩掛は「下水道用建築・建築設備請負工事積算基準」に基づく工事設計書の作成に使用する歩掛として定めたものである。

2　本設計標準歩掛は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書」（建築工事編、機械設備工事編、電気設備工事編）による施工を基準として定めている。従って、他の仕様書により施工する場合においては、仕様の相違によっては適宜補正するものとする。

3　本設計標準歩掛は、主として設計・規模等一般的なポンプ場・処理場の建物を対象としているので、適用に当っては、現地の状況、建物の種類、構造、程度、規模及び、当該項目の内容、仕様、工法、数量等を考慮の上必要な補正を行うことができるものとする。

4　本設計標準歩掛は、直接工事費を積算するために必要な単位工事量当たりの材料、労務、機械器具等の標準手的な所要量を数値として示すものである。

5　本設計標準歩掛に記載のない場合は、「公共建築工事積算基準」、「国土交通省建築工事積算基準の解説」（建築工事編及び設備工事編）による。

なお、これによりがたい場合は、刊行物の資料等を参考として定める。

［Ｉ］ 建　築　工　事

１．　直接仮設

（１）　災害防止養生

イ　落下防止蓋

表Ｉ－１　落下防止蓋歩掛　（円／m2）

名　称	形　状	単位	数量	備　考
足場板	4.0×0.028×0.24	枚	1.09	単価＝供用１日当たり損料×存置日数
とび工		人	0.025	
普通作業員		人	0.005	
その他		式	1	

（注）　備考欄の日数は、**表Ｉ－２**　による。

表Ｉ－２　足場板存置日数

段数	階　　高	標準存置日数		
		躯体＋仕上（日）	躯体のみ（日）	仕上のみ（日）
１段	5.0m以上 5.7m未満	60	45	25
２段	5.7m以上 7.4m未満	78	60	28
３段	7.4m以上 9.1m未満	95	75	30
４段	9.1m以上10.8m未満	113	93	33
５段	10.8m以上12.5m未満	130	110	35
６段	12.5m以上14.2m未満	148	125	38
７段	14.2m以上15.9m未満	165	142	40

（注）　存置日数は形枠支保工と同じである。
※　天井仕上材が表面処理材（吹付・塗装）の場合は、仕上（日）を適用する。

２．　型　枠

（１）　型枠の階高さによる補正を行う。

イ　階高さが４ｍを超える場合は、補正が出来る。

ロ　階高さがそれぞれ異なる場合は、原則として平均階高（塔屋を除く）とする。ただし一層の高さが二層程度以上ある建物は、コンクリートの打設による平均高さとする。

ハ　補正額

細　目	単位	摘　　要	額	備　考
型枠補正	m2	階高4.0m超え 5m未満	（市場単価4.5mの価格）－（市場単価3.5mの価格） ＝価格差	
型枠補正	m2	階高5.0m以上	（市場単価5.5m）の価格）－（市場単価3.5mの価格） ＝価格差	

［Ⅱ］ 建築機械設備

1． ダクト及び同付属品

（1） ステンレス鋼板製ダクト（ＳＵＳ・Ａ）

［低圧ダクト］ （出来上り１m2 当り）

名　　称	規格寸法等	単 位	鋼板厚（㎜）			
			0.5	0.6	0.8	1.0
			750以下	751～1,500	1,501～2,200	2,201以上
ステンレス鋼板	1,000×2,000㎜	m2	1.28	1.28	1.28	1.28
ステンレス形鋼	25×25×3㎜	kg	2.0	—	—	—
	30×30×3〃	〃	—	3.0	—	—
	40×40×3〃	〃	—	—	4.0	—
	40×40×5〃	〃	—	—	—	6.4
ボルトナット（ＳＵＳ）	M8×20～25 *l*	組	13.3	13.3	13.3	13.3
フランジ用ガスケット	25㎜幅×3㎜厚	m	1.3	—	—	—
	30〃 ×3〃	〃	—	1.3	—	—
	40〃 ×3〃	〃	—	—	1.3	1.3
ステンレス製棒鋼・形鋼	M10, 25×25×3	kg	0.3	—	—	—
	M10, 30×30×3	〃	—	0.86	—	—
	M10, 40×40×3	〃	—	—	1.13	—
	M10, 40×40×5	〃	—	—	—	1.4
消　耗　品	一式（材料費×0.05）					
ステンレス鋼板・鋼材加工取付	ダクト工	人	0.56	0.59	0.63	0.78
運　搬　費	一式（材料費＋消耗品）×0.10					
そ　の　他	一　式					

備考１ ダクトのかどの縦目は、ピッツバーグはぜ・ボタンパンチスナップはぜ又は溶接とする。
２ ＳＵＳ・Ａダクト：ダクト仕様は、形鋼・つり金物・ボルトナット等がステンレス製のもの。

（2） ステンレス鋼板製ダクト（ＳＵＳ・Ａ）

［高圧ダクト］ （出来上り１m2 当り）

名　　称	規格寸法等	単位	鋼板厚（㎜）					
			0.8	1.0	1.0	1.2	1.2	1.2
			450以下	451～750	751～1,200	1,201～1,500	1,501～2,200	2,201以上
ステンレス鋼板	1,000×2,000㎜	m2	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28
ステンレス形鋼	25×25×3㎜	kg	2.0	2.0	—	—	—	—
	30×30×3〃	〃	—	—	3.0	3.0	—	—
	40×40×3〃	〃	—	—	—	—	4.0	—
	40×40×5〃	〃	—	—	—	—	—	6.4
ボルトナット（SUS）	M8×20～25L	組	13.3	13.3	13.3	13.3	13.3	13.3
フランジ用ガスケット	25㎜幅×3㎜厚	m	1.3	1.3	—	—	—	—
	30〃 ×3〃	〃	—	—	1.3	1.3	—	—
	40〃 ×3〃	〃	—	—	—	—	1.3	1.3
ステンレス製棒鋼・形鋼	M10, 25×25×3	kg	0.3	0.3	—	—	—	—
	M10, 30×30×3	〃	—	—	0.86	0.86	—	—
	M10, 40×40×3	〃	—	—	—	—	1.13	—
	M10, 40×40×5	〃	—	—	—	—	—	1.4
消　耗　品	一式（材料費×0.05）							
ステンレス鋼板・鋼材加工取付	ダクト工	人	0.56	0.56	0.59	0.59	0.63	0.78
運　搬　費	一式（材料費＋消耗品）×0.10							
そ　の　他	一　式							

備考１ ダクトのかどの縦目は、ピッツバーグはぜ・ボタンパンチスナップはぜ又は溶接とする。
２ ＳＵＳ・Ａダクト：ダクト仕様は、形鋼・つり金物・ボルトナット等がステンレス製のもの。

（３） ステンレス鋼板製ダクト（ＳＵＳ・Ｂ）

［低圧ダクト］ （出来上り１m2 当り）

名　　称	規格寸法等	単位	鋼板厚（㎜）			
			0.5	0.6	0.8	1.0
			750以下	751～1,500	1,501～2,200	2,201以上
ステンレス鋼板	1,000×2,000㎜	m2	1.28	1.28	1.28	1.28
形鋼	25×25×3㎜	kg	3.6	—	—	—
	30×30×3〃	〃	—	4.5	—	—
	40×40×3〃	〃	—	—	5.7	—
	40×40×5〃	〃	—	—	—	9.4
ボルトナット	M8×20～25L	組	20	17	17	17
フランジ用ガスケット	25㎜幅×3㎜厚	m	1.3	—	—	—
	30〃 ×3〃	〃	—	1.3	—	—
	40〃 ×3〃	〃	—	—	1.3	1.3
棒鋼・形鋼	M10, 25×25×3	kg	0.3	—	—	—
	M10, 30×30×3	〃	—	0.86	—	—
	M10, 40×40×3	〃	—	—	1.13	—
	M10, 40×40×5	〃	—	—	—	1.4
消耗品	一式（材料費×0.05）					
鋼材防錆塗装	錆止めペイント	kg	0.34	0.38	0.52	0.52
ステンレス鋼板・鋼材加工取付	塗装工	人	0.34	0.38	0.52	0.52
	ダクト工	人	0.56	0.59	0.63	0.78
運搬費	一式（材料費＋消耗品）×0.10					
その他	一　式					

（注） 鋼材防錆塗料は、上記歩掛の0.34倍して計上する。
塗装工は、上記歩掛の0.03倍して計上する。

備考１ ダクトのかどの縦目は、ピッツバーグはぜ・ボタンパンチスナップはぜ又は溶接とする。
２ ＳＵＳ・Ｂダクト：ダクト仕様は、形鋼・つり金物・ボルトナット等が普通鋼材製のもの。

（４） ステンレス鋼板製ダクト（ＳＵＳ・Ｂ）

［高圧ダクト］ （出来上り１m2 当り）

名　　称	規格寸法等	単位	鋼板厚（㎜）					
			0.8	1.0	1.0	1.2	1.2	1.2
			450以下	451～750	751～1,200	1,201～1,500	1,501～2,200	2,201以上
ステンレス鋼板	1,000×2,000㎜	m2	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28
形鋼	25×25×3㎜	kg	3.2	3.6	—	—	—	—
	30×30×3〃	〃	—	—	4.5	4.5	—	—
	40×40×3〃	〃	—	—	—	—	5.7	—
	40×40×5〃	〃	—	—	—	—	—	9.4
ボルトナット	M8×20～25L	組	18	20	17	17	17	17
フランジ用ガスケット	25㎜幅×3㎜厚	m	1.3	1.3	—	—	—	—
	30〃 ×3〃	〃	—	—	1.3	1.3	—	—
	40〃 ×3〃	〃	—	—	—	—	1.3	1.3
棒鋼・形鋼	M10, 25×25×3	kg	0.3	0.3	—	—	—	—
	M10, 30×30×3	〃	—	—	0.86	0.86	—	—
	M10, 40×40×3	〃	—	—	—	—	1.13	—
	M10, 40×40×5	〃	—	—	—	—	—	1.4
消耗品	一式（材料費×0.05）							
鋼材防錆塗装	錆止めペイント	kg	0.34	0.34	0.38	0.38	0.52	0.52
ステンレス鋼板・鋼材加工取付	塗装工	人	0.34	0.34	0.38	0.38	0.52	0.52
	ダクト工	人	0.56	0.56	0.59	0.59	0.63	0.78
運搬費	一式（材料費＋消耗品）×0.10							
その他	一　式							

（注） 鋼材防錆塗料は、上記歩掛の0.34倍して計上する。
塗装工は、上記歩掛の0.03倍して計上する。

備考１ ダクトのかどの縦目は、ピッツバーグはぜ・ボタンパンチスナップはぜ又は溶接とする。
２ ＳＵＳ・Ｂダクト：ダクト仕様は、形鋼・つり金物・ボルトナット等が普通鋼材製のもの。

（５） 硬質塩化ビニル板製長方形ダクト（ビニル・Ａ）

［低圧・高圧１ダクト、1000(Pa)以下］ （出来上り１m2 当り）

名　　称	規格寸法等	単位	板厚（㎜）				
			3	4	5	5	6
			500以下	501～1,000	1,001～1,500	1,501～2,000	2,001～3,000
硬質塩化ビニル板		m2	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1
硬質塩化ビニル製	50×50×6㎜	m	2.0	—	—	—	—
アングル	60×60×7〃	〃	—	2.2	2.2	2.2	2.2
補強鋼板（ＳＵＳ）	50× 4㎜	kg	—	—	1.2	1.3	2.2
ステンレス製	M10, 30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—
棒鋼・形鋼	M10, 40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—
	M10, 40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69
ボルトナット（SUS）	M 8×20Ｌ	組	9.1	—	—	—	—
	M10×20Ｌ	〃	—	8.9	11.4	10.5	12.0
フランジ用ガスケット	50㎜幅	m	1.1	—	—	—	—
	60㎜幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6
消耗品	一式（材料費×0.05）						
加工取付	ダクト工	人	0.72	0.78	0.81	0.83	0.93
運搬費	一式（材料費＋消耗品）×0.10						
その他	一　式						

備考　ビニルＡダクト：ダクト仕様は、補強鋼板・つり金物・ボルトナット等がステンレス製のもの。

（６） 硬質塩化ビニル板製長方形ダクト（ビニル・Ａ）

［高圧２ダクト、1000（Pa)～1500(Pa）以下］ （出来上り１m2 当り）

名　　称	規格寸法等	単位	板厚（㎜）				
			3	5	5	5	6
			500以下	501～1,000	1,001～1,500	1,501～2,000	2,001～3,000
硬質塩化ビニル板		m2	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1
硬質塩化ビニル製	50×50×6㎜	m	2.0	—	—	—	—
アングル	60×60×7〃	〃	—	2.2	2.2	2.2	2.2
補強鋼板（ＳＵＳ）	50× 4㎜	kg	—	—	1.2	1.3	2.2
ステンレス製	M10, 30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—
棒鋼・形鋼	M10, 40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—
	M10, 40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69
ボルトナット（SUS）	M 8×20Ｌ	組	9.1	—	—	—	—
	M10×20Ｌ	〃	—	8.9	11.4	10.5	12.0
フランジ用ガスケット	50㎜幅	m	1.1	—	—	—	—
	60㎜幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6
消耗品	一式（材料費×0.05）						
加工取付	ダクト工	人	0.72	0.78	0.81	0.83	0.93
運搬費	一式（材料費＋消耗品）×0.10						
その他	一　式						

備考　ビニルＡダクト：ダクト仕様は、補強鋼板・つり金物・ボルトナット等がステンレス製のもの。

（７） 硬質塩化ビニル板製長方形ダクト（ビニル・Ａ）

［高圧２ダクト、1500(Pa)を超え2000(Pa) 以下］ （出来上り１m2 当り）

名称	規格寸法等	単位	板厚（mm）				
			4	5	5	5	6
			500以下	501～1,000	1,001～1,500	1,501～2,000	2,001～3,000
硬質塩化ビニル板		m2	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1
硬質塩化ビニル製アングル	50×50×6mm	m	2.0	—	—	—	—
	60×60×7〃	〃	—	2.2	2.2	2.2	2.2
補強鋼板（ＳＵＳ）	50× 4mm	kg	—	1.2	1.2	1.3	2.2
ステンレス製棒鋼・形鋼	M10, 30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—
	M10, 40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—
	M10, 40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69
ボルトナット（SUS）	M 8×20L	組	9.1	—	—	—	—
	M10×20L	〃	—	8.9	11.4	10.5	12.0
フランジ用ガスケット	50mm幅	m	1.1	—	—	—	—
	60mm幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6
消耗品	一式（材料費×0.05）						
加工取付	ダクト工	人	0.72	0.78	0.81	0.83	0.93
運搬費	一式（材料費＋消耗品）×0.10						
その他	一 式						

備考 ビニルＡダクト：ダクト仕様は、補強鋼板・つり金物・ボルトナット等がステンレス製のもの。

（８） 硬質塩化ビニル板製長方形ダクト（ビニル・Ｂ）

［低圧・高圧１ダクト、1000 (Pa)以下］ （出来上り１m2 当り）

名称	規格寸法等	単位	板厚（mm）				
			3	4	5	5	6
			500以下	501～1,000	1,001～1,500	1,501～2,000	2,001～3,000
硬質塩化ビニル板		m2	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1
硬質塩化ビニル製アングル	50×50×6mm	m	2.0	—	—	—	—
	60×60×7〃	〃	—	2.2	2.2	2.2	2.2
補強鋼板	50×4.5mm	kg	—	—	1.2	1.3	2.2
棒鋼・形鋼	M10, 30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—
	M10, 40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—
	M10, 40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69
ボルトナット	M 8×20L	組	9.1	—	—	—	—
	M10×20L	〃	—	8.9	11.4	10.5	12.0
フランジ用ガスケット	50mm幅	m	1.1	—	—	—	—
	60mm幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6
消耗品	一式（材料費×0.05）						
鋼材防錆塗装	錆止めペイント	kg	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
加工取付	塗装工	人	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
	ダクト工	人	0.72	0.78	0.81	0.83	0.93
運搬費	一式（材料費＋消耗品）×0.10						
その他	一 式						

（注）鋼材防錆塗装は、上記歩掛の0.34倍して計上する。
塗装工は上記歩掛の0.03倍して計上する。

備考 ビニルＢダクト：ダクト仕様は、補強鋼板・つり金物・ボルトナット等が普通鋼材製のもの。

（９） 硬質塩化ビニル板製長方形ダクト（ビニル・Ｂ）

［高圧２ダクト、1000(Pa)～1500(Pa) 以下］ （出来上り１m2 当り）

名称	規格寸法等	単位	板厚（㎜）				
			3	5	5	5	6
			500以下	501～1,000	1,001～1,500	1,501～2,000	2,001～3,000
硬質塩化ビニル板		m2	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1
硬質塩化ビニル製アングル	50×50×6㎜	m	2.0	—	—	—	—
	60×60×7〃	〃	—	2.2	2.2	2.2	2.2
補強鋼板	50×4.5㎜	kg	—	—	1.2	1.3	2.2
棒鋼・形鋼	M10, 30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—
	M10, 40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—
	M10, 40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69
ボルトナット	M 8×20L	組	9.1	—	—	—	—
	M10×20L	〃	—	8.9	11.4	10.5	12.0
フランジ用ガスケット	50㎜幅	m	1.1	—	—	—	—
	60㎜幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6
消耗品	一式（材料費×0.05）						
鋼材防錆塗装	錆止めペイント	kg	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
加工取付	塗装工	人	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
	ダクト工	人	0.72	0.78	0.81	0.83	0.93
運搬費	一式（材料費＋消耗品）×0.10						
その他	一式						

（注）鋼材防錆塗装は、上記歩掛の0.34倍して計上する。塗装工は上記歩掛の0.03倍して計上する。

備考 ビニルＢダクト：ダクト仕様は、補強鋼板・つり金物・ボルトナット等が普通鋼材製のもの。

（10） 硬質塩化ビニル板製長方形ダクト（ビニル・Ｂ）

［低圧・高圧２ダクト、1500 (Pa)を超え2000(Pa)以下］ （出来上り１m2 当り）

名称	規格寸法等	単位	板厚（㎜）				
			4	5	5	5	6
			500以下	501～1,000	1,001～1,500	1,501～2,000	2,001～3,000
硬質塩化ビニル板		m2	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1
硬質塩化ビニル製アングル	50×50×6㎜	m	2.0	—	—	—	—
	60×60×7〃	〃	—	2.2	2.2	2.2	2.2
補強鋼板	50×4.5㎜	kg	—	1.2	1.2	1.3	2.2
棒鋼・形鋼	M10, 30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—
	M10, 40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—
	M10, 40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69
ボルトナット	M 8×20L	組	9.1	—	—	—	—
	M10×20L	〃	—	8.9	11.4	10.5	12.0
フランジ用ガスケット	50㎜幅	m	1.1	—	—	—	—
	60㎜幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6
消耗品	一式（材料費×0.05）						
鋼材防錆塗装	錆止めペイント	kg	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
加工取付	塗装工	人	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
	ダクト工	人	0.72	0.78	0.81	0.83	0.93
運搬費	一式（材料費＋消耗品）×0.10						
その他	一式						

（注）鋼材防錆塗装は、上記歩掛の0.34倍して計上する。塗装工は上記歩掛の0.03倍して計上する。

備考 ビニルＢダクト：ダクト仕様は、補強鋼板・つり金物・ボルトナット等が普通鋼材製のもの。

（11） ガラス繊維強化ビニル板製長方形ダクト

（出来上り１m2 当り）

名　　称	規格寸法等	単位	板厚（㎜）					
			3	3	4	4	5	5
			500以下	501～1,000	1,001～1,500	1,501～2,000	2,001～3,000	3,001以上
ガラス繊維強化塩ビ板		m2	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1	1.1
ステンレス製フランジ及び補強材	30×30×3㎜	kg	2.7	—	—	—	—	—
	40×40×3〃	〃	—	4.0	4.0	4.0	4.0	—
	40×40×5〃	〃	—	—	—	—	—	6.2
ステンレス製棒鋼・形鋼	９φ以上,30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—	—
	９　〃　,40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—	—
	９　〃　,40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69	—
	12φ　,40×40×5	〃	—	—	—	—	—	1.69
ボルトナット(SUS)	８φ	組	9	—	—	—	—	—
	10φ	〃	—	9.4	11.4	9.0	9.0	8.5
リベット（SUS）	４φ	本	16	15	16	14	13	16
パッキン	30幅	m	1.1	—	—	—	—	—
	40幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6	0.7
消耗品	一式（材料費×0.05）							
加工取付	ダクト工	人	0.80	0.92	0.98	1.03	1.14	1.19
運搬費	一式（材料費＋消耗品）×0.10							
その他	一　式							

(12)　たわみ継手

細　目	単位	送風機	ビニル製たわみ継手		細　目	単位	送風機	ビニル製たわみ継手	
			ダクト工	その他				ダクト工	その他
		No.	人				No.	人	
たわみ継手 両吸込形 (吐出口のみ)	組	2以下	0.12	一式	たわみ継手 片吸込形 (吸込口,吐出口共)	組	2以下	0.19	一式
		2 1/2	0.14				2 1/2	0.21	
		3	0.15				3	0.23	
		3 1/2	0.16				3 1/2	0.25	
		4	0.18				4	0.27	
		4 1/2	0.20				4 1/2	0.31	
		5	0.22				5	0.34	
		5 1/2	0.24				5 1/2	0.37	
		6	0.27				6	0.41	
		7	0.30				7	0.46	
		8	0.35				8	0.53	
		9	0.42				9	0.65	
		10	0.50				10	0.75	

2．空気調和機設備

屋上換気扇

細　目	単　位	名　称	単　位	羽根径			摘　要
				500φ以下	600φ	750φ	
屋上換気扇	台	屋上換気扇	台	1.0	1.0	1.0	
		ダクト工	人	1.0	1.0	1.3	
		普通作業員		—	0.5	0.5	
		その他		一式	一式	一式	

3．総合調整費

1　主要機器の試運転調整は、それぞれの労務費又は機器の価格に含まれているが、空調・温風暖房及び換気設備等のように、工事全体の総合調整が必要な場合は表により別に計上する。ただし、装置の一部を発注した場合、例えば機器などを除いてダクト又は配管工事のみ発注する時は、この総合調整費は計上しない。

2　水処理棟、機械棟及び汚泥処理棟などに、換気設備工事（排煙を含む。）を発注する場合は、表のダクト系統の歩掛員数の50%掛けとする。ただし、脱臭設備工事の場合は吸込口及びダンパ類1個当り0.2人とする。

3　配管系統については配給水衛生設備の数量計算は対象としない。

4　総合調整費に必要な用水費、動力費、燃料費等は、通常は共通仮設費に含まれるため、総合調整費の対象としないが、特殊条件の時は実態を把握し積み上げる。

総合調整費

細目	名　称	摘　要		単位	配管工（人）	ダクト工（人）	設備機械工（人）	その他	備　考
総合調整費	配管系統	配管、弁類等の調整		m	0.018			一式	配管総延長（ただし、衛生設備配管、直暖用 蒸気管、通気管、油管は除く。）
	ダクト系統（空気・換気・排煙）	風量調節ダンパ,防火ダンパ等の調査、風量、風速、騒音等の測定、必要な箇所の温湿度の測定等		m2		0.02		一式	長方形ダクト
				m		0.012		一式	スパイラルダクト
	主機械室内機器	ボイラ、冷凍機等の点検、調整、計器測定記録、その他	建物延面積 5,000m2以下	一式			8.0(4.0)	一式	温風暖房のみの場合は（ ）内数値による。
			5,001～ 15,000m2	一式			12.0(6.0)	一式	
			15,001～ 30,000m2	一式			16.0(8.0)	一式	
	各階機械室内機器	ユニット形空気調和機、ダクト用パッケージ形空気調和機		台			1.2	一式	
	ファンコイルユニット	調整		台			0.08		

〔Ⅲ〕 建築電気設備工事

1. 防爆工事

(1) 配管付属品〔1〕

細目	摘要	単位	名称・数量			
			ジャンクションボックス	雑材料	電工	その他
			個		人	
ジャンクションボックス	安全増			一式		一式
	16～28㎜ 1～2方出	個	1	(材料価格	0.113	
	3 〃	個	1	×0.02)	0.117	
	4 〃	個	1		0.126	
	36～54 ㎜ 1～2方出	個	1		0.117	
	3 〃	個	1		0.126	
	4 〃	個	1		0.134	

配管付属品〔2〕

細目	摘要	単位	名称・数量				備考
			シーリングフィッチング	雑材料	電工	その他	
			箇所		人		
シーリングフィッチング	縦型 16㎜	箇所	1	一式	0.060	一式	コンパウンド充填を含む。
	22〃	箇所	1	(材料価格	0.069		
	28〃	箇所	1	×0.02)	0.078		
	36〃	箇所	1		0.100		
	42〃	箇所	1		0.121		
	54〃	箇所	1		0.156		
	70〃	箇所	1		0.208		
	自在型 16㎜	箇所	1	一式	0.065	一式	
	22〃	箇所	1	(材料価格	0.073		
	28〃	箇所	1	×0.02)	0.082		
	36〃	箇所	1		0.104		
	42〃	箇所	1		0.130		
	54〃	箇所	1		0.165		
	70〃	箇所	1		0.217		
	ドレン型 16㎜	箇所	1	一式	0.073	一式	
	22〃	箇所	1	(材料価格	0.086		
	28〃	箇所	1	×0.02)	0.095		
	36〃	箇所	1		0.121		
	42〃	箇所	1		0.139		
	54〃	箇所	1		0.182		
	70〃	箇所	1		0.226		

配管付属品〔３〕

細　目	摘　要		単位	名　称・数　量			
				フレキシブルフィッチング	雑材料	電　工	その他
				個		人	
フレキシブルフィッチング	安全増（*l*=0.5m）	16㎜	本	1	一　式（材料価格×0.02）	0.047	一　式
		22㎜	本	1		0.052	
		28㎜	本	1		0.069	
		36㎜	本	1		0.086	
		42㎜	本	1		0.117	
		54㎜	本	1		0.143	
		70㎜	本	1		0.156	
	（*l*=１m）	16㎜	本	1		0.052	
		22㎜	本	1		0.056	
		28㎜	本	1		0.078	
		36㎜	本	1		0.095	
		42㎜	本	1		0.130	
		54㎜	本	1		0.156	
		70㎜	本	1		0.173	

（２）　配線器具類

細　目	摘　要	単位	名　称　・　数　量					
			耐圧スイッチ	耐圧コンセント	耐圧ブレーカー	雑材料	電　工	その他
			個	個	個		人	
耐圧スイッチ	１Ｐ２Ｐ10Ａ ＯＮ,ＯＦＦ	個 個	1			一　式（材料価格×0.02）	0.24	一　式

Ⅱ　設計書の記載例

１．　記載要領

（１）　設計書の作成は、記載例及び注意事項に基づいて行う。

（２）　記載事項は、下水道用建築・建築設備請負工事積算基準に基づいて積算した内容を、費用、工種及び種別ごとにまとめる。

（３）　本工事費内訳書は、種目（土木工事、建築工事、建築機械設備工事、建築電気設備工事）ごとに、直接工事費共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等をとりまとめ、各工事の本工事費計とする。又、最後に全体の工事価格、消費税等相当額を計上とする。

（４）　内訳書は、本工事費内訳書に記載された項目の内訳を記載例により作成し、内訳書番号の前に符合（Ａ－１、Ａ－２…、ＡＭ－１、ＡＭ－２…、ＡＥ－１、ＡＥ－２…）を付け、各工事ごとにまとめる。

（５）　記載例の「標準仕様書」とは、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書」（建築工事編、機械設備工事編、電気工事編）の略称である。

令　和　○　○　年　度		工事番号第　　号	工　期	令和○○年○月○日
			審 査 者	担　当　者

工　事　名	○○市○○終末処理場建設工事
工事地名（箇所）	○○県○○市○○町地内
工 事 内 容	土木工事
	最初沈澱池（20m×30m）　４池　堀削工１式　躯体工１式
	エアレーションタンク（20m×40m）　４池　堀削工１式　躯体工１式
	建築工事
	沈砂池ポンプ棟　鉄筋コンクリート造　○階建（地下○階）１棟
	建築面積○○．○○m2　延床面積○○．○○m2
	建築工事（躯体・仕上工事）１式
	管　　理　　棟　鉄筋コンクリート造　○階建（地下○階、塔屋○階）１棟
	建築面積○○．○○m2　延床面積○○．○○m2
	建築工事（躯体・仕上工事）１式
	建築機械設備工事
	沈砂池ポンプ棟　建築機械設備工事　１式
	管　　理　　棟　建築機械設備工事　１式
	建築電気設備工事
	沈砂池ポンプ棟　建築電気設備工事　１式
	管　　理　　棟　建築電気設備工事　１式

設　計　金　額	区　分	令和○年度	令和○年度	令和○年度	令和○年度	計
金　　円　也	単独費					
支給品費金　　円　也	計					

（注）　補助率区分は、高率を上段に記載する

本工事費内訳書								
費目	工種	種別	細別	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘要
建築本工事費								
	処理施設工							
		沈砂池ポンプ棟	(建築)					
			直接仮設	式	1			A－1 第1号内訳書
			コンクリート	式	1			A－1 第2号内訳書
			型枠	式	1			A－1 第3号内訳書
			鉄筋	式	1			A－1 第4号内訳書
			鉄骨	式	1			A－1 第5号内訳書
			既製コンクリート	式	1			A－1 第6号内訳書
			防水	式	1			A－1 第7号内訳書
			石	式	1			A－1 第8号内訳書
			タイル	式	1			A－1 第9号内訳書
			木工	式	1			A－1 第10号内訳書
			金属	式	1			A－1 第11号内訳書
			左官	式	1			A－1 第12号内訳書
			木製建具	式	1			A－1 第13号内訳書
			金属製建具	式	1			A－1 第14号内訳書
			ガラス	式	1			A－1 第15号内訳書
			塗装	式	1			A－1 第16号内訳書
			内外装	式	1			A－1 第17号内訳書
			仕上ユニット	式	1			A－1 第18号内訳書
			合計					A 1
		管理棟	(建築)					
			直接仮設	式	1			A－2 第1号内訳書
			コンクリート	式	1			A－2 第2号内訳書
			型枠	式	1			A－2 第3号内訳書
			鉄筋	式	1			A－2 第4号内訳書
			鉄骨	式	1			A－2 第5号内訳書
			既製コンクリート	式	1			A－2 第6号内訳書
			防水	式	1			A－2 第7号内訳書
			石	式	1			A－2 第8号内訳書

費　目	工　種	種　別	細　別	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　要
			タ　イ　ル	式	1			Ａ―２ 第９号内訳書
			木　　工	式	1			Ａ―２ 第10号内訳書
			金　　属	式	1			Ａ―２ 第11号内訳書
			左　　官	式	1			Ａ―２ 第12号内訳書
			木 製 建 具	式	1			Ａ―２ 第13号内訳書
			金 属 製 建 具	式	1			Ａ―２ 第14号内訳書
			ガ　ラ　ス	式	1			Ａ―２ 第15号内訳書
			塗　　装	式	1			Ａ―２ 第16号内訳書
			内　外　装	式	1			Ａ―２ 第17号内訳書
			仕上ユニット	式	1			Ａ―２ 第18号内訳書
			合　　計					Ａ２
			総　　計					（Ａ1＋Ａ２）
		直接工事費計						
		共通仮設費		式	1			
			共通仮設費（率分）	式	1			
			共通仮設費 （積み上げ分）	式	1			
		共 通 仮 設 費 計						
		小計（純工事費）						
		現場管理費		式	1			
	計（工事原価）							
		一般管理費等		式	1			
建築本工事費　計								Ａ
建築機械設備本工事費								
	処理施設工							
		沈砂池ポンプ棟	（建築機械設備）					
			空 気 調 和 設 備					
			空 調 機 器 設 備	式	1			ＡＭ―１ 第１号内訳書
			ダ ク ト 設 備	式	1			ＡＭ―１ 第２号内訳書
			配　管　設　備	式	1			ＡＭ―１ 第３号内訳書
			自 動 制 御 設 備	式	1			ＡＭ―１ 第４号内訳書
			総　合　調　整	式	1			ＡＭ―１ 第５号内訳書
			小　　計					

費　目	工　種	種　別	細　別	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　要
			換気設備					
			換気機器設備	式	1			ＡＭ―１ 第６号内訳書
			ダクト設備	式	1			ＡＭ―１ 第７号内訳書
			総合調整	式	1			ＡＭ―１ 第８号内訳書
			小　計					
			計					
			給排水衛生設備					
			衛生器具設備	式	1			ＡＭ―１ 第９号内訳書
			給水設備	式	1			ＡＭ―１ 第10号内訳書
			排水設備	式	1			ＡＭ―１ 第11号内訳書
			給湯設備	式	1			ＡＭ―１ 第12号内訳書
			消火設備	式	1			ＡＭ―１ 第13号内訳書
			計					
			ガス設備					
			液化石油ガス設備	式	1			ＡＭ―１ 第14号内訳書
			計					
			合　計					ＡＭ１
		管理棟	(建築機械設備)					
			空気調和設備					
			空調機器設備	式	1			ＡＭ―２ 第１号内訳書
			ダクト設備	式	1			ＡＭ―２ 第２号内訳書
			配管設備	式	1			ＡＭ―２ 第３号内訳書
			自動制御設備	式	1			ＡＭ―２ 第４号内訳書
			総合調整	式	1			ＡＭ―２ 第５号内訳書
			小　計		1			
			換気設備		1			
			換気機器設備	式	1			ＡＭ―２ 第６号内訳書
			ダクト設備	式	1			ＡＭ―２ 第７号内訳書
			総合調整	式	1			ＡＭ―２ 第８号内訳書
			小　計					
			計					

費　　目	工　　種	種　　別	細　　別	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
			給排水衛生設備					
			衛生器具設備	式	1			ＡＭ―２ 第９号内訳書
			給　水　設　備	式	1			ＡＭ―２ 第10号内訳書
			排　水　設　備	式	1			ＡＭ―２ 第11号内訳書
			給　湯　設　備	式	1			ＡＭ―２ 第12号内訳書
			消　火　設　備	式	1			ＡＭ―２ 第13号内訳書
			計					
			ガ　ス　設　備					
			液化石油ガス設備	式	1			ＡＭ―２ 第14号内訳書
			分析ガス設備	式	1			ＡＭ―２ 第15号内訳書
			計					
			昇降機設備					
			エレベーター設備	式	1			ＡＭ―２ 第16号内訳書
			小荷物専用昇降機設備	式	1			ＡＭ―２ 第17号内訳書
			計					
			合　　計					ＡＭ―２
			総　　計					（ＡＭ１＋ＡＭ２）
		直接工事費計						
		共通仮設費		式	1			
		小計（純工事費）						
		現場管理費		式	1			
	計（工事原価）							
		一般管理費等		式	1			
建築機械設備本工事費計								ＡＭ
建築電気設備本工事費								
	処理施設工							
		沈砂池ポンプ棟	（建築電気設備）					
			電　灯　設　備	式	1			ＡＥ―　１ 第１号内訳書

費　目	工　種	種　別	細　別	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　要
			動力設備	式	1			ＡＥ― １ 第２号内訳書
			避雷設備	式	1			ＡＥ― １ 第３号内訳書
			電話設備	式	1			ＡＥ― １ 第４号内訳書
			電気時計設備	式	1			ＡＥ― １ 第５号内訳書
			拡声設備	式	1			ＡＥ― １ 第６号内訳書
			インターホン設備	式	1			ＡＥ― １ 第７号内訳書
			テレビ共同受信設備	式	1			ＡＥ― １ 第８号内訳書
			火災報知（防災）設備	式	1			ＡＥ― １ 第９号内訳書
			防犯設備	式	1			ＡＥ― １ 第10号内訳書
			構内配電線路	式	1			ＡＥ― １ 第11号内訳書
			構内通信線路	式	1			ＡＥ― １ 第12号内訳書
			屋外電灯設備	式	1			ＡＥ― １ 第13号内訳書
			合　計					ＡＥ１
		管理棟	（建築電気設備）					
			電灯設備	式	1			ＡＥ― ２ 第１号内訳書
			動力設備	式	1			ＡＥ― ２ 第２号内訳書
			避雷設備	式	1			ＡＥ― ２ 第３号内訳書
			電話設備	式	1			ＡＥ― ２ 第４号内訳書
			電気時計設備	式	1			ＡＥ― ２ 第５号内訳書
			拡声設備	式	1			ＡＥ― ２ 第６号内訳書
			インターホン設備	式	1			ＡＥ― ２ 第７号内訳書
			テレビ共同受信設備	式	1			ＡＥ― ２ 第８号内訳書
			火災報知（防災）設備	式	1			ＡＥ― ２ 第９号内訳書
			防犯設備	式	1			ＡＥ― ２ 第10号内訳書
			構内配電線路	式	1			ＡＥ― ２ 第11号内訳書
			構内通信線路	式	1			ＡＥ― ２ 第12号内訳書
			合　計					ＡＥ２
			総　計					（ＡＥ１＋ＡＥ２）
		直接工事費計						
		共通仮設費		式	1			
		小計 （純工事費）						

費　　目	工　　種	種　　別	細　　別	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
		現場管理費		式	1			
	計（工事原価）							
		一般管理費等		式	1			
建築電気設備本事費計								ＡＥ
監督員事務所		損料		式	1			
工事価格								
								（Ａ＋ＡＭ＋ＡＥ＋監督員事務所）
消費税等相当額				式	1			
本工事費計								

Ａ－〇　第１号内訳書　直接仮設

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
遣　　方		式	1			
墨　出　し		式	1			
外　部　足　場		式	1			
内　部　足　場		式	1			
型　枠　支　保　工		式	1			
仕　上　支　保　工		式	1			
災　害　防　止　養　生		式	1			
養　　生		式	1			
整　理　清　掃		式	1			
仮　設　運　搬		式	1			
計						

（注）　1　外部足場には、枠組本足場、安全手すり等を各々算出し、その集計を計上する。

2　内部足場には、脚立足場、枠組本足場等を各々算出し、その集計を計上する。

3　支保工には、型枠支保工、支保工受け等を各々算出し、その集計を計上する。また、型枠、仕上用別に区分する。

4　災害防止養生には、金網、シート、養生枠、安全ネット、養生シート、ネット状養生シートを各々算出し、その集計を計上する。

5　仮設運搬は、足場類、型枠支保工等を各々算出し、その集計を計上する。

Ａ－〇　第２号内訳書　コンクリート

項　　目	形　　状	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
（躯　体）						
普通コンクリート	Ｆｃ＝〇〇	ｍ3				
〃	Ｆｃ〇〇ｽﾗﾝﾌﾟ＝〇〇	ｍ3				
コンクリート打設手間		式	1			
コンクリート圧送	基本料金を含む	式	1			
構造体強度補正	Ｓ	式	1			
コンクリート足場		式	1			
（打設養生）		式	1			寒冷期のコンクリート養生費
止　　水　　板		ｍ				
（外　部）						
無筋コンクリート	Ｆｃ＝〇〇	ｍ3				
コンクリート打設手間		式	1			
機　械　器　具		式	1			
（内　部）						
無筋コンクリート	Ｆｃ＝〇〇	ｍ3				
コンクリート打設手間		式	1			
機　械　器　具		式	1			
計						

（注）１　コンクリート数量は設計数量を計上する。

ただし、ＳＲＣ造の場合は、鉄骨の設計数量について、7.85ｔを1.0m3として控除する。

２　コンクリート打設手間は、ポンプ打・カート打及び打設部位により設定する。

３　ポンプ圧送は、１回の打設量により設定する。（100m3以上と100m3未満）

４　躯体、外部、内部に区分する。

Ａ－〇　第３号内訳書　型　枠

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
（躯　体）						
普通合板型枠	一般ラーメン　基礎	m2				
〃	一般ラーメン 地下軸部	m2				
〃	一般ラーメン 地上軸部曲面	m2				
〃	一般ラーメン 地上軸部コーン使用	m2				
〃	一般ラーメン 地下軸部	m2				
打放し合板型枠	一般ラーメン 地上軸部	m2				
〃	一般ラーメン 地下軸部	m2				
型枠階高補正		一式	1			地上軸部総面積に補正
コンクリート目地		一式	1			
スリーブ		一式	1			
型枠運搬費						
（外部仕上げ）						
普通合板型枠	工作物基礎	m2				
打放し合板型枠		m2				
普通型枠補修	コーン処理	一式	1			
打放し面補修	コーン処理目違払い共	一式	1			
（内部仕上げ）						
普通合板型枠	工作物基礎	m2				
打放し合板型枠		m2				
普通型枠補修	コーン処理	一式	1			
打放し面補修	コーン処理目違払い共	一式	1			
計						

（注）　１　型枠の種類は、普通合板型枠、打放し型枠、一般ラーメン基礎、地下、地上及び特殊型枠とする。

２　普通合板型枠でコーンを使用する箇所は、次の箇所とする。

イ　直接土に関する面（基礎の類、地下室のない場合の基礎梁を除く。）

ロ　断熱材を打込んだ面（ただしスラブ面は除く。）

３　型枠は、建物構造の種別部位等により、下記の分類とする。

イ　ＲＣ造、ＳＲＣ造、一般ラーメン基礎、地下軸部、地上軸部

ロ　ＲＣ造、壁式基礎、壁式地上軸部

ハ　鉄骨造（基礎）

ニ　工作物

ホ　その他

４　防水の立上、立下がり面は、特記以外は打放しＢ種とする。

５　打放し型枠補修費は打放し型枠を使用した際のコンクリート面の補修費である。

６　普通型枠補修費は、普通型枠にコーンを使用した際のコーン処理費である。

７　躯体、外部仕上げ、内部仕上げに区分する。

Ａ－○　第４号内訳書　鉄　筋

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
（躯　体）						
異　形　鉄　筋	ＳＤ○○　Ｄ○○	t				所要数量
〃	ＳＤ○○　Ｄ○○	t				所要数量
スパイラル鉄筋	ＳＤ○○　Ｄ○○	t				設計数量
スルラップ控除		一式	1		▲	
鉄筋加工組立	ＲＣラーメン構造　一般	t				
スパイラル組立・取付け		t				
スリーブ補強		一式	1			
ガ　ス　圧　接		一式	1			
溶　接　金　網		m2	1			
鉄　筋　運　搬　費		一式	1			
鉄　筋　足　場		一式	1			
（外部仕上げ）						
異　形　鉄　筋	材工共	t				
（内部仕上げ）						
異　形　鉄　筋	材工共	t				
計						

（注）　１　鉄筋数量は、所要数量（設計数量×1.04）とする。

２　鉄筋加工組立は、設計数量とする。

３　ガス圧接費は、鉄筋径別に圧接個所数を算出して一式で計上する。

４　鉄筋運搬費は、工場加工の場合計上する。

５　躯体、外部仕上げ、内部仕上げに区分する。

Ａ－○　第５号内訳書　鉄　骨

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
（工 場 製 作）						
（主　体）						
鋼　　材	ＳＳ－○○ Ｌ－○×○×○	t				所要数量
〃	ＳＳ－○○ Ｈ－○×○×○×○	t				〃
〃	ＳＳ－○○ Ｉ－○×○×○×○	t				〃
〃	ＳＳ－○○ ｌ－○×○×○×○	t				〃
〃	ＳＳ－○○ □－○×○×○	t				〃
〃	ＳＳ－○○ ＦＢ－○×○	t				〃
スクラップ控除		式	▲1		▲	
工場加工組立		t	1			ボルトは除く。
スタットボルト	材工共	式	1			
工　場　塗　装		式	1			
探　傷　試　験		式	1			
鉄　骨　運　搬		式	1			
（付 帯）						
鋼　　材	ＳＳ－○○ □－○×○×○	t				所要数量
〃	ＳＳ－○○ ＦＢ－○×○	t				〃
〃	ＳＳ－○○ ＦＬ－○×○	t				〃
スクラップ控除		式	▲1		▲	
工場加工組立		t				
スタットボルト	材工共	式	1			
工　場　塗　装		式	1			
鉄　骨　運　搬		式	1			
フ ァ ス ナ ー	材工共	式	1			
ス リ ー ブ	材工共	式	1			
階　　段	材工共	式	1			
小　　計						
（現場建方）						
特殊高力ボルト	ＮＯ，Ｌ－○○	t				所要数量
アンカーボルト	材工共	式	1			
ならしモルタル	材工共	式	1			
ターンバックルボルト	材工共	式	1			
主体鉄骨建方		t				
現　場　溶　接		m				
高力ボルト本締		本				
トルシア形高力ボルト本締		本				

項　　目	形　　状	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
付帯鉄骨取付		t				
スタットボルト	材共工	式	1			
デッキプレート	材共工	m2				
耐火被覆		m2				
機械器具		式	1			
鉄骨足場		式	1			
火災防止養生		式	1			
仮設運搬		式	1			
小　計						
計						

（注）　工作製作、現場建方に区分する。

Ａ－〇　第６号内訳書　既製コンクリート

項　　目	形　　状	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
（外　部）						
コンクリートブロック	ア〇〇　〇種	m2				
コンクリートブロック化粧加算額	片面	m2				
普通レンガ	〇枚積　防水押え	m2				
ＡＬＣパネル	ア〇〇	m2				
ＰＣパネル	ア〇〇	m2				
取付金物	ア〇〇	式	1			
機械器具		式	1			
（内　部）						
コンクリートブロック	ア〇〇　〇種	m2				
コンクリートブロック化粧加算額		m2				
耐火レンガ	〇種　〇枚積	m2				
ＡＬＣパネル	ア〇〇	m2				
取付金物		式	1			
機械器具		式	1			
計						

（注）　1　外部、内部に区分する。

2　コンクリートブロック積の種別、空洞ブロック８，12，　16と寸法に区分する。

3　ＡＬＣパネルは、外壁、間仕切壁、床、別に計上する。

4　機械器具費は製品を取付ける場合（ＡＬＣ，ＰＣ）に計上する。（パネル取付の施工費に含めない場合）

Ａ－○　第７号内訳書　防　　水

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
（外　部）						
アスファルト防水	種別、平面	m2				
〃	〃　、立上り	m2				
合成高分子ルーフィングシート防水	ア○○	m2				
塗膜防水		m2				
伸縮目地		式	1			
成形緩衝材		m				
防水入隅処理		式	1			
シーリング	種類	式	1			
（内　部）						
アスファルト防水	種別	m2				
塗膜防水	種別	m2				
シーリング	種類	式	1			
計						

（注）　1　外部、内部に区分する。
2　アスファルト防水層の種別に区分する。また、平面と立上がり、立下り面に分類する。
3　伸縮目地は、表面コンクリート別に区分し、材種別（合成樹脂発泡材、エラスタイト別）に記入する。
4　シーリングは、材種別に記入する。
5　防水押えアングル、砂利敷等がある場合は計上する。

Ａ－○　第８号内訳書　石

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
（外　部）						
床花こう岩	○○石、水みがき ア○○㎜	m2				
壁花こう岩	○○石、水みがき ア○○㎜	m2				
（内　部）						
床大理石	○○石、水みがき ア○○㎜	m2				
床花こう岩	○○石、水みがき ア○○㎜	m2				
壁大理石	○○石、水みがき ア○○㎜	m2				
階段ササラ桁テラゾーブロック	水みがき仕上	m				
沓摺テラゾーブロック		m				
笠木テラゾーブロック		m				
手摺テラゾーブロック	ア○　糸＝○○	m				
摺板テラゾーブロック	ア○　糸＝○○	m				
計						

（注）　1　外部、内部に区分する。
2　石の種別により、花こう岩張、大理石張及びテラゾーブロック張等に区分する。
3　石張工法、一般石張、役物の取付等の施工費は、各石張に含めて計上する。
4　石は、産地、表面上及び平面、役物に区分する。
5　石の表面上は、粗みがき、水みがき及び本みがき等に区分する。

Ａ－〇　第９号内訳書　タイル

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
（外　部）						
床　タ　イ　ル	○○張り　磁器 ○角　無釉	m2				
外装タイル（平 物）	○○張り　磁器 ○×○　施釉	m2				
外装タイル（役 物）	○○張り　磁器 ○×○　施釉	m				
（内　部）						
床　タ　イ　ル	○○張り　磁器 ○角　無釉	m2				
床モザイクタイル	ユニットタイル張り 機器　○角　施釉	m2				
内　装　タ　イ　ル	○○張り　機器 ○角　施釉	m2				
壁ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ（平物）	○○張り　機器 ○×○　施釉	m2				
壁ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ（役物）	○○張り　磁器 ○×○　施釉	m				

（注）　１　外部、内部に区分する。

２　タイル種別：磁器質タイル張、せっき質タイル、磁器質タイル張、ユニットタイル張別に区分する。

３　タイル工法：積上張、密着張、改良積上張、改良圧着張、マスク張り、モザイクタイル張別に区分する。なお、形状欄に工法を記入する.

４　タイルの寸法に区分する。

５　うわぐすりの種類別、無釉、施釉別に区分する。

Ａ－○　第10号内訳書　木　　工

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
床　　組	（詳細図番号等）	m2				
〃	（　〃　）	m2				
上り框下地組	（　〃　）	m				
敷居下地組	（　〃　）	m				
間仕切足固め	（　〃　）	m				
間仕切軸組	（　〃　）	m2				
頭つなぎ		m				
胴縁組		m2				
天井下地		m2				
押　　入	H1,800×W1,800×D900	箇所				
〃	天袋付 2,700×1,800×900	箇所				
幅　　木	（詳細図番号等）	m				
建具枠		m				
付かも居	（　〃　）	m				
回り縁	（　〃　）	m				
畳　　寄	（　〃　）	m				
〃	（　〃　）	m				
敷　　居	（　〃　）	m				
かも居	（　〃　）	m				
上り框	（　〃　）	m				
化粧柱	*l*＝○○m	本				
化粧半柱	〃	本				
障子戸枠	（詳細図番号等）	m				
計						

Ａ－○　第11号内訳書　金　　属

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
（外　部）						
長尺金属板	○○ぶきア○	m2				
折板	ア○	m2				
折板付金属金物		式	1			
ルーフドレン	材種 φ○○	箇所				
とい	材種 φ○○	m				
とい掃除口		式	1			
とい保温、塗装		式	1			
屋上点検用マンホール	○○製 ○○型　φ○○	箇所				
丸環		箇所				
笠木		m				
笠木コーナー加算		式				
軽量量鉄骨天井下地	○○型 （金属成形版帳用）	m2				
玄関庇天井金属成形板	種別	m2				
屋上手摺	材種　○パイプ Ｈ＝○○	m				
タラップ	○○製　○－○○－○ Ｌ＝○○	箇所				
（内　部）						
床排水溝蓋	○○製 Ｗ＝○○　Ｈ＝○○	m				
マンホール蓋	○○製 ○○型　φ○○	箇所				
床目地棒	○○製形状	m				
床沓摺	○○製形状	m				
階段ノンスリップ	○○製形状	m				
床点検口	○○製 ○○×○○	箇所				
軽量鉄骨壁下地	種別	m2				
軽量鉄骨壁下地 開口補強		式	1			
手摺	○○製 形状	m				
壁コーナービート	種別	m				
開口部三方枠	○○製 形状	m				
軽量鉄骨天井地下	（金属成形板張用）	m2				
〃	（ロックウール吸音板張用）	m2				
軽量鉄骨天井下地	（ＧＢ板張用）	m2				
〃	（石綿セメント板用）	m2				

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
軽量鉄骨天井下地 開　口　補　強		式	1			
天井回り見切縁	種別	m				
天井水切とい	種別	m				
天井点検口	○○製品 ○○×○○	箇所				
計						

（注）　1　外部、内部に区分する。

2　外部の記載順序は、屋根、床、天井とし、内部は、床、壁、天井とするのを、原則とする。

3　目地棒、すべり止め、とい、コーナービート、見切縁等で合成樹脂等による製品も記載する。

4　軽量鉄骨天井下地は、仕上材の種類により分類する。

5　軽量鉄骨天井下地は、天井のふところが屋内1.5m以上、1.0m以上の場合には、ふれ止め補強を要するので、それらを区分する。

6　軽量鉄骨壁下地「標準仕様書」

軽量鉄骨壁下地は、特記がなければ下記の種類とする。

種　類	スタッドの高さによる摘要	仕上材の重ね枚数による種類
50 形	高さ2.7m以下	○直張り　（300ピッチ） ○下地張り（450ピッチ）
65 形	高さ4.0m以下	
90 形	高さ4.0mを超え4.5m以下	
100 形	高さ4.5mを超え5m以下	

Ａ－〇　第12号内訳書　左　　官

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
（外　部）						
床モルタル塗り		m2				
床下地モルタル塗り	○○下地	m2				
壁モルタル塗		m2				
壁下地モルタル塗り	○○下地	m2				
外部役物モルタル塗り		m2				
複層仕上塗材仕上げ		m2				
建具周囲モルタル充填		m				
（内　部）						
床コンクリート床均仕上げ		m2				
床モルタル塗り		m2				
床下地モルタル塗り		m2				
床役物モルタル塗り		m2				
幅木モルタル塗り		m				
壁モルタル塗り		m2				
壁下地モルタル塗り	○○下地	m2				
内部役物モルタル塗り		m				
壁せっこうプラスター塗り	○○下地	m2				
建具周囲モルタル充填		m				
壁ロックウール吹付	○色　ア○	m2				
壁軽量骨材仕上塗材	種別　ア○	m2				
壁薄付仕上塗材	○種　○系（ＣＢ12）	m2				
天井軽量骨材仕上塗材	種別　ア○	m2				
天井薄付仕上塗材	種別	m2				
ピットモルタル塗り	形状　糸幅＝○○	m				
沓摺モルタル塗り	形状　糸幅＝○○	m				
笠木モルタル塗り	形状　糸幅＝○○	m				
計						

注）１　複層仕上塗材仕上は、セメント系、ポリマーセメント系、エマルション系、合成樹脂溶液系の別及び表面仕上別に区別する。

２　ロックウール吹付、バーミキュライト吹付は、原色、着色の別、吹付厚さ別とする。

３　軽量骨材仕上塗材は、吹付厚さを記入する。

４　薄付仕上塗材は、内・外装の別、下地の仕上別に区別する。

５　床合成樹脂塗は、ビニル系、エポキシ系の別、塗厚さ別とする。

６　部分・ごとに床、幅木、壁、天井の順に記載する。

７　仕上の構成を形状欄に記載するが、コンクリート下地の場合には省略することができる。

８　外部、内部に区分する。

Ａ－〇　第13号内訳書　木製建具

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
ＷＤ１	Ｈ　　Ｗ 〇〇×〇〇	箇所				
ＷＤ２	〇〇×〇〇	箇所				
ＷＷ１	〇〇×〇〇	箇所				
Ｆ １	〇〇×〇〇	箇所				
Ｆ ２	〇〇×〇〇	箇所				
計						

（注）１　建具の名称は、建具番号を記載し、形状欄には寸法を記載する。

２　木製建具類は、建具の種類別に区分し、建具金物、建具取付費、建具運搬費を含ませて計上する。

３　木製建具は、建具内寸法、ガラリの大きさ等を記入する。

４　建具金物

例：出入口片開フラッシュ戸の場合…丁番、モノロック、戸当り、あおり止め、上げ落とし、ドアクローザ

Ａ－○　第14号内訳書　金属製建具

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
アルミニウム製建具		式	1			
鋼　製　建　具		式	1			
鋼製軽量建具		式	1			
ステンレス製建具		式	1			
シ　ャ　ッ　タ　ー		式	1			
計						
（アルミニウム製建具）						
ＡＷ１	Ｗ　Ｈ ○○×○○	箇所				
ＡＷ２	○○×○○	箇所				
ＡＤ１	○○×○○	箇所				
ＡＤ２	○○×○○	箇所				
小計						
（鋼製建具）						
ＳＤ１	Ｗ　Ｈ ○○×○○	箇所				
ＳＤ２	○○×○○	箇所				
ＳＧ１	○○×○○	箇所				
小計						
（鋼製軽量建具）						
ＬＤ１	Ｗ　Ｈ ○○×○○	箇所				
ＬＤ２	○○×○○	箇所				
ＬＤ３	○○×○○	箇所				
小計						
（ステンレス製建具）						
ＳＳＤ１	Ｗ　Ｈ ○○×○○	箇所				
ＳＳＤ２	○○×○○	箇所				
開　閉　機　構		式	1			
小計						
（シャッター）						
ＳＳ１	Ｗ　Ｈ ○○×○○	箇所				
ＳＳ２	Ｗ　Ｈ ○○×○○	箇所				
小計	○○×○○					

（注）　１　建具の名称は、建具番号を記載し、形状欄には寸法を記載する。
　　２　金属製建具類は、建具種類別に区分して建具金物、建具取付費、建具運搬費を含ませて計上する。
　　ただし、付属金物、特殊金物等で別に定める必要があるときは、別欄に記入する。
　　３　金属製建具は、建具内寸法、ガラリ付、防煙マド付等を記入する。

Ａ－〇　第15号内訳書　ガラス

項　　目	形　　状	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
型板ガラス	ア〇　〇寸 〇〇m2以下	m2				
網入り型板ガラス	ア〇　〇特寸 〇〇m2以下	m2				
フロート板ガラス	ア〇　〇寸 〇〇m2以下	m2				
網入り磨き板ガラス	ア〇　〇寸 〇〇m2以下	m2				
熱線吸収板ガラス	ア〇　〇寸 〇〇m2以下	m2				
複層ガラス	FL5：A6：〇〇	m2				
倍強度ガラス	ア〇　〇寸 〇〇m2以下	m2				
ガラス清掃		m2				
ガラスブロック	ア〇 〇〇×〇〇	m2				
強化ガラス戸	ア〇　H　W 〇〇×〇〇	箇所	1			
ガラスとめ材		m				
計						

注)　1　ガラスは種類別に形状する。
型板ガラス、網入型板ガラス、フロート板ガラス、網入磨き板ガラス、熱線吸収板ガラス、複層ガラス、倍強度ガラス

2　ガラスとめ材としてガスケットとシーリング材に区分される。ガスケットの材料費は、建具本体に含むものとする。

3　ガラスの厚さは、大きさにより分類する。

Ａ－○　第16号内訳書　塗　　装

項　　目	形　　状	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
(外　部)						
Ａ　Ｐ	種別 (コンクリート)	ｍ2				
Ｇ　Ｐ	種別 (鋼建)	ｍ2				
Ｏ　Ｐ	種別 (鋼建)	ｍ2				
(内　部)						
幅　木　Ｏ　Ｐ	種別　Ｈ＝○○ (モルタル)	ｍ				
壁　Ｖ　Ｐ	種別 (モルタル)	ｍ2				
〃　Ｅ　Ｐ	種別 (モルタル)	ｍ2				
〃　Ｅ　Ｐ	種別 (ＧＢ　12＋9)	ｍ2				
笠　木　Ｖ　Ｐ	種別、糸幅＝○○ (モルタル)	ｍ				
天　井　Ｅ　Ｐ	種別 (石綿セメント板F5)	ｍ2				
Ｏ　Ｐ	種別 (鋼建)	ｍ2				
Ｃ　Ｌ	種別 (木製部)	ｍ2				
計						

(注) 1　外部、内部に区分する。

2　塗装は、種類別、下地別に分類して計上する。

3　部分ごとに床、幅木、壁、天井の順に記載する。

4　塗装・吹付下地のモルタルを役物で計上した場合は、それらを役物として計上する。

Ａ－○　第17号内訳書　内外装

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
（外　部）						
バルコニー天井石綿セメント板	種別　ア○ （吹付下）	m2				
（内　部）						
床　　合成樹脂塗床	種別、工法 （コンクリート）	m2				
〃　　〃	種別、工法 （モルタル）	m2				
床　　床用塗料	種別	m2				
〃　　〃	種別 （モルタル）	m2				
床　　畳敷	○種　1帖	枚				
〃　〃	○種　半帖	枚				
床　　ビニル床シート	ア○　無地 （モルタル）	m2				
床　　ビニル床タイル	○○質　ア○ （モルタル）	m2				
床　　天然木化粧複合フローリング張	○種　ア○	m2				
階段　ビニル床タイル	ア○　無地 （モルタル）	m2				
幅木　ビニル幅木	Ｈ＝○○ （モルタル）	m				
〃	Ｈ＝○○ （ＧＢ　12.5＋9.5）	m				
幅木下　石こうボード	12.5＋9.5 （ビニル幅木）	m2				
壁　　石こうボード	12.5　継目処理 （ＥＰ）	m2				
〃　　〃	12.5＋9.5 （ＥＰ）	m2				
〃　　石綿セメント板	ア○	m2				
壁　　石綿ケイ酸カルシウム板	ア○	m2				
壁　　壁紙	種別 （ＧＢ12.5＋9.5 継目）	m2				
壁　　グラスウール充填	ア○	m2				
壁　　合成樹脂発泡材打込	種別 ア○	m2				
天井　石こうボード	ア○、目透かし （ＥＰ）	m2				
天井　化粧石こうボード	ア○	m2				

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
天井　木目化粧石こうボード	ア○	m2				
〃　石綿セメント板	ア○（ＶＰ）	m2				
〃　ロックウール化粧吸音板	ア○	m2				
〃　木毛セメント板打込	ア○	m2				
〃　合成樹脂発泡材打込	ア○	m2				
計						

（注）１　外部、内部に区分する。

２　内装材は、仕上材料別、材質、厚さ別に分類して計上する。

Ａ－○　第18号内訳書　仕上ユニット

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
（外　部）						
郵　便　受	○○製	箇所				
屋　上　旗　竿	*1*＝○○	箇所				
（内　部）						
流　し　台	種別 *1*＝○○	箇所				
コ　ン　ロ　台	種別 *1*＝○○	箇所				
調　理　台	種別 *1*＝○○	箇所				
つ　り　戸　棚	種別 *1*＝○○	箇所				
水　切　棚	種別 *1*＝○○	箇所				
流　し　水　切	種別	m				
排　気　フ　ー　ド	種別	箇所				
トイレブースパネル	種別 型式	m2				
〃　戸	○○×○○	箇所				
アコーディオンドア	種別 ○○×○○	式	1			
既　製　間　仕　切	種別	式	1			
黒　板	種別 ○○×○○	箇所				
掲　示　板	種別 ○○×○○	箇所				
室　名　札	ア○　材質○○○ ○○×○○	箇所				
庁　内　案　内　板	ア○　材質○○○ ○○×○○	箇所				
各　階　案　内　板	ア○　材質○○○ ○○×○○	箇所				
ピ　ク　ト　グ　ラ　フ	ア○　材質○○○ ○○×○○	箇所				
暗　幕	種別	式	1			
カ　ー　テ　ン　レ　ー　ル	○製	m				
ベネシャンブラインド	スラット幅○ ○製	m2				
ブラインドボックス	○製	m				
防　煙　た　れ　壁		式	1			
煙　突　成　形　パ　イ　プ	ア○　径○	m				
煙　突　回　り　金　物　類		式	1			
鍵　箱	○製　○個用	箇所				
実　験　台	材質　○○×○○	箇所				
計						

（注）１　一式で計上するもので（アコーディオンドア、既製間仕切等）、種別、形状等が少ない場合には「箇所」で計上することができる。

２　室名等を項目欄に記載する場合は、共通のものの後に階数にしたがって記載する。

３　外部、内部に区分する。

ＡＭ－〇　第１号内訳書　空調機器設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
直だき吸収冷温水器	ＲＨ-〇、〇〇形 冷〇ｋＷ　暖〇ｋＷ	基				特記仕様書、図面、標準仕様書による付属品一式、試運転調整費を含む。
冷　却　塔	ＣＴ-〇、〇〇形 〇ｋＷ	基				特記仕様書、図面、標準仕様書による付属品一式を含む。
オイルポンプ	ＰＯ－〇、〇〇形 〇ｋＷ	台				同上
冷温水循環ポンプ	ＰＣＨ－〇 〇φ×〇ℓ／分× 〇ｍ×〇ｋＷ	台				同上
冷却水ポンプ	ＰＣＤ－〇 〇φ×〇ℓ／分× 〇ｍ×〇ｋＷ	台				同上
開放式膨張タンク	ＴＥ－〇 架台〇Ｈ	基				同上
地下オイルタンク	ＴＯ－〇、容量	基				同上
オイルサービスタンク	ＴＯＳ－〇、容量 架台〇Ｈ	基				同上
冷温水ヘッダー（往）	ＨＣＨ－〇 〇〇φ×〇〇㎜	基				同上
冷温水ヘッダー（還）	ＨＣＨＲ－〇 〇〇φ×〇〇㎜	基				同上
コンパクト形 空気調和機	ＡＣＣ－〇、〇ｍ3／ ｈ×〇Ｐａ×〇ｋＷ	台				同上
ファンコイルユニット	〇形、ＦＣＵ－〇	式	1			同上
パッケージ形 空気調和機	ＡＣＣ－〇、〇〇形 冷〇ｋＷ、暖〇ｋＷ	台				同上
自動巻取形 エアーフィルター	〇ｍ3／ｈ×〇Ｐａ ×〇ｋＷ	台				同上
パネル形エアーフィルター	〇㎜×〇㎜×〇㎜	式	1			同上
鋼板製煙道	〇㎜×〇㎜×〇㎜	式	1			同上
煤煙濃度計		組				同上
油面制御装置		組				同上
遠隔油量指示計		組				同上
保温・塗装		式	1			
文字標識		式	1			
機器用基礎	コンクリート製	式	1			
搬入据付		式	1			
計						

ＡＭ－〇　第２号内訳書　ダクト設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
定風量ユニット	ＣＡＶ－〇、〇形	台				
ダクト工事		式	1			
たわみ継手		式	1			
チャンバー類		式	1			
吹出口		式	1			
吸込口		式	1			
ダンパー類		式	1			
温度計		式	1			温度計、風量測定口等
風量測定口		式	1			
消音工事		式	1			
保温塗装		式	1			
振れ止め支持		式	1			
防火区画貫通処理		式	1			
スリーブ		式	1			
計						

ＡＭ－〇　第３号内訳書　配管設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
配管工事		式	1			
弁類		式	1			
弁装置		式	1			
伸縮管継手		式	1			
防振継手		式	1			
フレキシブルジョイント		式	1			
計器類		式	1			温度計、圧力計等
排水金物		式	1			
断熱支持材		式	1			
保温塗装		式	1			
架台類		式	1			
振れ止め支持		式	1			
防火区画貫通処理		式	1			
スリーブ		式	1			特記仕様により計上する。 配管工事費×〇％
計						

ＡＭ－〇　第４号内訳書　自動制御設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
自動制御機器類		式	1			
盤　　類		式	1			
計装工事		式	1			
調整費		式	1			
諸雑費		式	1			
計						

ＡＭ－〇　第５号内訳書　総合調整費

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
総合調整		式	1			
計						

ＡＭ－〇　第６号内訳書　換気機器設備　ＡＭ－〇　第７号内訳書　ダクト設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
送風器	ＦＳ－〇、〇ｍ3／ｈ×〇Ｐａ×〇ｋＷ	台				特記仕様書、図面、標準仕様書による付属品一式を含む。
排風器	ＦＥ－〇〇ｍ3／ｈ×〇Ｐａ×〇ｋＷ	台				同上
排風器	ＦＥ－〇、〇〇製〇ｍ3／ｈ×〇Ｐａ×〇ｋＷ	台				同上
圧力扇	ＦＶ－〇、〇〇φ〇ｋＷ	台				同上
換気扇	ＦＶ－〇、〇〇φ〇ｋＷ	台				同上
全熱交換ユニット	ＦＥＸ－〇、〇〇形〇ｍ3／ｈ×〇Ｐａ×〇ｋＷ	台				同上
ドラフトチャンバー	〇〇形（排ガス洗浄装置付）〇ｍ×〇ｍ〇ｍ	台				同上
機器用基礎	コンクリート造	式	1			
搬入裾付		式	1			
計						

項　　目	形　　状	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
ダクト工事		式	1			
たわみ継手		式	1			
チャンバー類		式	1			
排気フード	○○製	式	1			
吹出口		式	1			
吸込口		式	1			
ダンパー類		式	1			
風量測定口		式	1			
消音工事		式	1			
保温		式	1			
塗装		式	1			
振れ止め支持		式	1			
防火区画貫通処理		式	1			
計						

ＡＭ－○　第８号内訳書　総合調整費

項　　目	形　　状	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
総合調整		式	1			
計						

ＡＭ－○　第９号内訳書　衛生器具設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
衛生器具設備		式	1			
計						

ＡＭ－〇　第10号内訳書　給水設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
（イ）屋内設備						
揚水ポンプ	ＰＷ－〇、〇φ×〇ℓ／分×〇ｍ×〇ｋＷ	台				特記仕様書、図面、標準仕様書による付属品一式を含む。
受水タンク	ＴＷ－〇、〇〇形	基				同上
高置タンク	ＴＷＨ－〇、〇〇形	基				同上
配管工事		式	1			
弁類		式	1			
水栓類		式	1			
定水位調整弁	〇〇形、〇Ａ	個				
ボールタップ	〇〇式、〇Ａ	個				
電極棒		式	1			
弁装置		式	1			
フレキシブルジョイント		式	1			
防振継手		式	1			
保温塗装		式	1			
機器用基礎	コンクリート造	式	1			
振れ止め支持		式	1			
スリーブ		式	1			特記仕様により計上する。 配管工事費×〇％
文字標識		式	1			
搬入裾付		式	1			
小　　計						
（ロ）屋外設備						
配管工事		式	1			
弁類		式	1			
量水器		式	1			
量水器桝		式	1			
弁桝		式	1			
地中埋設標		式	1			
地中埋設テープ		式	1			
土工事		式	1			
公共水道本管接続工事		式	1			
小　　計						
計	（イ）＋（ロ）					

ＡＭ－〇　第11号内訳書　排水設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
（イ）屋内設備						
排水ポンプ	ＦＤ－〇、〇φ×〇ℓ／分×〇ｍ×〇ｋＷ	台				特記仕様書、図面、標準仕様による付属品一式を含む。
配管工事		式	1			
排水金具類		式	1			
満水試験継手		式	1			
保温塗装		式	1			
揺れ止め支持		式	1			
搬入裾付		式	1			
スリーブ		式	1			特記仕様により計上する。 配管工事費×〇％
小　　計						
（ロ）屋外設備		式	1			
配管工事		式	1			
桝類		式	1			
土工事		式	1			
小　　計						
計	（イ）＋（ロ）					

ＡＭ－〇　第12号内訳書　給湯設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
貯湯式電気温水器	ＷＨＥ－〇、〇号	基				特記仕様、図面、標準仕様書による付属品一式を含む。
ガス湯沸器	ＷＨＢ－〇、〇号	式	1			
配管工事		式	1			
弁類		式	1			
水栓類		式	1			
フレキシブルジョイント		式	1			
保温塗装		式	1			
振れ止め支持		式	1			
裾付		式	1			
スリーブ		式	1			特記仕様により計上する。 配管工事費×〇％
計						

ＡＭ－〇　第13号内訳書　給水設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
(イ) 屋内消火栓設備						
消火ポンプユニット	ＰＦＵ－〇、〇φ×〇ℓ／分×〇ｍ×〇ｋＷ	台				特記仕様書、図面、標準仕様書による付属品一式を含む。
消火用充水タンク	ＴＦ－〇	台				同上
屋内消火栓箱	ＨＢ－〇、〇製	組				同上
放水口格納箱	Ｈ〇－〇〇	組				
配管工事		式	1			
弁類		式	1			
テスト弁		式	1			
フレキシブルジョイント		式	1			
塗装工事		式	1			
機器用基礎	コンクリート造	式	1			
搬入裾付		式	1			
振れ止め支持		式	1			
スリーブ		式	1			特記仕様により計上する。 配管工事費×〇％
小　　計						
(ロ) 屋外消火栓設備						
消火ポンプユニット	ＰＦＵ－〇、〇φ×〇ℓ／分×〇ｍ×〇ｋＷ	台				特記仕様書、図面、標準仕様書による付属品一式を含む。
屋外消火栓箱	ＨＢ－〇、〇製	組				同上
配管工事		式	1			
標識柱	ＨＤ	個				
弁類		式	1			
フレキシブルジョイント		式	1			
土工事		式	1			
防錆塗装		式	1			
機器用基礎	コンクリート造	式	1			
搬入裾付		式	1			
小　　計						
(ハ) 特殊ガス消火設備						
機器		式	1			
配管材料		式	1			
労務費		式	1			
運搬費		式	1			
調整費		式	1			
諸雑費		式	1			
小　　計						
計	（イ）＋（ロ）＋（ハ）					

ＡＭ－〇　第14号内訳書　液化石油ガス設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
自動切換装置		式	1			特記仕様書、図面、標準仕様書による付属品一式を含む。
配管工事		式	1			
ガス栓類		式	1			
塗装工事		式	1			
スリーブ		式	1			特記仕様により計上する。 配管工事費×〇％
振れ止め支持		式	1			
計						

ＡＭ－〇　第15号内訳書　分析ガス設備（水質試験室用）

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
機械設備		式	1			
配管材料		式	1			
労務		式	1			
運搬		式	1			
調整		式	1			
諸雑費		式	1			
計						

ＡＭ－〇　第16号内訳書　昇降機設備　（エレベーター設備）

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
巻　上　機	○kg、○m/分	台				そらせ車、捲上機械共通台盤ブレーキ・電動機等一式
マシンビーム		台				
受電盤・制御盤	○式、 ○停止、○階床	台分	1			
地震時管制運転装置	○段設定	式	1			
地震感知器	○級	個				
火災時管制運転装置		式	1			
自家発時管制運転装置		式	1			
かご	○形、 ○製、○仕上	台				戸の開閉装置、安全装置、操作盤、インターホン、扇風機、かごの戸、かごの敷居等一式
身体障害者用付加仕様		式	1			特記仕様等、図面、標準仕様による付加仕様。専用乗場ボタン、視覚障害者装置等
三　方　枠	○製、○仕上	か所				
幕　板	○製、○仕上	か所				
敷　居	○製	か所				
乗場の戸	○式、○戸 ○製、○仕上	か所				ドアインターロックスイッチ
乗場ボタン	○式、○形カバー ○製、○仕上	か所				
インジケータ	○式、○形カバー ○製、○仕上	か所				
レ　ー　ル	かご用kgレール おもり用kgレール	か所				レールブラケット、サポート共
主　索	かご用○径 おもり用○径	台分				張力平衡用ばね、ロープ重量の補償装置共
つり合おもり		台分				ガイドシュー、レール、サポート共
安全装置		台分				リミットスイッチ、ファイナルリミットスイッチ、過速安全装置等
緩衝装置	ばね式、 油圧式等の別	台分				受台共
インターホン	外部○カ所	式	1			
電気配管配線		式	1			
消耗品雑材料		式	1			砂・セメント・消耗品等
労　務　費		式	1			調整費を含む。
運　搬　費		式	1			荷造費を含む。
諸　雑　費		式	1			
計						［駆動方式×運転操作方式×積載荷重×定格速度×停止箇所×台数等を記載する。］

ＡＭ－〇　第17号内訳書　昇降機設備　（小荷物専用昇降機設備）

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
巻　上　機	○kg、○m／分	台				付属器具一式を含む。
マシンビーム		台				同上
受電盤・制御盤	○式、 ○停止、○階床	台分				同上
か　ご	○形、 ○製、○仕上	台				同上
三　方　枠	○形 ○製、○仕上	か所				同上
敷居又は膳板	○製、○仕上	台				同上
出し入れ口の戸	○製、○戸 ○製、○仕上	台				同上
操　作　盤	○形、○形カバー ○製、○仕上	台				同上
レ　ー　ル		台分				同上
主　索		台分				同上
つり合おもり		台分				同上
安　全　装　置		台分				同上
インターホン		台				
電気配管配線		式	1			
消耗品雑材料		式	1			
労　務　費		式	1			
運　搬　費		式	1			
諸　雑　費		式	1			
計						［交流○段変速×制御方式×積載荷重×速度×停止箇所×台数等を記載する。

ＡＥ－〇　第１号　内訳書　電灯設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額(円)	摘　　要
（1）機器取付工事						
a)　機　　器						
主　幹　盤	形式・名称・記号	面				
分　電　盤	形式・名称・記号	面				
実　験　盤	形式・名称・記号	面				
小　計						
b)　施　工　費		式	1			
小　計						
計	a) ＋ b)					
（2）幹　線						
配　管　配　線		式	1			
低圧ケーブル		式	1			
ボックス類		式	1			
金属ダクト	形式〇〇 寸法〇×〇×〇	式	1			
ケーブルラック	名称・寸法・仕上	式	1			
計						
（3）二次配線						
配　管　配　線		式	1			
低圧ケーブル		式	1			
ボックス類		式	1			
配　線　器　具	〇〇製プレート共	式	1			
け　い　光　灯		式	1			
白　熱　灯		式	1			
水　銀　灯		式	1			
水銀灯昇降装置		式	1			
計						
(5)コンセント配線						
配　管　配　線		式	1			
ボックス類		式	1			
配　線　器　具	〇〇製プレート	式	1			
計						
合　計	(1)＋(2)＋(3)＋(4)					

ＡＥ－〇　第２号　内訳書　動力設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
(1) 機　　器						
a) 機　　器						
主　幹　盤	形式・名称・記号	面				
制　御　盤	形式・名称・記号	面				
監　視　盤	形式・名称・記号	面				
小　　計						
b) 施　工　費						
施　工　費		式	1			
小　　計						
計	a) ＋ b)					
(2) 幹　　線						
配　管　配　線		式	1			
低圧ケーブル		式	1			
ボックス類		式	1			
計						
(3)二　次　配　線						
配　管　配　線		式	1			
ボックス類		式	1			
低圧ケーブル		式	1			
配　線　器　具		式	1			
手元開閉器		式	1			
計						
合　　計	(1)＋(2)＋(3)					

ＡＥ－〇　第３号　内訳書　避雷設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
突　　針	○○、 支持パイプ○○	式	1			
避　雷　導　線	○○mm2	式	1			
むね上げ導体	厚○×幅○ 支持ボトル共	式	1			
接　地　端　子　箱	○○製	式	1			
保　護　管	○○管	式	1			
接　地　工　事	接地極・埋設標共	式	1			

ＡＥ－○　第４号　内訳書　電話設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
（１） 機器取付工事						
a）機　　器						
交　換　機	形式○○形○○式 内線○／○回線	式	1			試験器、予備品を含む。
本配線盤	形式・○回線	面				
電源装置	形式・蓄電池容量	式	1			
局線表示盤	○○窓	面				
電　話　機		式	1			電話配線に計上する場合は削除する。
小　　計						
b）施　工　費						
施　工　費		式	1			
小　　計						
計	a）＋ b）					
（２）工事材料						
配管配線		式	1			
ボックス類		式	1			
ケーブル		式	1			
配線器具		式	1			
ワイヤプロテクタ	○○製○号	式	1			
端子盤	名称・記号	式	1			
電　話　機		式	1			機器取付工事に計上する場合は削除する。
電話機収納箱	○○形	式	1			
ケーブルラック	名称・寸法・仕上	式	1			
接地工事	（接地極埋設票共）	式	1			
計						
合　　計	(1)＋(2)					

ＡＥ－○　第５号　内訳書　電気時計設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
(1)機器取付工事						
親時計	形式・記号	台				
小　　計						
(2) 工事材料						
配管配線		式	1			
ボックス類		式	1			
配線器具		式	1			
端子盤		式	1			
子時計		式	1			
小　　計						
合　　計	(1)＋(2)					

ＡＥ－○　第６号　内訳書　拡声設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
（１）　機器取付工事						
a）機　　器						
増　幅　器	形式・組込機器	台				
非常放送用増幅器	形式・組込機器・定格出力	台				
小　　計						
b）施　工　費						
施　工　費		式	1			
小　　計						
計	a）＋ b）					
（２）　工　事　材　料						
配　管　配　線		式	1			
ボ　ッ　ク　ス　類		式	1			
配　線　器　具		式	1			
端　子　盤		式	1			
ス　ピ　ー　カ　ー		式	1			
ア　ッ　テ　ネ　ー　タ	プレート共	式	1			
マ　イ　ク　ロ　ホ　ン	スタンド共	式	1			
計						
合　　計	(1)＋(2)					

ＡＥ－○　第７号　内訳書　インターホン設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
配　管　配　線		式	1			
ケ　ー　ブ　ル		式	1			
ボ　ッ　ク　ス　類		式	1			
配　線　器　具		式	1			
イ　ン　タ　ー　ホ　ン		式	1			
計						

ＡＥ－○　第８号　内訳書　テレビ共同受信設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価(円)	金額(円)	摘　　要
配　　管		式	1			
同　軸　ケ　ー　ブ　ル		式	1			
ボ　ッ　ク　ス　類		式	1			
直　列　ユ　ニ　ッ　ト		式	1			
機　器　収　容　箱		式	1			
混　合　・　分　岐　器		式	1			
増　幅　器		式	1			
分　配　器		式	1			
ア　ン　テ　ナ		式	1			
ア　ン　テ　ナ　マ　ス　ト	○○～○	式	1			
計						

ＡＥ－〇　第９号　内訳書　火災報知（防災）設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　要
（1）　機器取付工事						
a）機　　器	形状・〇〇形 Ｐ－〇・〇〇回線	面				
受　信　機	〇〇形・〇〇回線	面				
副　受　信　機	〇〇形・〇〇回線	面				
運　動　制　御　器	〇〇回線	面				
小　　計						
b）施　工　費		式	1			
小　　計						
計	a）＋ b）					
（2）　工　事　材　料						
a）火　災　報　知						
配　管　配　線		式	1			
ケ　ー　ブ　ル		式	1			
ボ　ッ　ク　ス　類		式	1			
熱　感　知　器		式	1			
煙　感　知　器		式	1			
試　験　器	〇個用	式	1			
空　気　管	塗装・裸	式	1			
綜　合　盤	〇級発信機・表示灯 ・電鈴〇〇φ	式	1			
電　　鈴		式	1			
表　示　灯		式	1			
立　会　検　査　費		式	1			
小　　計						
b）防　排　煙						
配　管　配　線		式	1			
ケ　ー　ブ　ル		式	1			
ボ　ッ　ク　ス　類		式	1			
煙　感　知　器		式	1			
自　動　閉　鎖　装　置	〇〇用	式	1			
小　　計						
計	a）＋ b）					
合　　計	(1)＋(2)					

ＡＥ－○　第１０号　内訳書　防犯設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
配　管　配　線		式	1			
ボ　ッ　ク　ス　類	塗代カバー・プレート共	式	1			
受　　信　　機	形状・○○回線	面				
検　　知　　器		式	1			
計						

ＡＥ－○　第１１号　内訳書　構内配電線路

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
低　圧　ケ　ー　ブ　ル		式	1			
端　末　処　理　材		式	1			
保　　護　　管		式	1			
ハ　ン　ド　ホ　ー　ル		式	1			
マ　ン　ホ　ー　ル		式	1			
接　地　工　事	接地極・埋設標共	式	1			
地　中　線　埋　設　標		式	1			
土　　工　　事		式	1			
計						

ＡＥ－○　第１２号　内訳書　構内通信線路

構内配電線路に準ずる。

ＡＥ－○　第１３号　内訳書　屋外電灯設備

項　　目	形　　状	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
外　　灯		式	1			
外　灯　基　礎		式	1			
低　圧　ケ　ー　ブ　ル		式	1			
保　　護　　管		式	1			
ハ　ン　ド　ホ　ー　ル		式	1			
接　地　工　事	E_D	式	1			
土　　工　　事		式	1			
計						

参　考　資　料

（下水道用建築・建築設備）

設計標準歩掛表＜補足＞

第１　建築工事

１．揚重機械器具

（１）揚重機械器具に要する費用は次式により算出する。

揚重機械器具費＝〔存置日数（計画数量）〕×〔機械器具リース料（円／日）〕

（２）揚重機械器具の規格の選定は表－１を参考とし、機種の選定は施工条件等によるものとする。

（３）ＲＣ造一般構造物の場合

イ　揚重機械器具等の設置・移動の作業が支障なく行える敷地を条件としたものである。

ロ　存置日数は、構造関係、仕上げ関係並びに地下階、地上階及び塔屋に区分し表－１の存置日数から次式により算出し合計を、小数点以下１位を切り上げ整数止めとする。

存置日数＝面積補正対象日数×面積補正係数＋固定日数

ハ　地下階及び地上階の面積補正係数は次式により算出して、小数点以下３位を四捨五入し小数点以下２位止めとする。

面積補正係数＝建築面積／７５０m2

ニ　塔屋階の面積補正係数は次によるものとし、対象面積は塔屋１階の床面積とする。

面積補正係数＝対象面積１００m2未満：１．００、１００～３００m2：１．２５、
３００～５００m2未満：１．５０

ホ　塔屋階は仕上げ関係の存置日数を形状しないものとする。

ヘ　階数が２階以下かつ建築面積が250m2未満の場合は、規格を16t以下とし、
存置日数は実状に応じて適切に補正する。

ト　障害物等で揚重作業に支障がある場合は、実状に応じて適切に設定する。

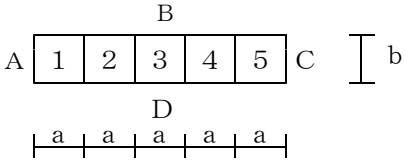
表－１　揚重機械器具の規格及び存置日数

	建物規模	規格（ｔ）	存置日数（標準）					
			構造関係		仕上関係		合　計	
			面積補正対象日数	固定日数	面積補正対象日数	固定日数	面積補正対象日数	固定日数
〔ＲＣ造〕建　物								
	地下１階建	25[16]	9.5		[6.4]		9.5[6.4]	
	１階建	25[16]	13.6	5.2	[2.3]		13.6[2.3]	5.2
	２階建	25[16]	18	10	[5.4]		18[5.4]	10
	３階建	25[16]	22.4	14.8	[8.5]		22.4[8.5]	14.8
	４階建	25	26.8	19.6				
	５階建	25	31.2	24.4				
	塔屋１階	地上階による	4				4	

注　１　本表は、４方向から作業できる場合を想定しており、作業条件がこれと異なる場合は、別途検討し、規格の選定を行う。
　　２　一層の高さが二層程度以上ある建物は、コンクリート打設回数を階建とみなす。
　　３　ポンプ棟等吹抜面積が大きい場合には、使用日数を低減する。低減は０．８倍とする。
　　４　機械棟・ポンプ棟等仕上げが少ない建物は、仕上使用日数を低減する。低減は０．７倍とする。
　　５　[]は仕上げ用を示す。

参考：建築積算のための仮設計画標準（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）

（４）ＲＣ造覆蓋におけるトラッククレーンの規格の選択



覆蓋の荷揚げ機械は、作業条件により大きく異なるので十分考慮する必要がある。

下記に示したものは、標準規格を選択するための吊上げ距離の算出をしめしたものである。

	作業条件		規格の選択
	作業できる場所	作業出来ない場所	
１	Ｄ	ＡＢＣ	吊上げ距離＝２ｂ／３
２	ＡＣ	ＢＤ	工区ごとに吊上げ距離を算出する。 1.5工区　２ａ／３ 2.4工区　ａ＋（２ａ／３） ３工区　２ａ＋（２ａ／３）
３	ＢＤ	ＡＣ	１に同じ

（５）改修工事における揚重機械器具の費用は、機種の選定及び存置日数は、施工内容、施工条件等により機種を選定する。

下水道用建築・建築設備請負工事設計書作成マニュアル

第１　共通事項

１．一般事項

（１）下水道用建築・建築設備請負工事設計書作成マニュアルは、設計書の構成方法及び数量の算出方法を示したものである。

（２）構成方法は、主にポンプ場・処理場の建物を対象としている。よって異なる場合は、必要に応じ適切なものとする。

（３）数量の積算は、建築工事については「公共建築数量積算基準」（国土交通省大臣官房官庁営繕部制定）によるものとし、建築設備工事については「公共建築設備数量積算基準」（国土交通省大臣官房官庁営繕部制定）によるものとする。なお、本書では上記の不足箇所を補充している。

２．設計書の構成

（１）設計書の書式には、「工事別内訳」、「部分別内訳」があるが、原則として、「工事別内訳」とする。ただし、改修工事等で「部分別内訳」の方が合理的な場合は、この限りではない。

（２）設計書の構成は、原則として、「工事設計書」、「本工事費内訳書」及び「内訳書」とする。

１）工事設計書

工事設計書は、通常、設計図の仕様書に従い記載する。

２）本工事費内訳書

①　本工事費内訳は直接工事費と共通費に区分する。直接工事費については、設計書、仕様書等の指示に従って、主として材料、職種別による。

共通費については、共通仮設費、現場経費及び一般管理費等に区分して計上する。

②　記載事項については、一式で計上し、適用欄には、内訳書の番号及びその他必要事項等を記入する。

３）内訳書

①　内訳書は、本工事費内訳書に計上した直接工事費をさらに細分したものであり、材料費、労務費、仮設費、運搬費等を計上するか、そのいくつかを複合した複合単価又は複合単価を合成した合成単価としたものを計上する。

②　記載事項については、各内訳項目ごとに形状、単位、数量、単価、金額を下記のとおり記載する。また、機械器具費等で、各内訳項目に共通に使用され費用を分担しにくいものは、直接仮設の機械器具費に含ませて計上する。

（ア）項　目

項目欄には、各工事に属する項目名称を記載する。

（イ）形　状

形状欄には、必要に応じ内訳の内容、箇所、種類、工法、下地、規格、寸法等を記載する。項目の中に含まれるものを特に示す場合は、「○○共」又は「○○を含む」と記載する。

（ウ）単　位

単位欄には、積算数量の単位を記載する。

（エ）数　量

数量欄には、設計数量、所要数量、計画数量あるいは、一式で計上する。

（オ）摘　要

摘要欄には、必要に応じ、図面番号、詳細番号を記入する。

第２　建築工事

第１項　直接仮設

１．１　遣り方

土工事を建築工事で発注する場合に計上する。

１．２　外部足場

① 土木・建築工事を同時に発注する場合は、原則として、土木工事の足場を利用できるものとする。ただし、土木工事の足場を建築工事が施工工程により利用できない場合は、建築工事で足場を設置する。

② 外部足場は、下記のとおり、設置場所により分類する。

本足場	建物本体の地上部に設置する足場
地下階足場	建物本体の地下部に設置する足場
ドライエリア足場	ドライエリア部に設置する足場
はね出し足場	キャンティ部に設置する足場
脚立足場	ベランダ等で補助的に設置する足場

③ 足場の仮設方法（種類、範囲）は、作業性、安全性を考慮して定める。

④ 足場は、階建、高さにより、下記のように区分する。

イ　一層の高さが二層程度以上ある建物は、コンクリート打設回数を階建とみなす。

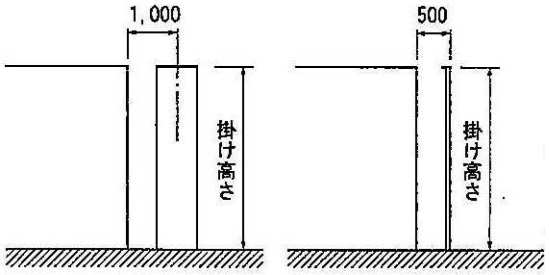
ロ　庇がＲＣ造の場合は、建物本体の足場の種類及び存置日数に合わす。

⑤ 足場掛け面積の算出（脚立足場を除く。）

足場面積＝掛け長さ×掛け高さ

掛け長さ：枠組足場は外壁面より1.0m、抱足場は0.5m離れた位置として算出する。

掛け高さ：本足場の掛け高さは、原則として現地盤高さからパラペット又は軒までの高さとする。ただし、足場の設置する地盤高さは、土木工事の施工計画（施工工程等）に関連するので、それにより定める。



イ　本足場　　ロ　抱足場

図１－１　外部足場掛け面積の算出

はね出し足場の場合は、対象になる高さより、1.7m減じた高さを掛け高さとする。

（１）地下階足場、ドライエリア足場

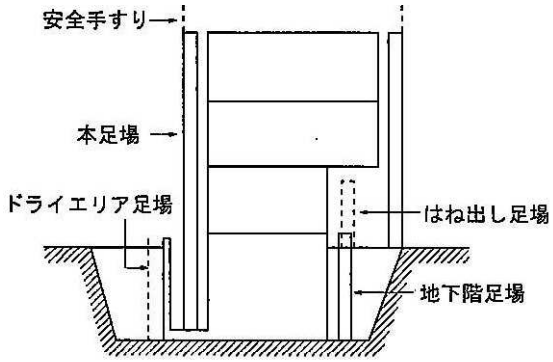
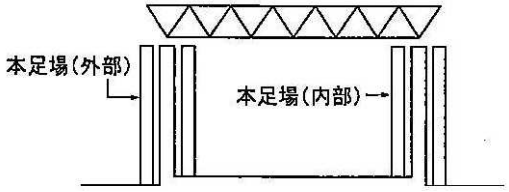


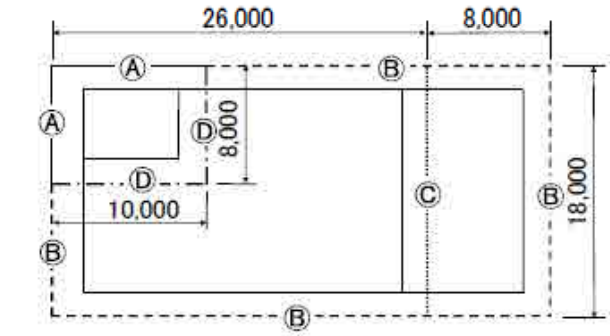
図１－２　外部足場の架設方法



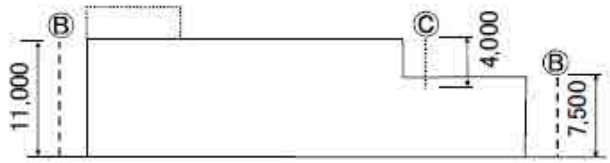
・壁部分の構造体の種類及び仕上材の種類により足場の有無、種類を選択する。
・天井仕上材がある場合は、仕上支保工を設置する。

図１－３　特殊建物の本足場の架設方法

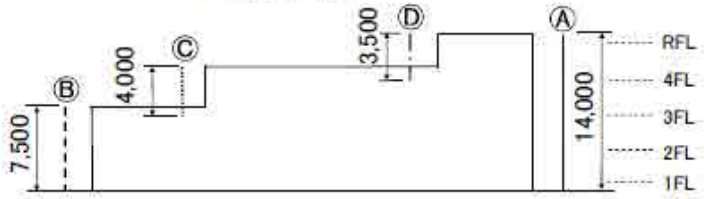
外部足場の計測、計算例



平 面 図



南 立 面 図



北 立 面 図

Ⓐ　平均存置日数　175×0.95=166.25→167日
4階建=175日
建築面積による補正係数 512m2=0.95
歩掛　900枠(500+240布枠)、足場高さ22m未満
数　量　10.0×14.0=140.0
8.0×14.0=112.0
計 252.0

Ⓑ　平均存置日数　175×0.95=166.25→167日
4階建=175日
建築面積による補正係数 512m2=0.95
歩掛　900枠(500+240布枠)、足場高さ12m未満
数　量　16.0×11.0=176.0
8.0× 7.5= 60.0
26.0×11.0=286.0
8.0× 7.5= 60.0
10.0×11.0=110.0
18.0× 7.5=135.0
計 827.0

Ⓒ　平均存置日数　131×0.95=124.45→125日
2階建=131日
建築面積による補正係数 512m2=0.95
歩掛　900枠(500+240布枠)、足場高さ12m未満
数　量　18.0× 4.0= 72.0
計 72.0

Ⓓ　平均存置日数　109×0.95=103.55→104日
1階建=109日
建築面積による補正係数 512m2=0.95
歩掛　900枠(500+240布枠)、足場高さ12m未満
数　量　10.0× 3.5= 35.0
8.0× 3.5= 28.0
計 63.0

注　Ⓐ・Ⓑ部は、設置開始及び解体時期が同一と想定し、Ⓐ部の階数による平均存置日数とする。(Ⓐ・Ⓑ部は、足場高さにより歩掛が異なる。)
足場Ⓒ・Ⓓ部は、解体時期はⒶ部と同じだが設置開始時期が異なると想定し、Ⓒ・Ⓓ部はそれぞれのⒶ部までの階数による平均存置日数とする。

① 地下階足場、ドライエリア足場

イ 地下階足場の種類は、600枠500×１枚を標準とする。

ドライエリア足場の種類は本足場に準ずる。

ロ **図１－２**のドライエリア足場は、外面のみを示しているが、内面に必要な場合は設置する。

② 安全手すり

それぞれの足場の最上部に設置する。掛け長さは、それぞれの掛け長さとする。

（２） **はね出し足場**〔面積〕×〔複合単価〕

① 庇、キャンティ部に設置する足場である。ただし、小規模の場合は、本足場に含むものとみなす。

② 足場の種類は、**表１－１**による。

③ 足場の掛け高さは、対象となる高さに1.7m減じた高さとする。（**図１－４**）

表１－１ はね出し足場設置標準

足場の掛け高さ	対象となる出幅	単管抱足場	枠組		足場の列数
			900枠 500+240布枠	600枠 500×１枚	
1.8m≦h＜ 4.0m	1.0以上 2.0未満		○		１列
4.0m≦h＜ 8.0m	0.7 〃 1.0 〃	○			〃
	1.0 〃 2.0 〃		○		〃
	2.0 〃 3.5 〃		○		２列
8.0m≦h＜12.0m	0.7 〃 1.0 〃			○	１列
	1.0 〃 2.0 〃		○		〃
	2.0 〃 3.5 〃		○		２列

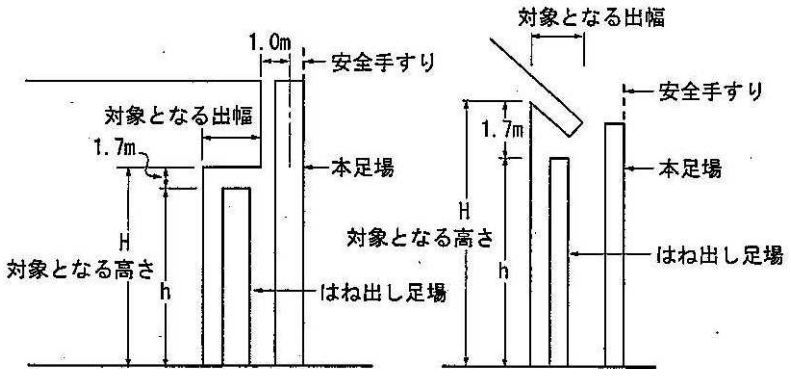


図１－４ はね出し足場の架設方法

１．３　内部躯体足場

型枠支保工受け〔重量〕×〔複合単価〕

①　型枠支保工受けは、床版にピット等の開口部がある場合に、支保工を受けるために設置する。H型鋼等の補助材である。

②　数量は、補助材の重量とする。

１．４　災害防止養生

（１）養生防護棚

①　近隣対策として、建物壁面より敷地境界線までの距離が５ｍ以内でかつ建物の高さが10m以上に設置する。

②　建物高さが地盤から10m以上の場合は１段設け、20m以上の高さの場合は２段以上設置する。

（２）落下防止蓋〔面積〕×〔複合単価〕

床版にピット等の開口部がある場合は、足場板等で開口部を塞ぎ落下防止とする。

ただし、その深さが0.5m未満の場合は、原則として、設けないものとする。（型枠用サポート受け、型枠支保工受け、脚立・本足場受けを設置した上に蓋を設ける。）

（３）滑落防止足場〔面積、長さ〕×〔複合単価〕

傾斜面（屋根等）で10/3を超える傾斜となる場合は、施工内容により滑落防止の措置を行う。